

武蔵村山市
地域福祉計画策定に向けたアンケート調査
結果報告書

令和8年3月
武蔵村山市

目 次

I アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方	1
II 市民アンケート調査結果	2
あなた自身のことについて	2
1 人とのつながりや地域の暮らしについて	7
2 日常生活の課題について	19
3 市民同士の支え合い、地域活動について	22
4 民生委員・児童委員、社会福祉協議会について	35
5 権利擁護支援について	42
6 災害対策について	53
7 福祉のまちづくりについて	60
8 地域福祉活動全般について	68
9 更生を支援するまちづくり（再犯防止）について	72
10 「ひきこもり状態」について	78
11 これからの施策について	83
III 団体・事業所アンケート調査結果	101
1 貴団体のことについて	101
2 地域福祉活動の取組状況について	109
3 活動を通して見える地域の状況について	118
4 地域福祉に関することについて	121
5 権利擁護支援について	126
6 福祉のまちづくりについて	128
7 更生を支援するまちづくり（再犯防止）について	130
8 自由記述	132

I アンケート調査の概要

I 調査の目的

本調査は、全国的に少子高齢化や人口減少が進行し、暮らしの支援ニーズが増加しているほか、課題の複雑化・多様化が問題となっている現在において、新たな地域福祉計画の策定に向けた基礎資料とするため実施しました。

2 調査概要

項目	市民アンケート調査	団体・事業所アンケート調査
調査対象者	武蔵村山市内在住の18歳以上の方より無作為抽出	市内で活動するボランティア団体及びNPO法人及び市内に所在する社会福祉法人
調査期間	令和7年10月7日(火)～10月24日(金)	令和7年10月7日(火)～10月24日(金)
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式及びWEB回答方式	郵送配布・郵送回収による記入方式及びWEB回答方式
配布数	3,000件	113件
有効回収数	1,094件(郵送回収839件、WEB255件)	67件(郵送回収49件、WEB18件)
有効回収率	36.5%	59.3%

3 報告書の見方

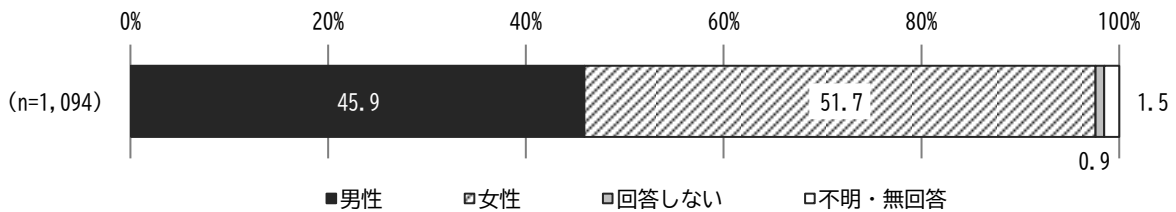
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇[自由記述]の内容が複数の分類に関係する場合は、【複数該当】として、関係するすべての分類に掲載しています。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

あなた自身のことについて

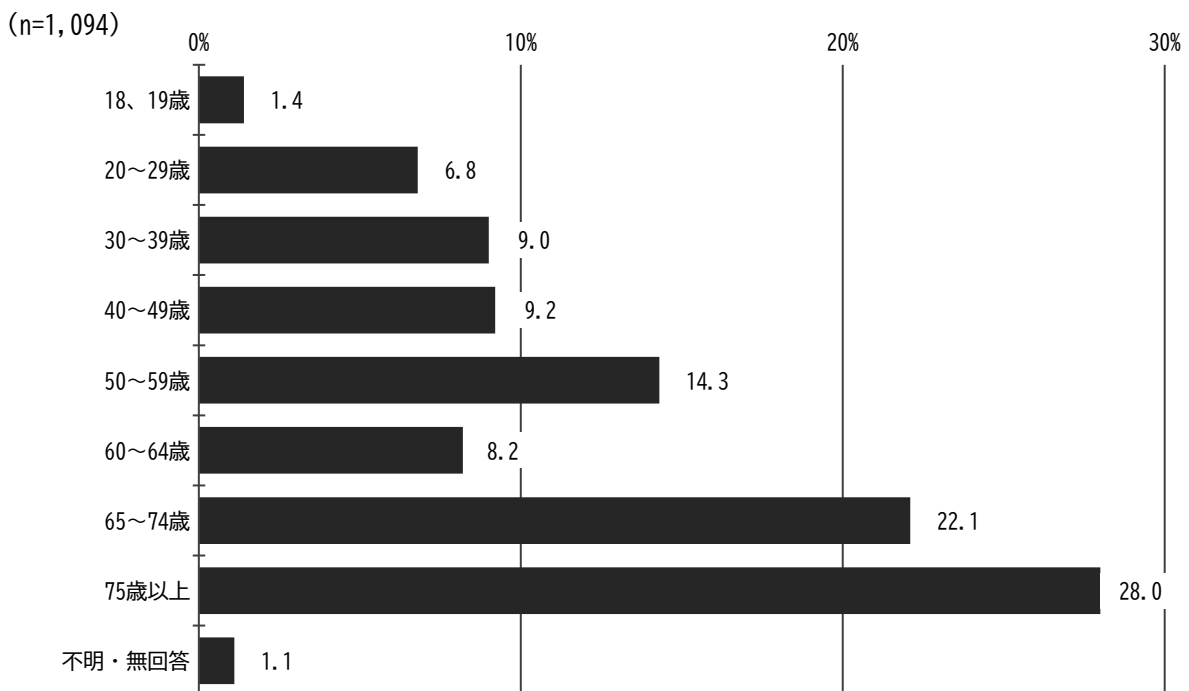
F1 あなたの性別についてお聞かせください。※現在の性自認でお答えください【○は1つだけ】

性別については、全体で「男性」が45.9%、「女性」が51.7%、「回答しない」が0.9%となっています。



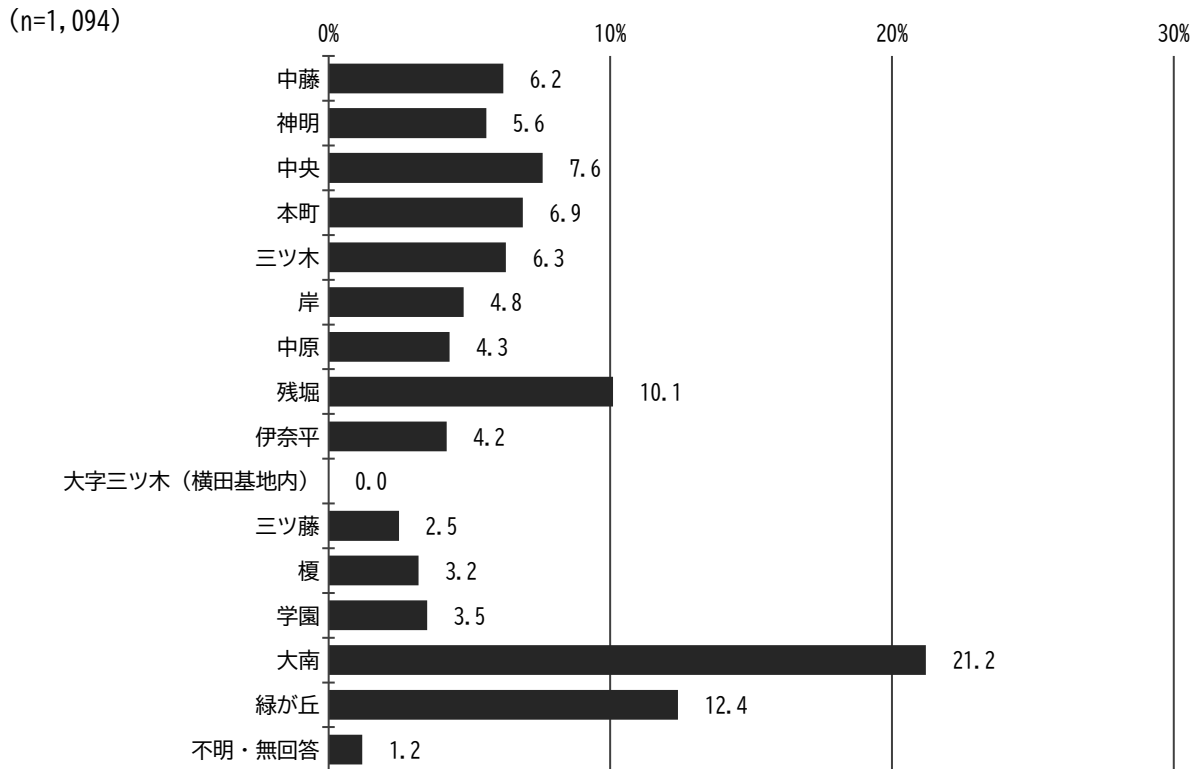
F2 あなたの年齢（令和7年8月1日現在）はどちらですか。【○は1つだけ】

年齢については、全体で「75歳以上」が28.0%と最も高く、次いで「65～74歳」が22.1%、「50～59歳」が14.3%となっています。



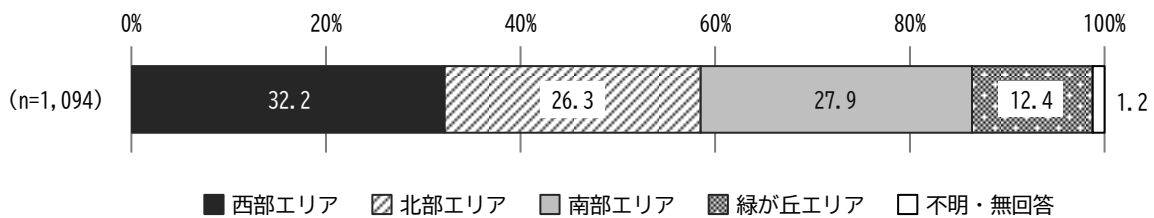
F 3 あなたのお住まいの地区はどちらですか。[○は1つだけ]

居住地区については、全体で「大南」が21.2%と最も高く、次いで「緑が丘」が12.4%、「残堀」が10.1%となっています。



【エリア別】

お住まいの地区を4つのエリア別にみると、「西部エリア」が32.2%と最も高く、次いで「南部エリア」が27.9%、「北部エリア」が26.3%となっています。



※エリアの内訳

【西部エリア】伊奈平、岸、残堀、中原、三ツ木、三ツ藤、大字三ツ木（横田基地内）

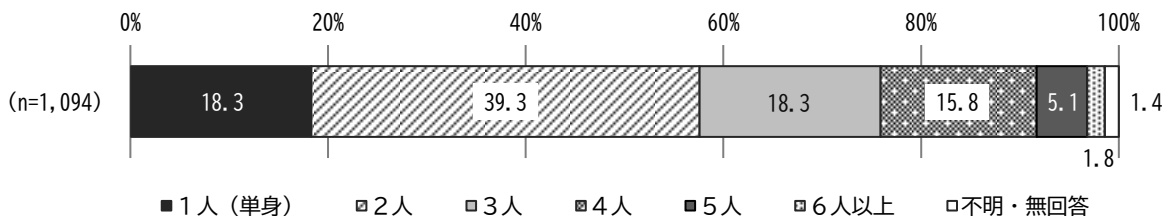
【北部エリア】神明、中央、中藤、本町

【南部エリア】榎、大南、学園

【緑が丘エリア】緑が丘

F 4 あなたの世帯の人数は何人ですか。[○は1つだけ]

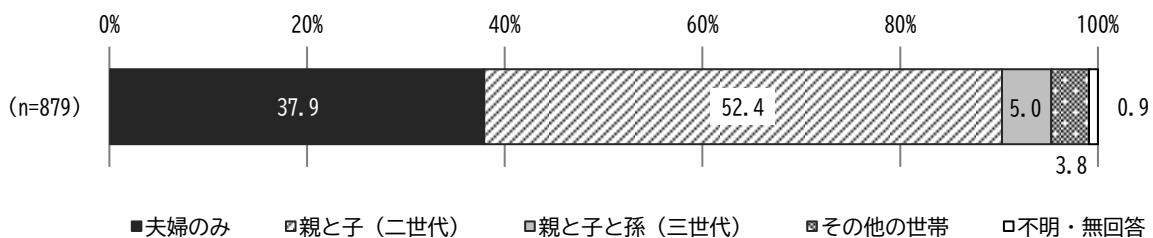
世帯人数については、全体で「2人」が39.3%と最も高く、次いで「1人(单身)」「3人」が18.3%となっています。



F 4で「1人(单身)」以外のいずれかを選択した方

F 4-1 あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。[○は1つだけ]

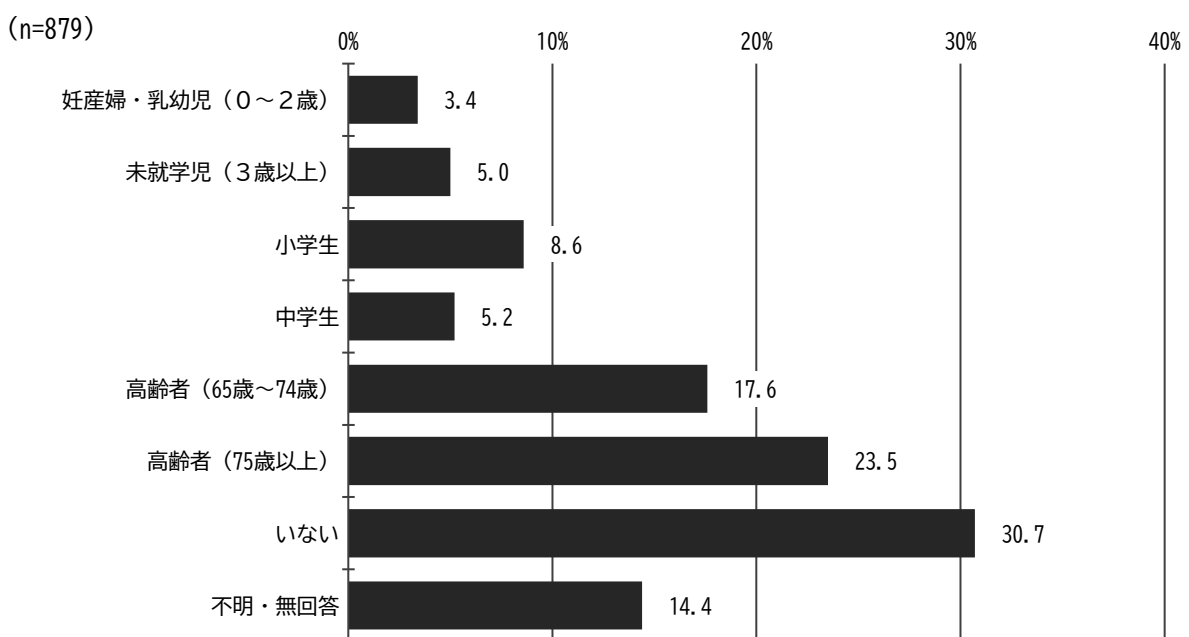
世帯構成については、全体で「親と子(二世帯)」が52.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が37.9%、「親と子と孫(三世帯)」が5.0%となっています。



F 4で「1人(单身)」以外のいずれかを選択した方

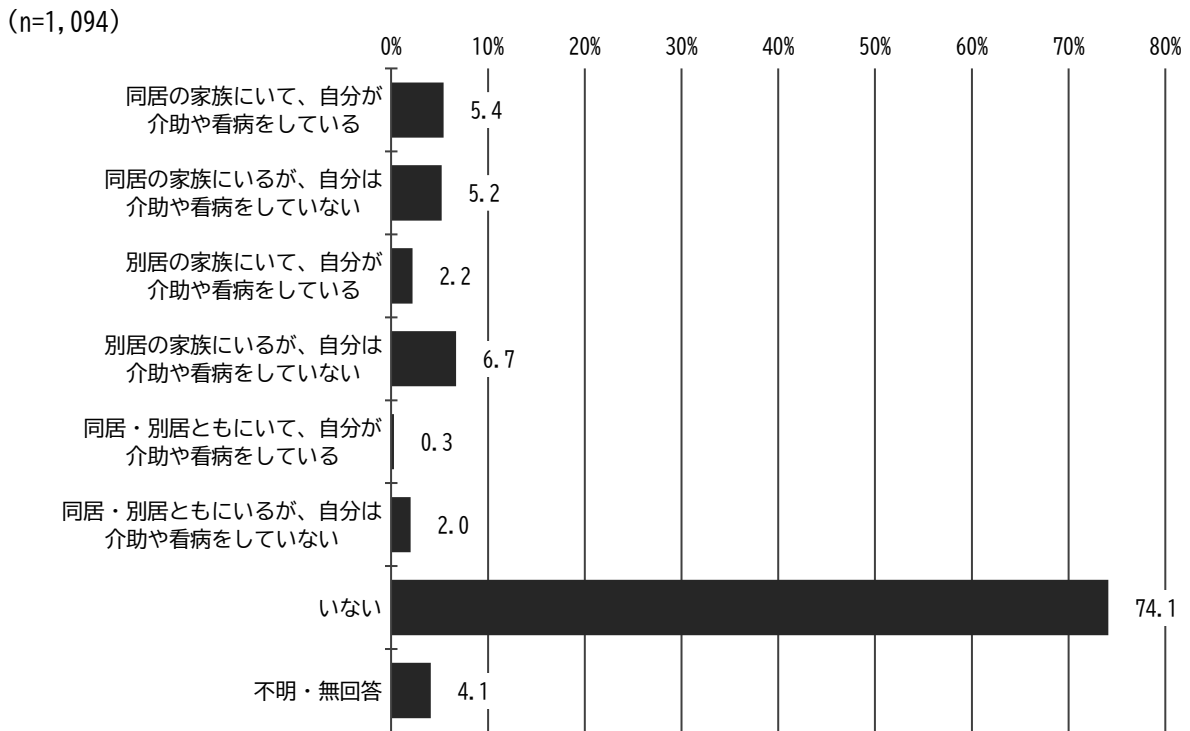
F 4-2 あなたを除いて、世帯に次の方はいらっしゃいますか。[あてはまるもの全てに○]

世帯員については、全体で「いない」が30.7%と最も高く、次いで「高齢者(75歳以上)」が23.5%、「高齢者(65歳~74歳)」が17.6%となっています。



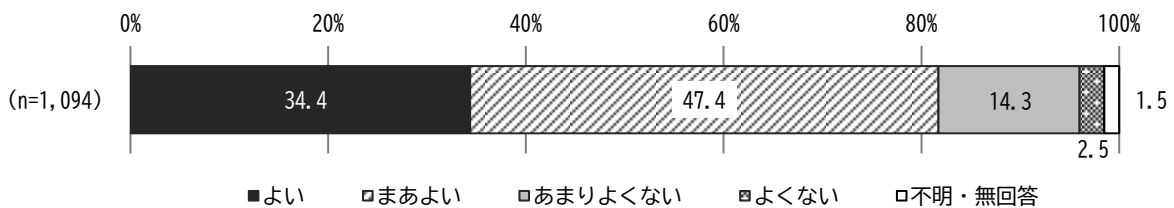
F 5 あなたのご家族の中で、介助や看病が必要な方はいらっしゃいますか。また、あなたが介助や看病をされていますか。[○は1つだけ]

家族に介助や看病が必要な方や、回答者が介助や看病をされているかについては、全体で「いない」が74.1%と最も高く、次いで「別居の家族にいて、自分は介助や看病をしていない」が6.7%、「同居の家族にいて、自分が介助や看病をしている」が5.4%となっています。



F 6 あなたの現在の健康状態はいかがですか。[○は1つだけ]

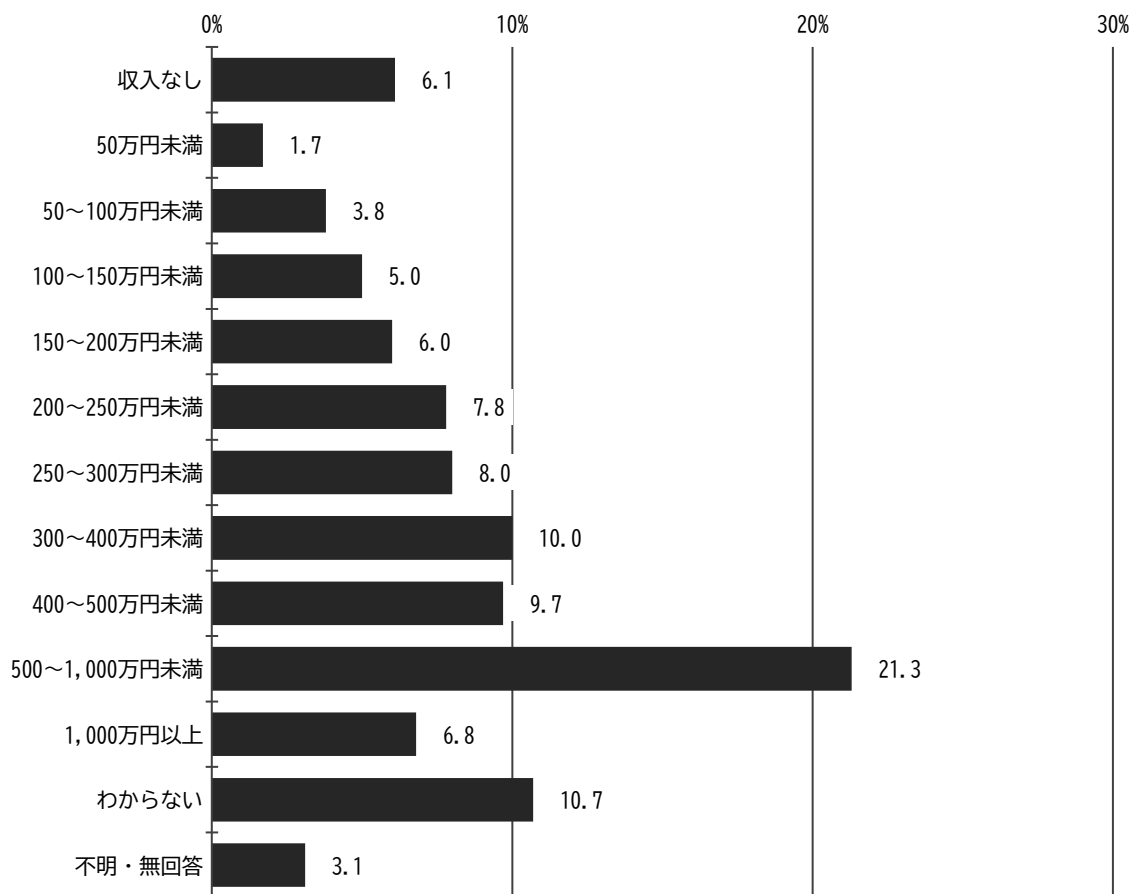
回答者の健康状態については、全体で「まあよい」が47.4%と最も高く、次いで「よい」が34.4%、「あまりよくない」が14.3%となっています。



F 7 あなたの世帯全体の令和6年中の収入額はどのくらいでしたか。[○は1つだけ]

世帯全体の令和6年中の収入額については、全体で「500～1,000万円未満」が21.3%と最も高く、次いで「わからない」が10.7%、「300～400万円未満」が10.0%となっています。

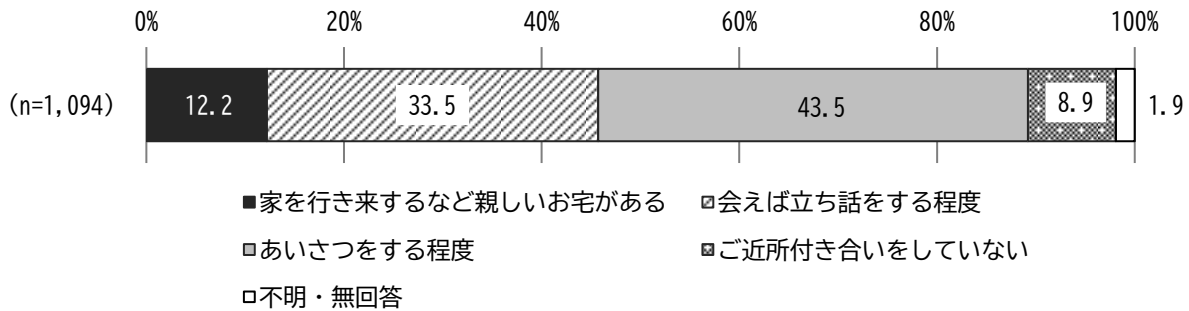
(n=1,094)



1 人とのつながりや地域の暮らしについて

問1 あなたは、ふだん隣近所の方との程度お付き合いしていますか。[○は1つだけ]

隣近所の方との付き合いの程度については、全体で「あいさつをする程度」が43.5%と最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」が33.5%、「家を行き来するなど親しいお宅がある」が12.2%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「あいさつをする程度」が最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度」となっています。

年代別にみると、「ご近所付き合いをしていない」が比較的若い世代で多く、特に「18～29歳」で21.3%となっています。

世帯構成別にみると、「家を行き来するなど親しいお宅がある」が「親と子と孫(三世代)」で30.3%と特に高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	家を行き来 するなど親 しいお宅が ある	会えば立ち 話をする程 度	あいさつを する程度	ご近所付き 合いをして いない	不明・無回 答
【性別】						
男性	502	7.0	34.3	48.4	9.6	0.8
女性	566	16.8	34.1	39.9	8.5	0.7
【年代別】						
18～29歳	89	2.2	9.0	67.4	21.3	0.0
30～39歳	98	10.2	23.5	51.0	15.3	0.0
40～49歳	101	10.9	30.7	45.5	12.9	0.0
50～59歳	156	5.1	29.5	58.3	6.4	0.6
60～64歳	90	8.9	25.6	52.2	12.2	1.1
65～74歳	242	12.4	36.0	43.4	7.0	1.2
75歳以上	306	20.9	48.7	25.2	3.9	1.3
【世帯構成別】						
1人(单身)	161	14.9	39.8	30.4	12.4	2.5
夫婦のみ	287	13.9	43.6	36.2	5.2	1.0
親と子(二世帯)	308	11.4	30.2	47.7	10.4	0.3
親と子と孫(三世帯)	33	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0
その他の世帯	27	18.5	14.8	66.7	0.0	0.0

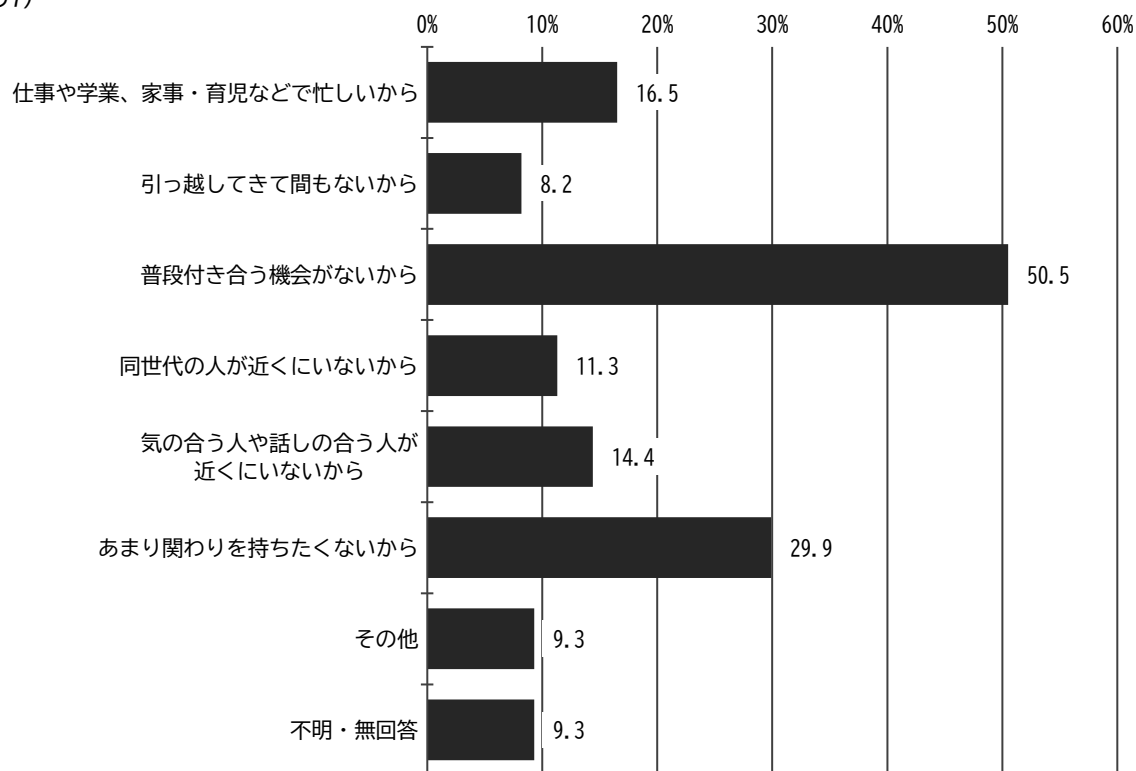
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問1で「ご近所付き合いをしていない」を選択した方

問1-1 ご近所付き合いをしていない理由は何ですか。[あてはまるもの全てに○]

近所付き合いをしていない理由については、全体で「普段付き合う機会がないから」が50.5%と最も高く、次いで「あまり関わりを持ちたくないから」が29.9%、「仕事や学業、家事・育児などで忙しいから」が16.5%となっています。

(n=97)



※その他の回答では、「病気や高齢等による外出が困難」や「時間帯が合わない」「関わる勇気がないから」「あまり興味がないから」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「普段付き合う機会がないから」が約5割で最も高くなっています。

年代別にみると、「仕事や学業、家事・育児などで忙しいから」が「30～39歳」で46.7%と特に高くなっています。

世帯構成別にみると、「普段付き合う機会がないから」が「親と子（二世帯）」で53.1%と特に高くなっています。

(単位：%)

	n (人)	仕事や学業、家事・育児などで忙しいから	引っ越してきて間もないから	普段付き合う機会がないから	同世代の人が近くにいないから	気の合う人や話しの合う人が近くにいないから	あまり関わりを持ちたくないから	その他	不明・無回答
【性別】									
男性	48	12.5	12.5	52.1	10.4	12.5	29.2	14.6	6.3
女性	48	20.8	4.2	50.0	12.5	16.7	29.2	4.2	12.5
【年代別】									
18～29歳	19	5.3	5.3	68.4	26.3	5.3	15.8	5.3	0.0
30～39歳	15	46.7	20.0	53.3	6.7	0.0	40.0	6.7	0.0
40～49歳	13	15.4	7.7	61.5	15.4	15.4	46.2	7.7	15.4
50～59歳	10	20.0	10.0	70.0	20.0	10.0	30.0	10.0	0.0
60～64歳	11	9.1	9.1	63.6	9.1	36.4	36.4	9.1	0.0
65～74歳	17	17.6	5.9	17.6	0.0	35.3	23.5	5.9	17.6
75歳以上	12	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	33.3
【世帯構成別】									
1人(単身)	20	10.0	15.0	25.0	10.0	10.0	15.0	15.0	20.0
夫婦のみ	15	20.0	0.0	33.3	6.7	13.3	33.3	20.0	0.0
親と子(二世帯)	32	21.9	3.1	53.1	6.3	15.6	31.3	6.3	9.4

◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

※クロス集計【世帯構成別】の「親と子と孫（三世帯）」、「その他の世帯」は回答が5件以下のため省略

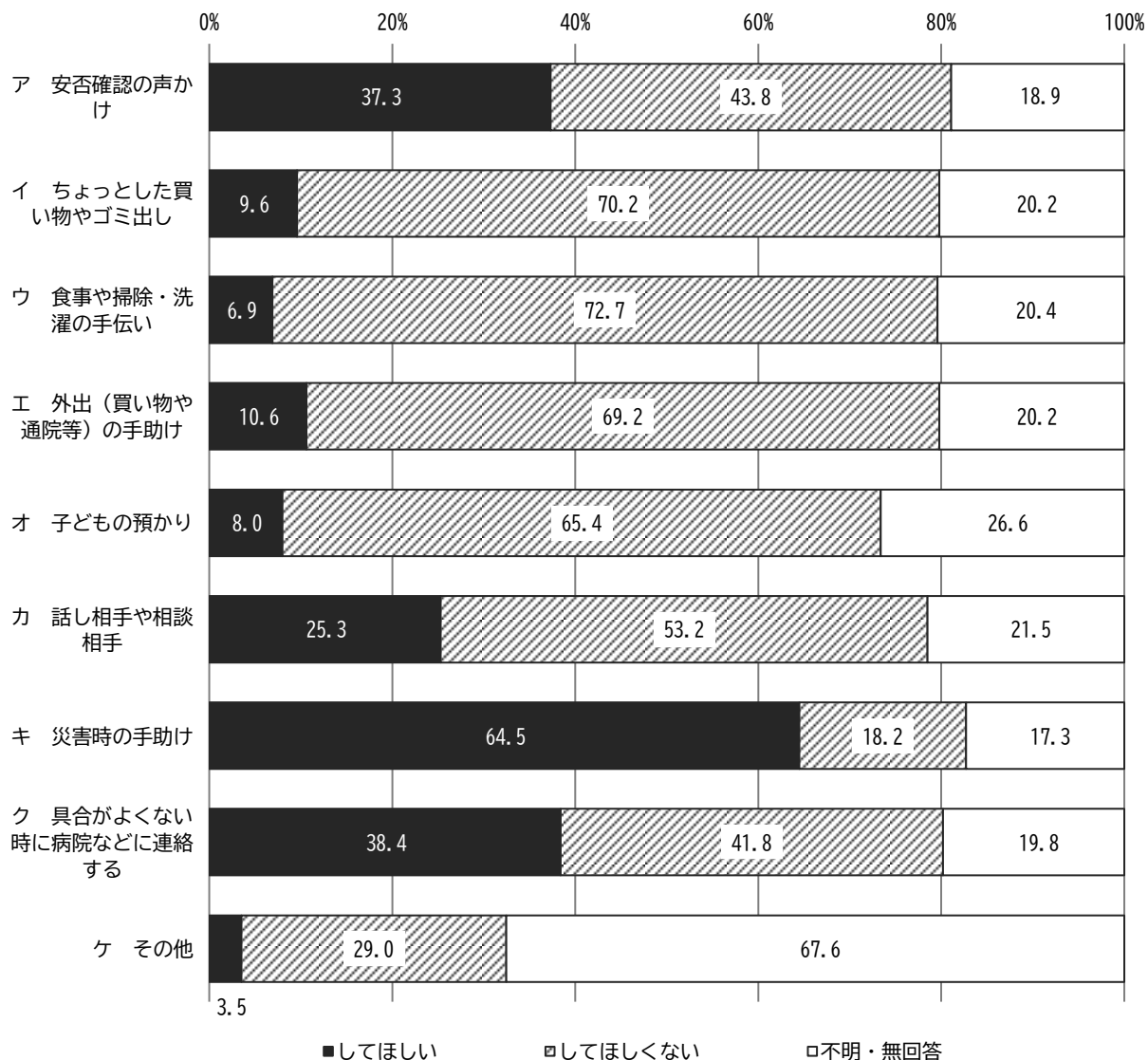
問2 あなたは、次の事柄について、家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいと思いますか。
また、まわりの人に手助けできること（してもいいこと）はありますか。

【それぞれ○は1つだけ】

【A 手助けしてほしいか】

家族以外のまわりの人から手助けをしてほしいことについて、「してほしい」では〔キ 災害時の手助け〕が64.5%と最も高くなっています。一方、「してほしくない」では〔ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い〕が72.7%と最も高くなっています。

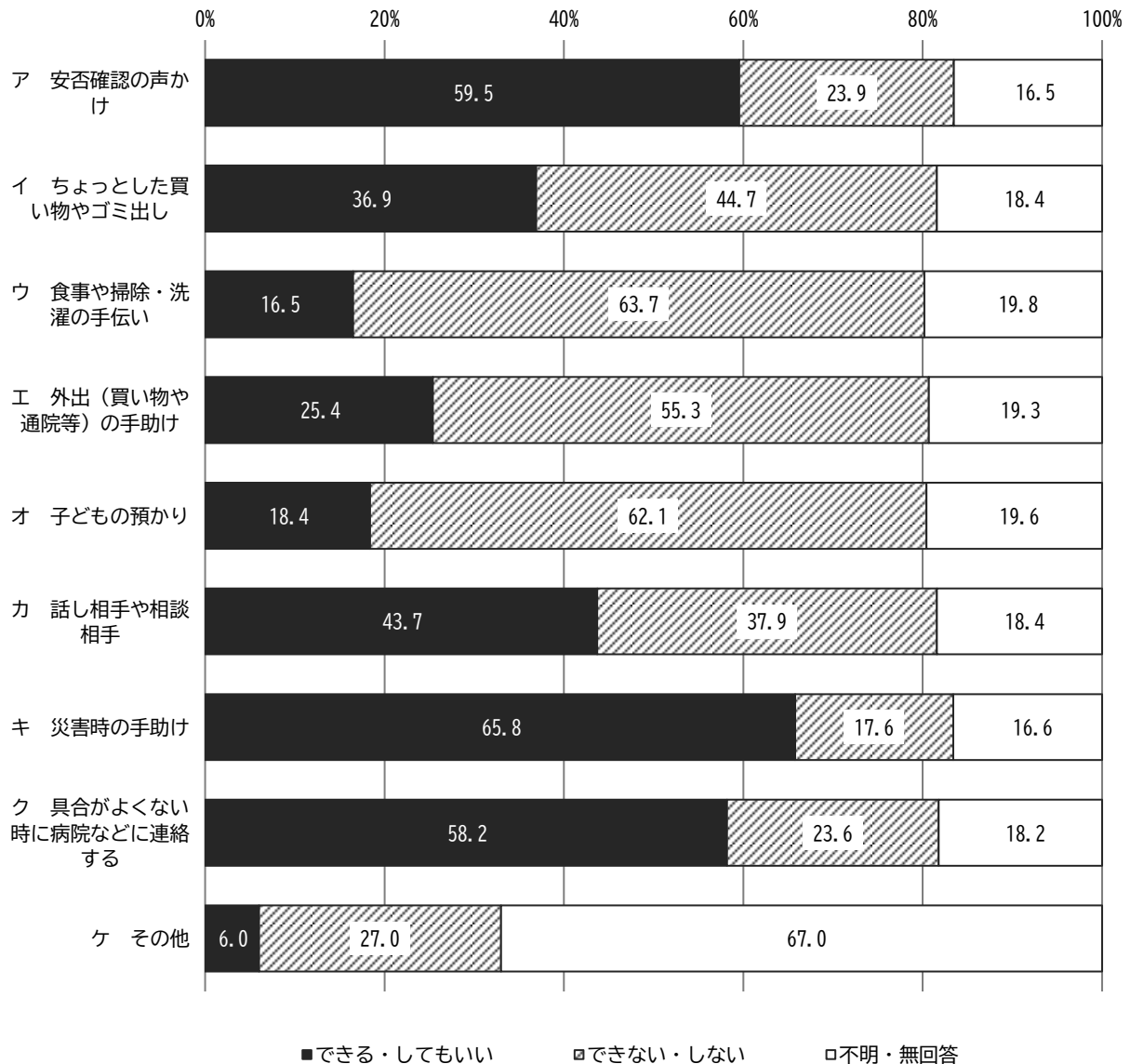
(n=1,094)



【B 手助けできるか】

家族以外のまわりの人に手助けできることについて、「できる・してもいい」では〔キ 災害時の手助け〕が65.8%と最も高くなっています。一方、「できない・しない」では〔ウ 食事や掃除・洗濯の手伝い〕が63.7%と最も高くなっています。

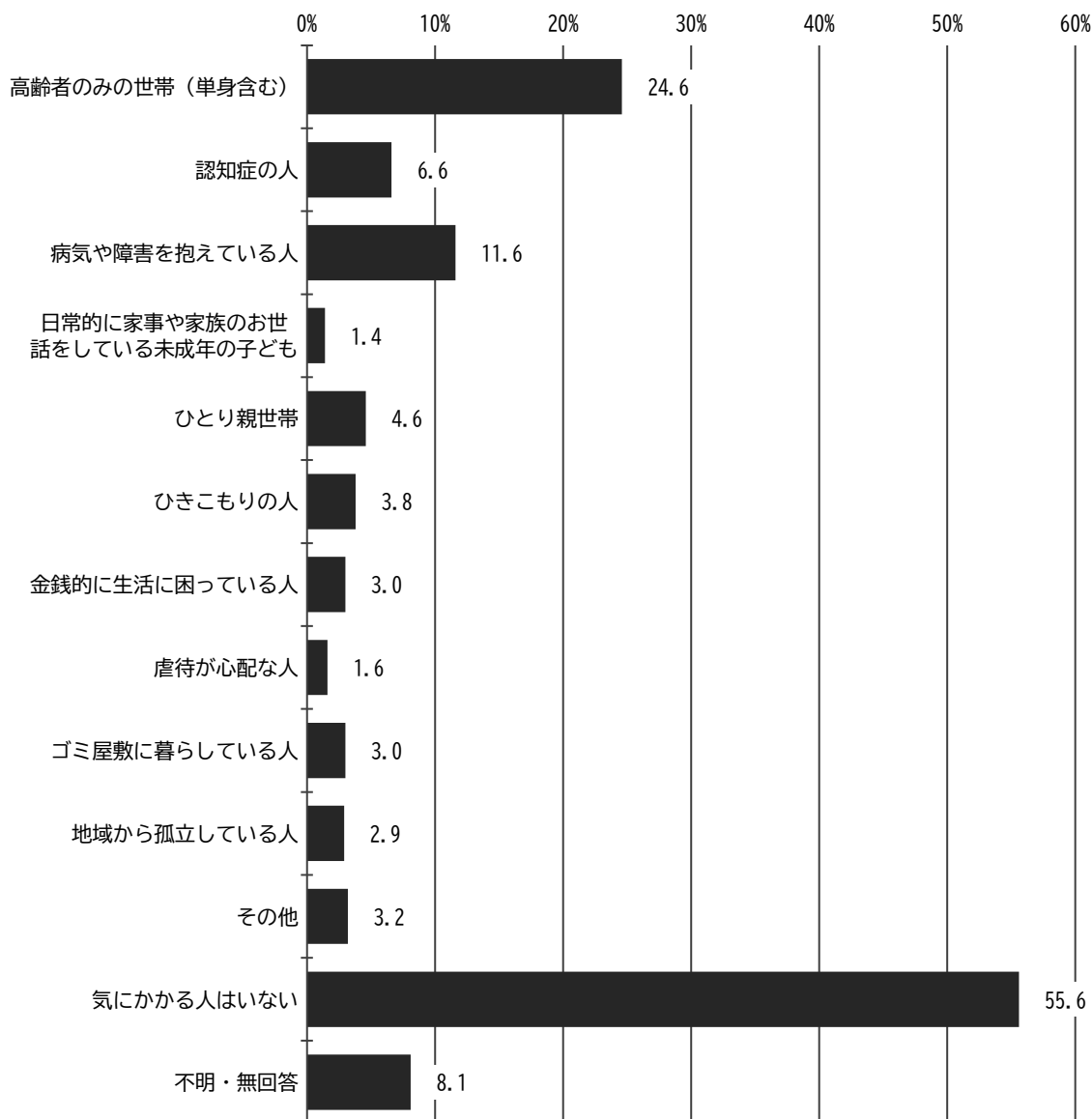
(n=1,094)



問3 あなたの住んでいる地域で、次のような気にかかる人（支援が必要と思われる人）はいますか。[あてはまるもの全てに○]

居住地域で気にかかる人はいるかについては、全体で「気にかかる人はいない」が55.6%と最も高く、次いで「高齢者のみの世帯（単身含む）」が24.6%、「病気や障害を抱えている人」が11.6%となっています。

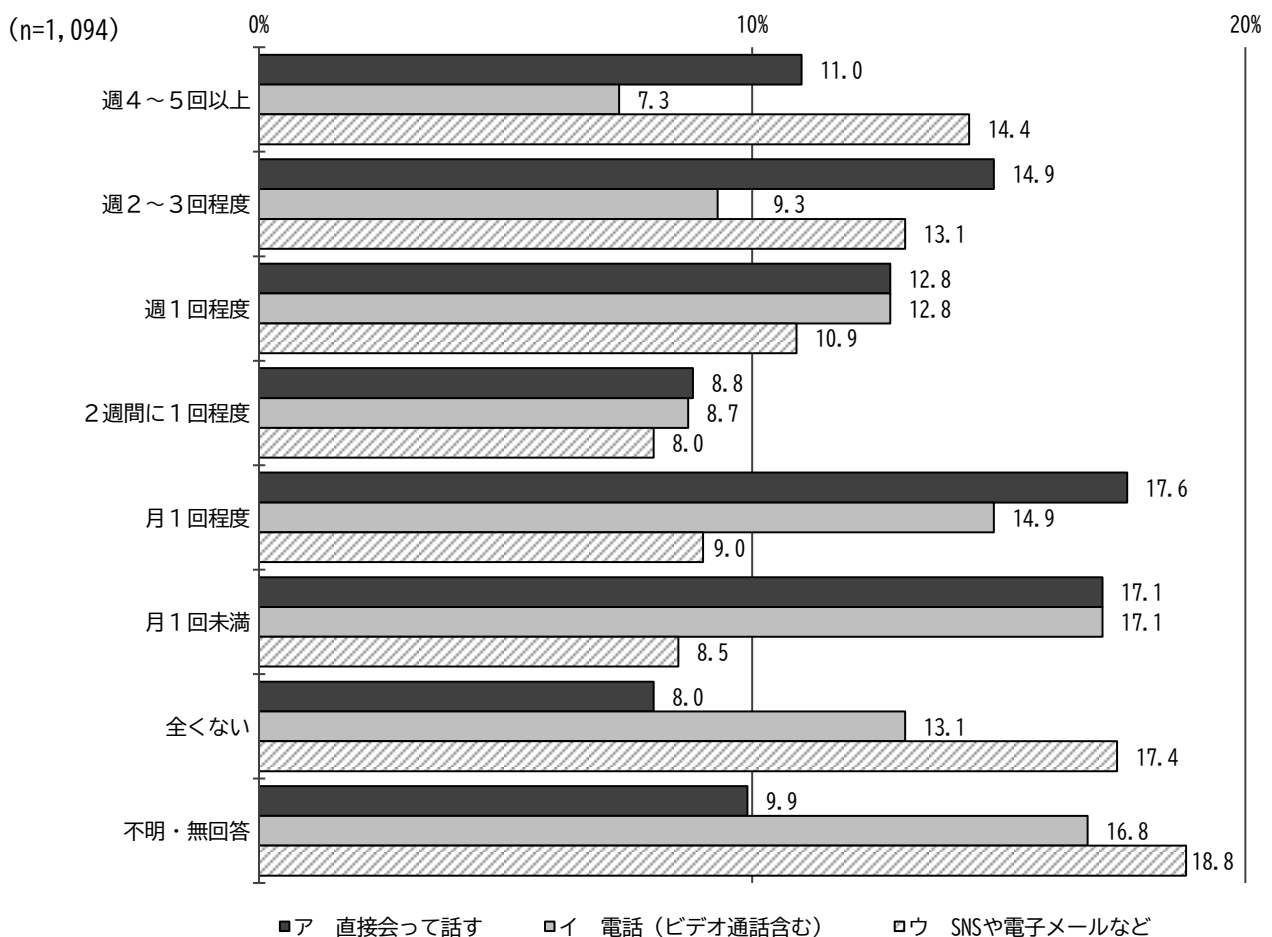
(n=1,094)



※その他の回答では、「どんな人が住んでいるかわからない」や「庭が荒れている」「車にゴミとか道具が詰めてある」「働かないで遊んでいる人がいる」等の意見がありました。

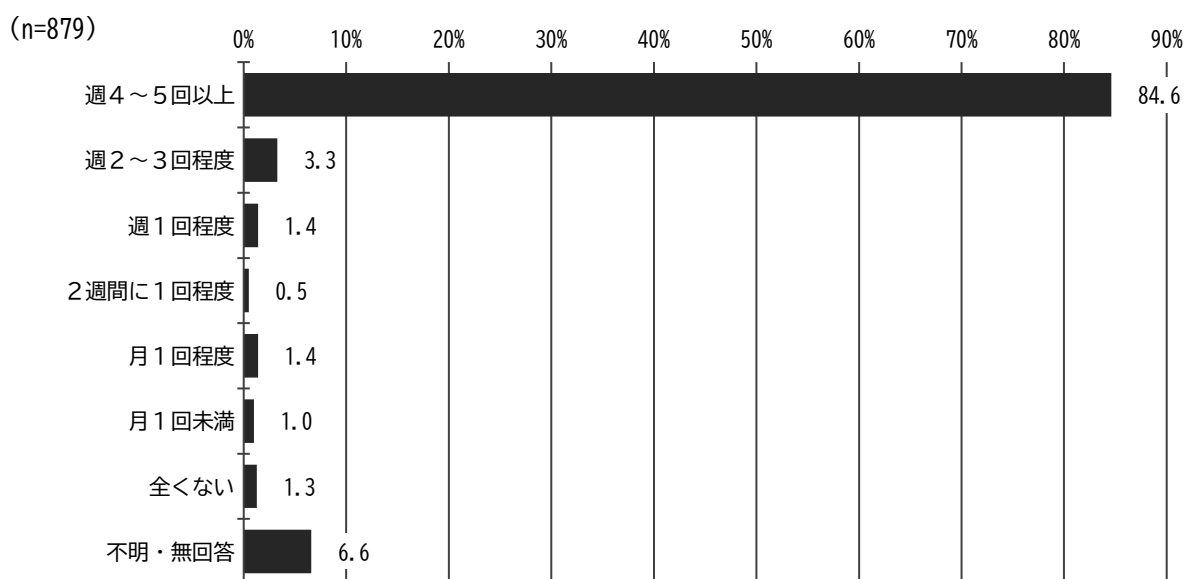
問4 あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーションの頻度はどのくらいですか。[○は1つだけ]

同居していない家族や友人たちとのコミュニケーションの頻度については、〔ア 直接会って話す〕では「月1回程度」、〔イ 電話（ビデオ電話含む）〕では「月1回未満」、〔ウ SNSや電子メールなど〕では「全くない」が最も高くなっています。



問5 同居している人たちとのコミュニケーションの頻度はどのくらいですか。[○は1つだけ]

同居している人たちとのコミュニケーションの頻度については、全体で「週4～5回以上」が84.6%と最も高く、次いで「週2～3回程度」が3.3%、「週1回程度」「月1回程度」が1.4%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「週4～5回以上」が8割を超えて最も高くなっています。

年代別にみると、年代が上がるにつれて「週4～5回以上」の割合が低い傾向にあります。

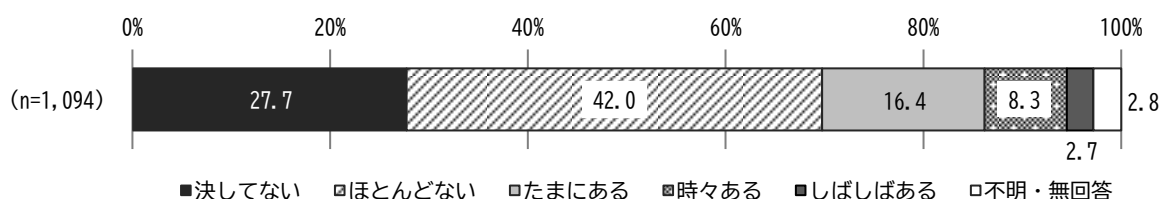
(単位：%)

	n(人)	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	不明・無回答
【性別】									
男性	407	83.3	3.4	2.2	0.5	1.7	0.7	1.7	6.4
女性	459	85.8	3.3	0.7	0.4	1.1	1.1	0.9	6.8
【年代別】									
18～29歳	79	93.7	2.5	1.3	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0
30～39歳	85	91.8	2.4	0.0	0.0	2.4	1.2	2.4	0.0
40～49歳	92	91.3	2.2	2.2	0.0	1.1	1.1	0.0	2.2
50～59歳	135	91.9	2.2	1.5	0.7	0.0	0.0	1.5	2.2
60～64歳	70	87.1	1.4	4.3	0.0	1.4	1.4	1.4	2.9
65～74歳	199	78.9	5.5	1.0	1.5	2.5	2.5	1.5	6.5
75歳以上	219	75.8	3.7	0.9	0.0	1.4	0.0	0.9	17.4

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問6 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。[○は1つだけ]

孤独であると感じることがあるかについては、全体で「ほとんどない」が42.0%と最も高く、次いで「決してない」が27.7%、「たまにある」が16.4%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「ほとんどない」が4割を超えて最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「40～49歳」までの比較的若い年代では「決してない」、「50～59歳以上」で「ほとんどない」がそれぞれ最も高くなっています。

世帯構成別にみると、「たまにある」が「1人(単身)」「その他の世帯」において2割台と、他の世帯構成に比べて高い割合になっています。

健康状態別にみると、「決してない」の割合は「よい」人ほど高く、「よくない」人ほど低い割合となっています。

(単位：%)

	n(人)	決してない	ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしばある	不明・無回答
【性別】							
男性	502	30.9	41.2	15.1	8.0	2.8	2.0
女性	566	25.3	42.9	17.3	8.7	2.7	3.2
【年代別】							
18～29歳	89	32.6	30.3	22.5	9.0	5.6	0.0
30～39歳	98	33.7	31.6	19.4	12.2	3.1	0.0
40～49歳	101	49.5	24.8	13.9	8.9	1.0	2.0
50～59歳	156	24.4	48.1	15.4	9.0	2.6	0.6
60～64歳	90	31.1	40.0	21.1	5.6	1.1	1.1
65～74歳	242	26.9	49.2	12.0	5.4	2.9	3.7
75歳以上	306	19.6	46.4	16.3	9.5	2.9	5.2
【世帯構成別】							
1人(単身)	161	14.3	33.5	28.0	13.7	5.0	5.6
夫婦のみ	287	26.8	45.6	15.0	6.6	2.1	3.8
親と子(二世帯)	308	34.4	44.8	9.1	7.5	1.9	2.3
親と子と孫(三世帯)	33	21.2	54.5	6.1	15.2	0.0	3.0
その他の世帯	27	18.5	48.1	22.2	7.4	3.7	0.0
【健康状態別】							
よい	376	42.3	39.4	10.9	4.3	1.1	2.1
まあよい	519	21.4	47.2	18.1	8.5	1.5	3.3
あまりよくない	156	17.3	35.3	21.8	15.4	8.3	1.9
よくない	27	18.5	18.5	22.2	18.5	18.5	3.7

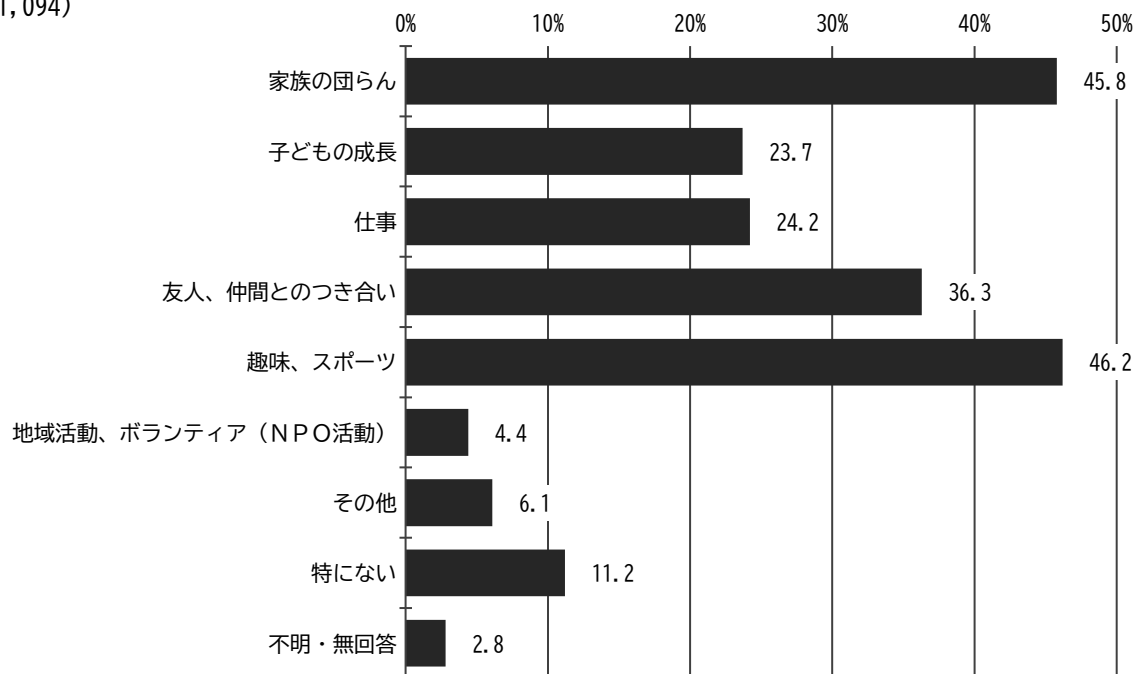
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問7 あなたは、毎日の生活の中でどのようなことに生きがいを感じていますか。

[3つまでに○]

毎日の生活の中で生きがいを感じていることについては、全体で「趣味、スポーツ」が46.2%と最も高く、次いで「家族の団らん」が45.8%、「友人、仲間とのつき合い」が36.3%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「孫の成長」や「ペットの世話」「運動や筋トレ」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」は「趣味、スポーツ」、「女性」は「家族の団らん」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」で「趣味、スポーツ」が68.5%と最も高くなっています。また、「30～39歳」から「50～59歳」で「家族の団らん」が5割以上となっています。

世帯構成別にみると、「家族の団らん」が「1人(単身)」で9.3%と他の世帯構成に比べ低くなっています。

健康状態別にみると、「趣味、スポーツ」や「家族の団らん」の割合が健康状態の「よい」人ほど高くなっています。また、「特にない」の割合が健康状態の「よくない」人ほど高くなっています。

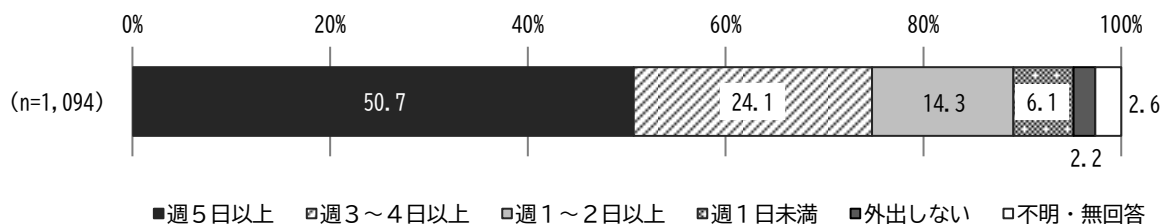
(単位：%)

	n(人)	家族の団らん	子どもの成長	仕事	友人、仲間とのつき合い	趣味、スポーツ	地域活動、ボランティア(NPO活動)	その他	特にない	不明・無回答
【性別】										
男性	502	43.6	20.5	24.9	29.1	48.6	4.6	6.2	13.9	2.0
女性	566	48.1	26.5	24.2	43.1	44.3	4.1	6.2	8.7	3.2
【年代別】										
18～29歳	89	43.8	9.0	19.1	49.4	68.5	1.1	3.4	5.6	0.0
30～39歳	98	57.1	48.0	32.7	36.7	53.1	2.0	3.1	5.1	0.0
40～49歳	101	55.4	48.5	38.6	30.7	35.6	2.0	5.9	5.0	2.0
50～59歳	156	51.3	34.6	28.8	37.2	47.4	2.6	4.5	7.7	0.6
60～64歳	90	37.8	18.9	34.4	33.3	45.6	5.6	10.0	14.4	1.1
65～74歳	242	47.9	18.6	28.9	34.3	44.6	6.6	5.8	11.2	3.3
75歳以上	306	38.9	11.8	9.2	36.9	41.8	5.2	8.2	18.0	5.6
【世帯構成別】										
1人(単身)	161	9.3	5.0	14.9	36.0	41.0	5.6	12.4	26.1	5.6
夫婦のみ	287	56.1	22.3	18.8	34.8	44.6	5.9	8.4	11.5	3.1
親と子(二世帯)	308	55.5	26.0	27.6	39.6	47.7	3.6	4.5	6.8	2.6
親と子と孫(三世帯)	33	54.5	39.4	27.3	42.4	51.5	9.1	0.0	9.1	3.0
その他の世帯	27	25.9	18.5	44.4	44.4	44.4	3.7	7.4	11.1	3.7
【健康状態別】										
よい	376	52.4	29.0	29.3	40.7	52.7	4.8	4.5	5.3	1.6
まあよい	519	45.1	22.2	24.7	36.4	45.9	5.0	6.4	10.2	3.5
あまりよくない	156	39.7	17.9	14.1	28.8	38.5	0.0	10.3	23.1	2.6
よくない	27	18.5	14.8	7.4	22.2	14.8	7.4	3.7	44.4	3.7

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問8 あなたは日頃どの程度、外出していますか。[○は1つだけ]

外出の頻度については、全体で「週5日以上」が50.7%と最も高く、次いで「週3～4日以上」が24.1%、「週1～2日以上」が14.3%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「週5日以上」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「65～74歳」では「週5日以上」が最も高く、「75歳以上」では「週3～4日以上」が最も高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	週5日以上	週3～4日以上	週1～2日以上	週1日未満	外出しない	不明・無回答
【性別】							
男性	502	50.6	21.5	15.9	7.8	2.4	1.8
女性	566	51.2	27.0	12.7	4.2	1.9	2.8
【年代別】							
18～29歳	89	60.7	19.1	12.4	4.5	3.4	0.0
30～39歳	98	64.3	15.3	12.2	6.1	2.0	0.0
40～49歳	101	65.3	15.8	12.9	4.0	0.0	2.0
50～59歳	156	63.5	16.0	14.1	3.8	1.9	0.6
60～64歳	90	65.6	14.4	12.2	6.7	0.0	1.1
65～74歳	242	47.5	29.3	13.6	6.2	0.8	2.5
75歳以上	306	30.4	34.3	17.3	8.2	4.6	5.2

◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

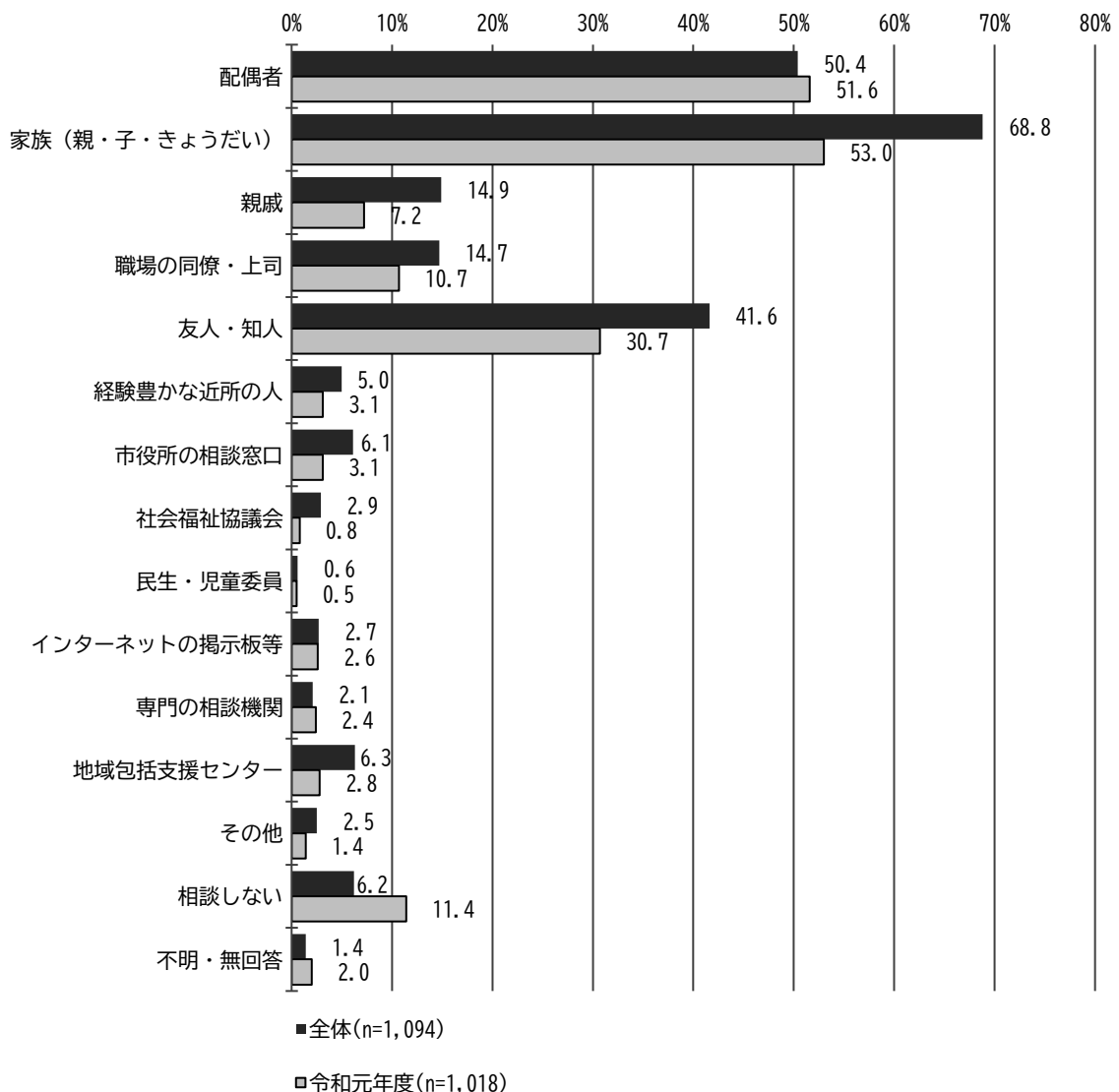
2 日常生活の課題について

問9 現在、日常生活の困りごとや悩みごとを相談できる人や機関はありますか。

〔あてはまるもの全てに○〕

現在、日常生活の困りごとや悩みごとを相談できる人や機関はあるかについては、全体で「家族（親・子・きょうだい）」が68.8%と最も高く、次いで「配偶者」が50.4%、「友人・知人」が41.6%となっています。

前回調査との比較をみると、「家族（親・子・きょうだい）」が15.8ポイント、「友人・知人」が10.9ポイント高くなっています。

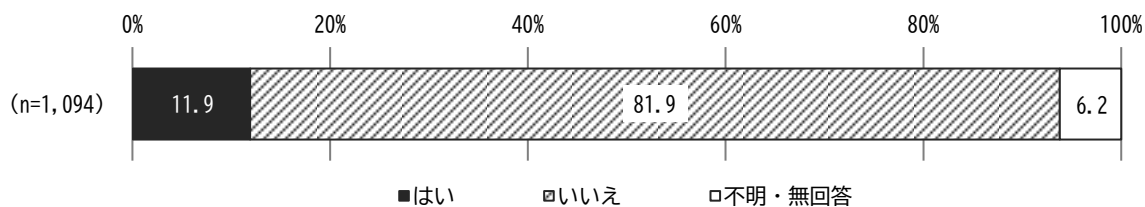


※その他の回答では、「ケアマネジャーや医師といった専門職」や「LINEのグループチャット」「AIツール」等の意見がありました。

※令和元年度調査：現在、日常生活の困りごとや悩みごとは誰に相談していますか。

問 10 あなたは、どこに（誰に）相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えていますか。[○は1つだけ]

どこに（誰に）相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えているかについては、全体で「はい」が11.9%、「いいえ」が81.9%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「いいえ」が最も高くなっています。
年代別にみると、全体と同様の傾向となっています。

(単位：%)

	n(人)	はい	いいえ	不明・無回答
【性別】				
男性	502	11.4	83.5	5.2
女性	566	12.7	80.4	6.9
【年代別】				
18～29歳	89	6.7	88.8	4.5
30～39歳	98	15.3	83.7	1.0
40～49歳	101	10.9	84.2	5.0
50～59歳	156	16.0	81.4	2.6
60～64歳	90	12.2	84.4	3.3
65～74歳	242	9.5	85.1	5.4
75歳以上	306	12.4	76.1	11.4

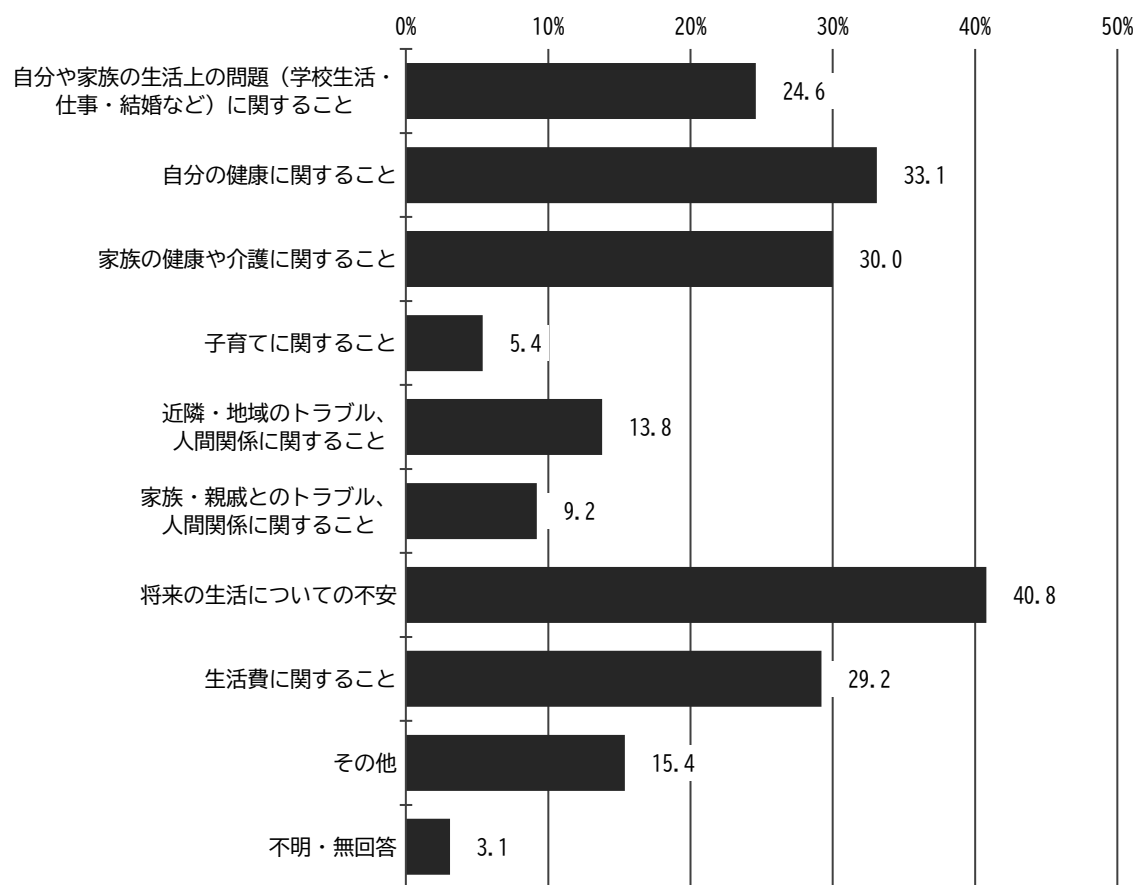
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 10 で「はい」を選択した方

問 10-1 問 10 の困りごとについて教えてください。[あてはまるもの全てに○]

困りごとの内容については、全体で「将来の生活についての不安」が40.8%と最も高く、次いで「自分の健康に関すること」が33.1%、「家族の健康や介護に関すること」が30.0%となっています。

(n=130)



※その他の回答では、「相続や終活といった将来の手続き」や「近隣の騒音問題」「ゴミ出しの困難」「制度の対象外となった際の支援不足」等の意見がありました。

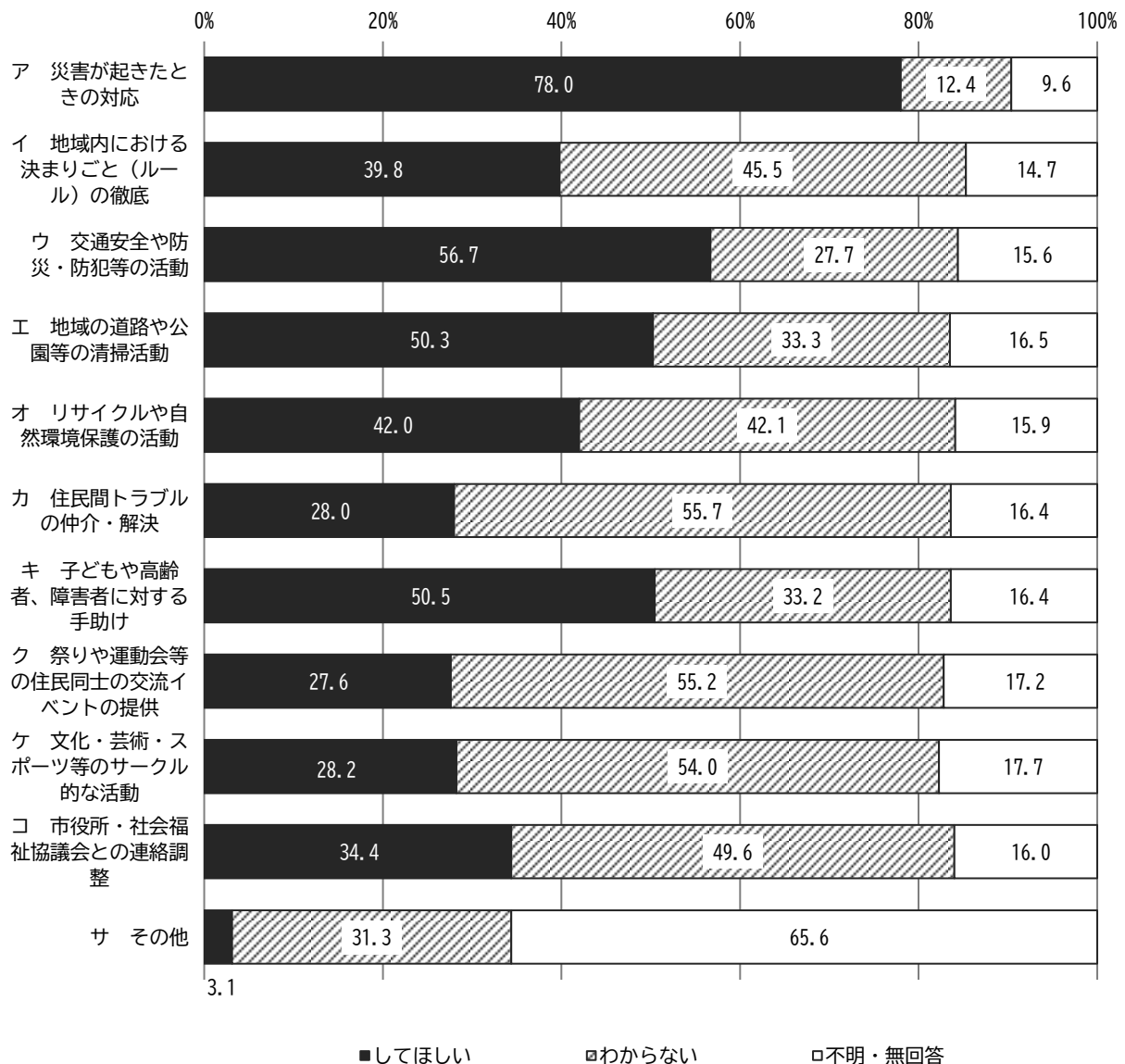
3 市民同士の支え合い、地域活動について

問 11 あなたが住んでいる地区の中で安心して暮らしていくために、自治会やボランティア団体等の地区にある組織や団体に対して、どのような活動をしてほしいと思いますか。また、あなたができる(してもいい)と思われることはどんなことですか。[それぞれ○は1つだけ]

【A あなたがしてもらいたいこと】

居住地区で安心して暮らしていくために、地区にある組織や団体にしてほしい活動について、「してほしい」では〔ア 災害が起きたときの対応〕が78.0%と最も高くなっています。一方、「わからない」では〔カ 住民間トラブルの仲介・解決〕が55.7%と最も高くなっています。

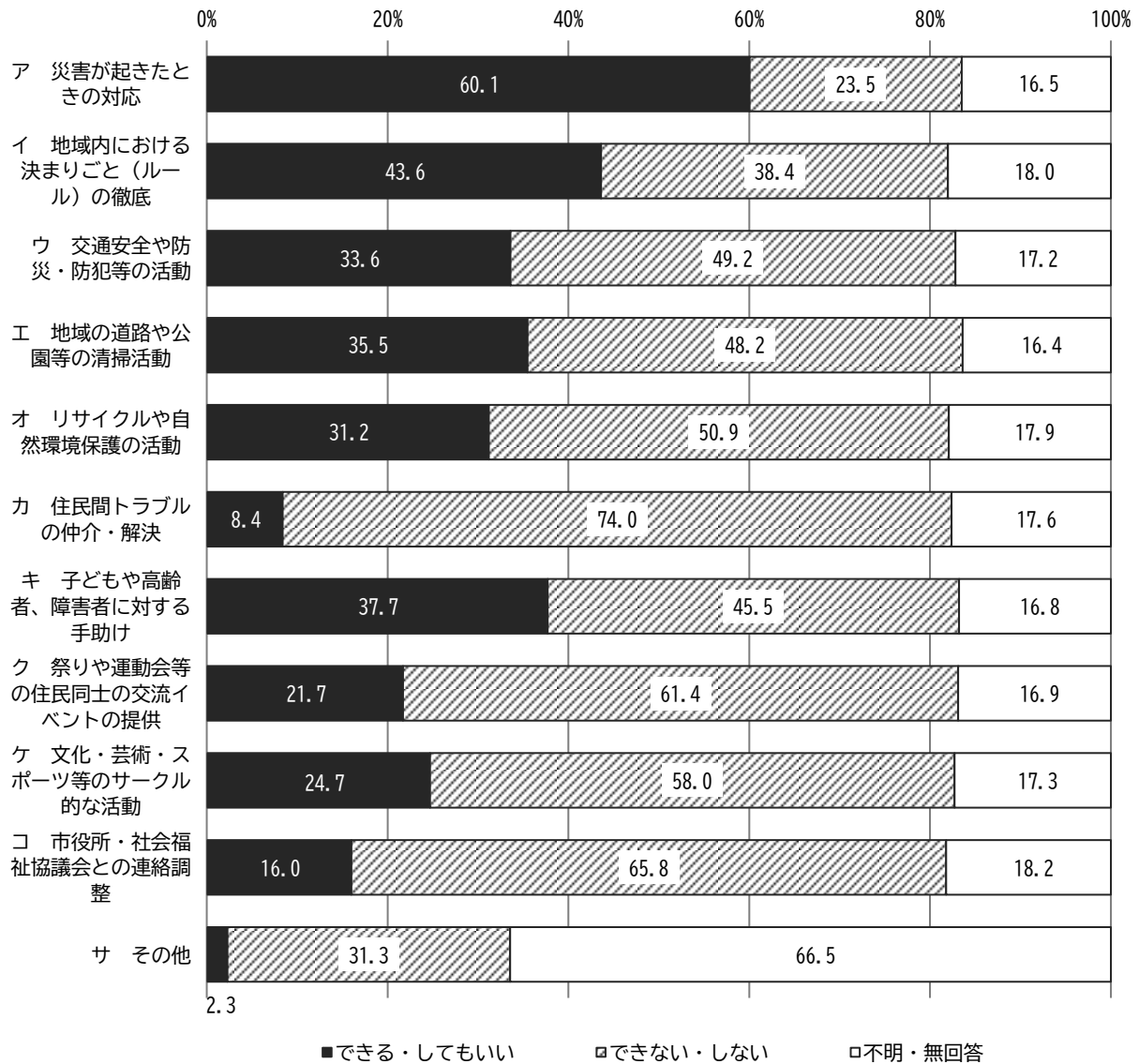
(n=1,094)



【B あなたができること】

居住地区で安心して暮らしていくために、自身ができる（してもいい）と思う活動について、「できる・してもいい」では〔ア 災害が起きたときの対応〕が60.1%と最も高くなっています。一方、「できない・しない」では〔カ 住民間トラブルの仲介・解決〕が74.0%と最も高くなっています。

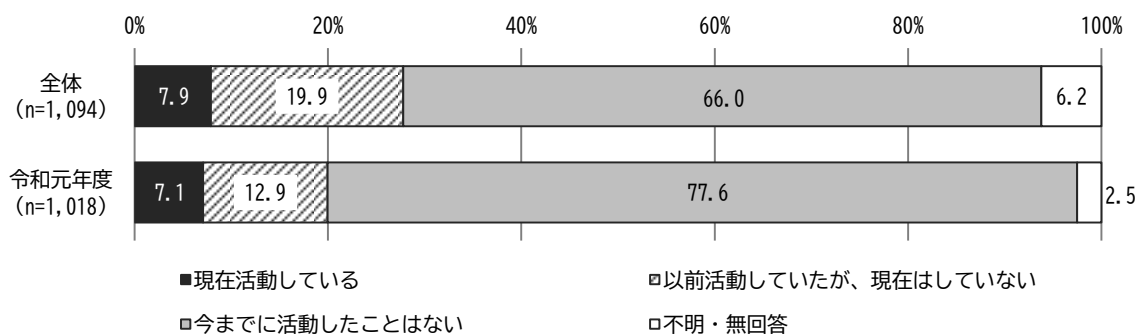
(n=1,094)



問 12 あなたは、これまでにボランティア、地域活動をしたことがありますか。[○は1つだけ]

ボランティア、地域活動の経験については、全体で「今までに活動したことはない」が66.0%と最も高く、次いで「以前活動していたが、現在はしていない」が19.9%、「現在活動している」が7.9%となっています。

前回調査との比較をみると、「以前活動していたが、現在はしていない」が7.0ポイント高く、「今までに活動したことはない」が11.6ポイント低くなっています。



※令和元年度調査：あなたは、これまでにボランティア、NPO活動をしたことがありますか。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「今までに活動したことはない」が高くなっています。

年代別にみると、「現在活動している」が「40～49歳」と「65～74歳」で1割台とやや高くなっています。また、「以前活動していたが、現在はしていない」が「18～29歳」で43.8%と特に高くなっています。

健康状態別にみると、「今までに活動したことはない」が「よくない」で74.1%と特に高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	現在活動している	以前活動していたが、現在はしていない	今までに活動したことはない	不明・無回答
【性別】					
男性	502	9.8	16.5	67.1	6.6
女性	566	6.2	22.8	65.7	5.3
【年代別】					
18～29歳	89	3.4	43.8	51.7	1.1
30～39歳	98	6.1	11.2	81.6	1.0
40～49歳	101	10.9	21.8	63.4	4.0
50～59歳	156	4.5	11.5	79.5	4.5
60～64歳	90	7.8	14.4	74.4	3.3
65～74歳	242	10.7	17.8	64.5	7.0
75歳以上	306	7.8	22.5	58.8	10.8
【健康状態別】					
よい	376	9.3	20.7	63.6	6.4
まあよい	519	7.7	18.5	67.6	6.2
あまりよくない	156	4.5	22.4	66.7	6.4
よくない	27	7.4	18.5	74.1	0.0

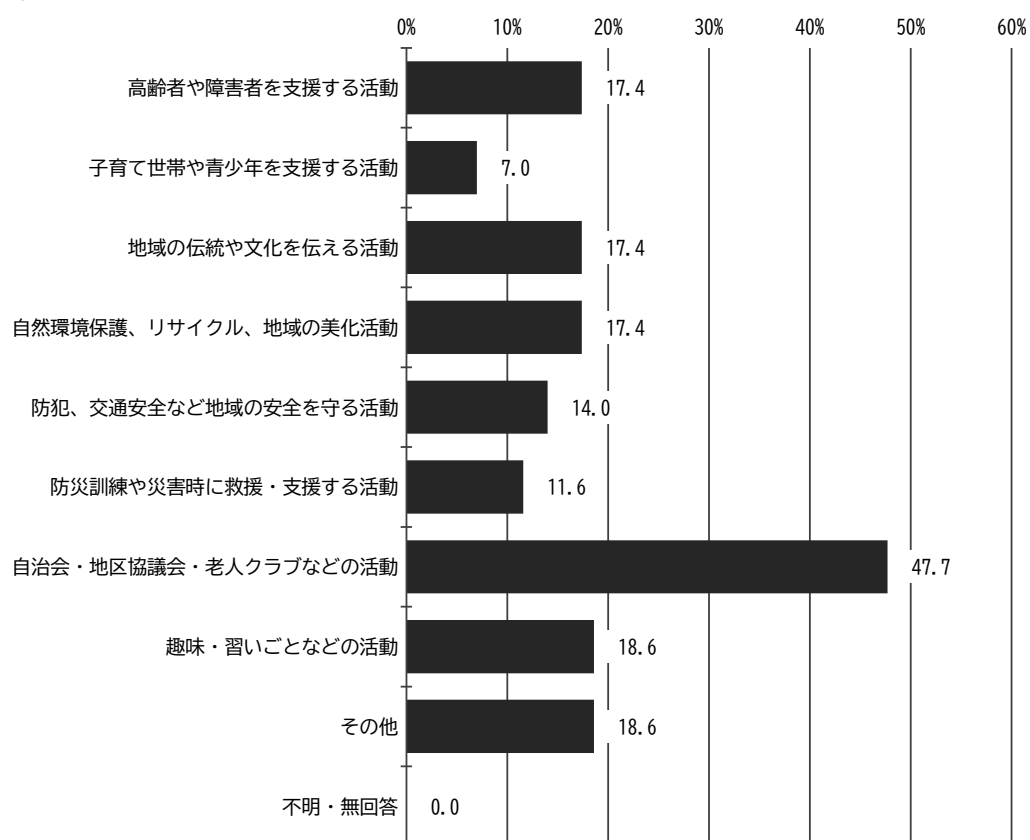
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問12で「現在活動している」を選択した方

問12-1 どのようなボランティア、地域活動ですか。[あてはまるもの全てに○]

ボランティア、地域活動の内容については、全体で「自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動」が47.7%と最も高く、次いで「趣味・習いごとなどの活動」が18.6%、「高齢者や障害者を支援する活動」「地域の伝統や文化を伝える活動」「自然環境保護、リサイクル、地域の美化活動」が17.4%となっています。

(n=86)

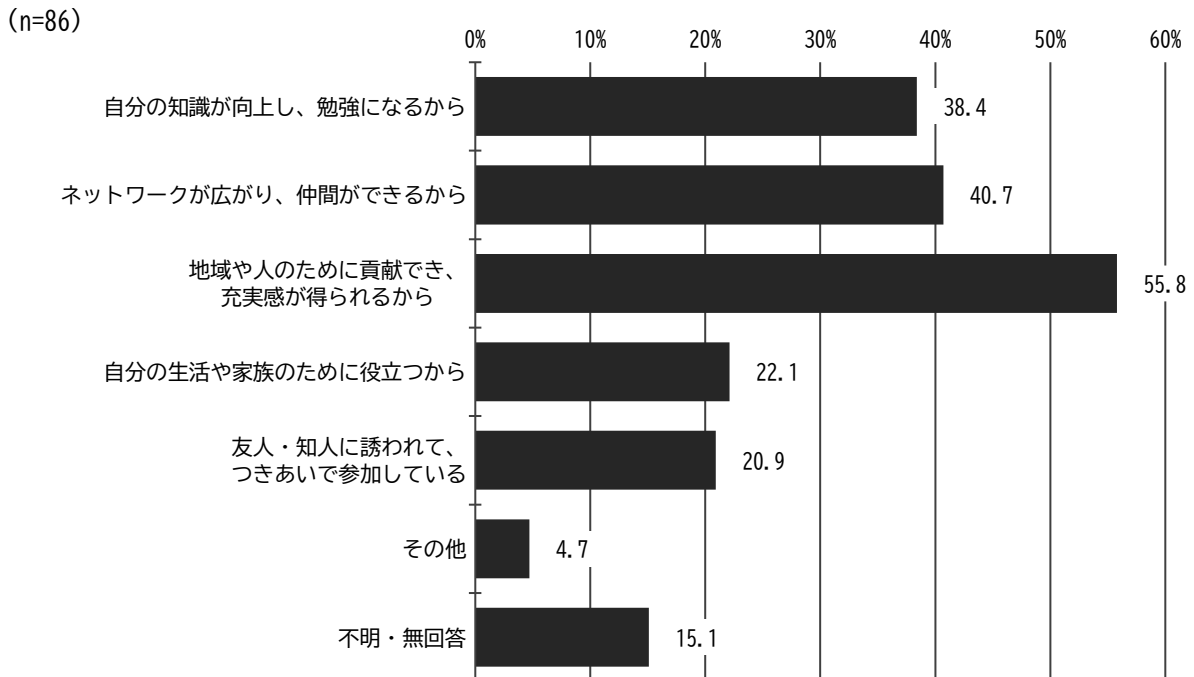


※その他の回答では、「ボーイスカウト・ガールスカウト」や「保護猫活動」「人権擁護」「更生保護活動」等の意見がありました。

問 12で「現在活動している」を選択した方

問 12-2 活動に参加している理由は次のうちどれにあたりますか。[あてはまるもの全てに○]

活動に参加している理由については、全体で「地域や人のために貢献でき、充実感が得られるから」が55.8%と最も高く、次いで「ネットワークが広がり、仲間ができるから」が40.7%、「自分の知識が向上し、勉強になるから」が38.4%となっています。



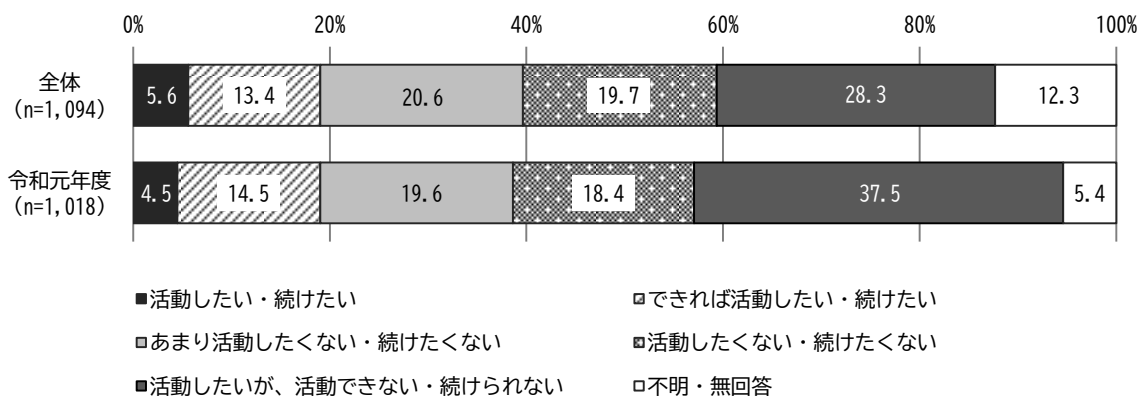
※その他の回答では、「直接依頼された」や「自身の認知症予防」「趣味」等の意見がありました。

問 13 今後ボランティア、地域活動に参加したい、あるいは続けたいと思いますか。

[○は1つだけ]

ボランティア、地域活動への参加意向については、全体で「活動したいが、活動できない・続けられない」が28.3%と最も高く、次いで「あまり活動したくない・続けたくない」が20.6%、「活動したくない・続けたくない」が19.7%となっています。

前回調査との比較をみると、「活動したいが、活動できない・続けられない」が9.2ポイント低くなっています。



※令和元年度調査：今後ボランティア、NPO活動に参加したい、あるいは続けたいと思いますか。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「活動したいが、活動できない、続けられない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「30～39歳」と「50～59歳」では「あまり活動したくない・続けたくない」が最も高い割合となっています。一方、「40～49歳」及び「60歳以上」では「活動したいが、活動できない、続けられない」が最も高くなっており、特に「75歳以上」では36.3%と高くなっています。

(単位：%)

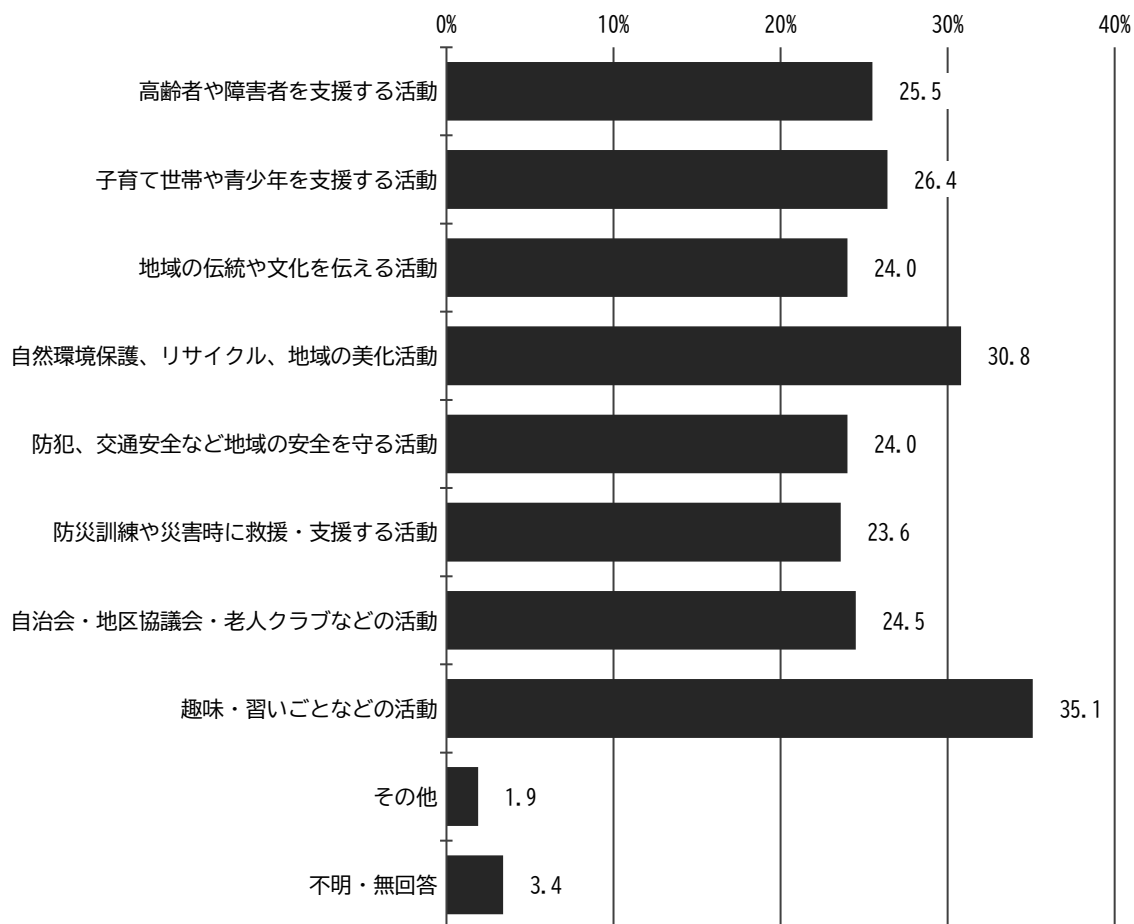
	n(人)	活動したい・続けたい	できれば活動したい・続けたい	あまり活動したくない・続けたくない	活動したくない・続けたくない	活動したいが、活動できない・続けられない	不明・無回答
【性別】							
男性	502	5.8	12.2	20.5	23.3	26.7	11.6
女性	566	5.3	14.8	20.5	17.0	29.9	12.5
【年代別】							
18～29歳	89	3.4	20.2	30.3	18.0	25.8	2.2
30～39歳	98	3.1	14.3	28.6	27.6	18.4	8.2
40～49歳	101	5.9	18.8	21.8	21.8	23.8	7.9
50～59歳	156	1.9	12.8	27.6	23.7	26.9	7.1
60～64歳	90	11.1	7.8	23.3	22.2	25.6	10.0
65～74歳	242	5.4	18.2	18.6	19.4	27.3	11.2
75歳以上	306	6.9	7.8	12.1	15.4	36.3	21.6

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 13で「活動したい・続けたい」または「できれば活動したい・続けたい」を選択した方
 問 13-1 あなたは、主にどの活動に関心がありますか。[あてはまるもの全てに○]

関心のある活動内容については、全体で「趣味・習いごとなどの活動」が35.1%と最も高く、次いで「自然環境保護、リサイクル、地域の美化活動」が30.8%、「子育て世帯や青少年を支援する活動」が26.4%となっています。

(n=208)



※その他の回答では、「健康を維持しながら趣味も兼ねてできること」や「話し相手になる」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「防犯、交通安全など地域の安全を守る活動」、「女性」で「趣味、習いごとなどの活動」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「子育て世帯や青少年を支援する活動」が比較的若い年代で高い傾向となっています。また、「自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動」が、年代が上がるにつれて高い傾向となっています。

(単位：%)

	n(人)	高齢者や障害者を支援する活動	子育て世帯や青少年を支援する活動	地域の伝統や文化を伝える活動	自然環境保護、リサイクル、地域の美化活動	防犯、交通安全など地域の安全を守る活動	防災訓練や災害時に救援・支援する活動	自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動	趣味・習いごとなどの活動	その他	不明・無回答
【性別】											
男性	90	14.4	23.3	28.9	30.0	36.7	24.4	31.1	28.9	0.0	4.4
女性	114	34.2	28.9	20.2	31.6	13.2	21.9	19.3	38.6	3.5	2.6
【年代別】											
18～29歳	21	19.0	47.6	38.1	61.9	4.8	9.5	4.8	33.3	0.0	0.0
30～39歳	17	23.5	52.9	29.4	29.4	29.4	29.4	5.9	23.5	0.0	5.9
40～49歳	25	12.0	44.0	24.0	32.0	32.0	28.0	16.0	44.0	4.0	0.0
50～59歳	23	43.5	26.1	26.1	26.1	39.1	30.4	17.4	34.8	0.0	0.0
60～64歳	17	23.5	35.3	47.1	58.8	23.5	35.3	29.4	41.2	5.9	0.0
65～74歳	57	21.1	12.3	17.5	22.8	21.1	28.1	29.8	28.1	0.0	8.8
75歳以上	45	33.3	11.1	13.3	17.8	22.2	8.9	40.0	37.8	4.4	2.2

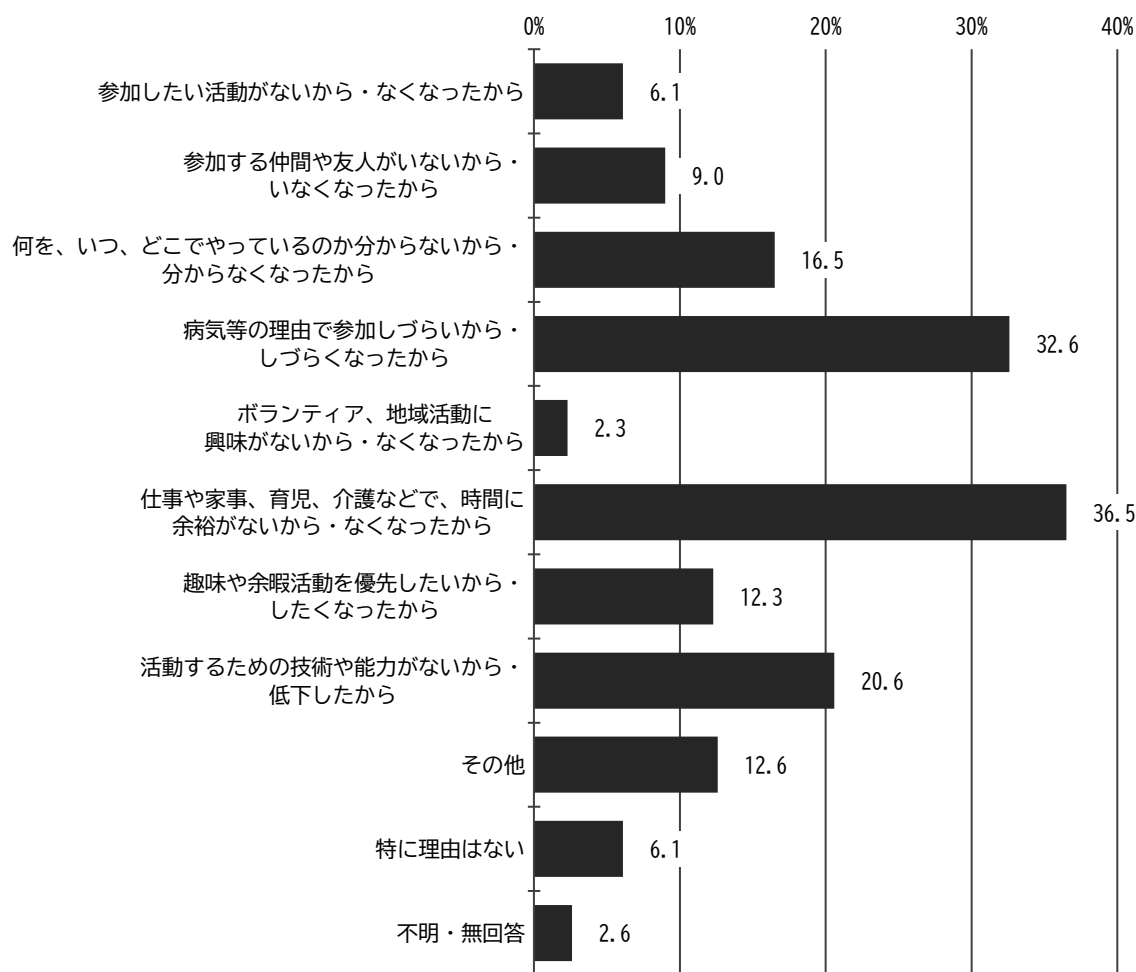
◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

問 13で「活動したいが、活動できない・続けられない」を選択した方

問 13-2 ボランティアや地域活動をしたいが、活動できない・続けられない理由は次のうちどれにあたりますか。[あてはまるもの全てに○]

ボランティアや地域活動をしたいが、活動できない・続けられない理由については、全体で「仕事や家事、育児、介護などで、時間に余裕がないから・なくなったから」が36.5%と最も高く、次いで「病気等の理由で参加しづらいから・しづらくなったから」が32.6%、「活動するための技術や能力がないから・低下したから」が20.6%となっています。

(n=310)



※その他の回答では、「高齢、体力的な問題」や「健康に不安がある」「休日はプライベートに費やすため」「障害があるため」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「病気等の理由で参加しづらいから・しづらくなったから」、「女性」で「仕事や家事、育児、介護などで、時間に余裕がないから・なくなったから」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「60～64歳」で「仕事や家事、育児、介護などで、時間に余裕がないから・なくなったから」、「65歳以上」で「病気等の理由で参加しづらいから・しづらくなったから」がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

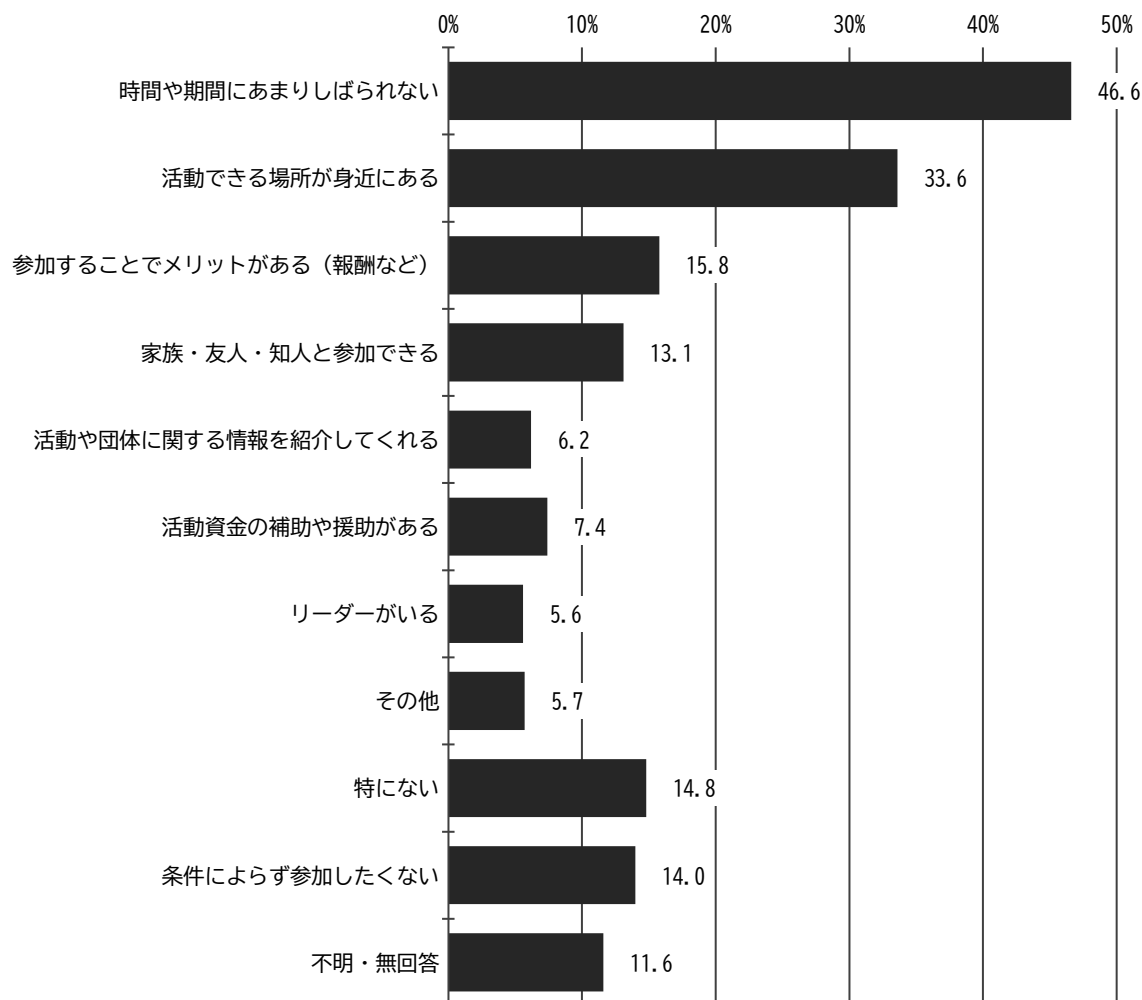
	n(人)	参加したい活動がないから・なくなったから	参加する仲間や友人がいないから・なくなったから	何を、いつ、どこでやっているのか分からないから・分からなくなったから	病気等の理由で参加しづらいから・しづらくなったから	ボランティア、地域活動に興味がないから・なくなったから	仕事や家事、育児、介護などで、時間に余裕がないから・なくなったから	趣味や余暇活動を優先したくないから・しづらくなったから	活動するための技術や能力がないから・低下したから	その他	特に理由はない	不明・無回答
【性別】												
男性	134	4.5	9.7	16.4	34.3	3.0	33.6	11.9	17.2	10.4	8.2	1.5
女性	169	7.1	8.3	16.6	31.4	1.8	39.1	13.0	23.7	13.6	4.7	3.6
【年代別】												
18～29歳	23	13.0	8.7	21.7	13.0	4.3	56.5	30.4	8.7	0.0	0.0	0.0
30～39歳	18	22.2	11.1	27.8	11.1	0.0	72.2	33.3	16.7	5.6	0.0	0.0
40～49歳	24	0.0	4.2	25.0	16.7	4.2	75.0	8.3	12.5	4.2	0.0	0.0
50～59歳	42	7.1	16.7	28.6	19.0	4.8	59.5	19.0	16.7	11.9	2.4	2.4
60～64歳	23	4.3	4.3	17.4	17.4	0.0	47.8	21.7	21.7	0.0	8.7	0.0
65～74歳	66	7.6	10.6	21.2	39.4	0.0	37.9	9.1	19.7	4.5	6.1	3.0
75歳以上	111	1.8	6.3	3.6	46.8	2.7	7.2	3.6	27.9	25.2	10.8	4.5

◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

問 14 あなたは、どのような条件であればボランティア、地域活動に参加・活動しやすいですか。
 [3つまでに○]

ボランティア、地域活動に参加・活動しやすい条件については、全体で「時間や期間にあまりしぼられない」が46.6%と最も高く、次いで「活動できる場所が身近にある」が33.6%、「参加することでメリットがある（報酬など）」が15.8%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「参加しやすい環境や雰囲気」や「リモートでの参加」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「時間や期間にあまりしぼられない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「65～74歳」で「時間や期間にあまりしぼられない」、「75歳以上」で「活動できる場所が身近にある」がそれぞれ最も高くなっています。特に「時間や期間にあまりしぼられない」や「活動できる場所が身近にある」が「40～49歳」で他の年代に比べ高くなっています。また、「参加することでメリットがある（報酬など）」や「家族、友人、知人と参加できる」が、「18～29歳」から「30～39歳」で他の年代に比べやや高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	時間や期間 にあまりし ぼられない	活動できる 場所が身近 にある	参加するこ とでメリッ トがある(報 酬など)	家族・友人・ 知人と参加 できる	活動や団体 に関する情 報を紹介し てくれる	活動資金の 補助や援助 がある	リーダーが いる	その他	特になし	条件によら ず参加した くない	不明・無回 答
【性別】												
男性	502	45.2	30.3	15.9	10.2	6.6	8.6	5.0	5.8	14.9	15.5	11.6
女性	566	48.1	37.3	15.7	15.9	5.8	6.2	6.4	5.7	14.3	12.5	11.3
【年代別】												
18～29歳	89	46.1	37.1	37.1	20.2	5.6	10.1	2.2	2.2	15.7	9.0	2.2
30～39歳	98	61.2	36.7	35.7	21.4	3.1	10.2	4.1	3.1	10.2	9.2	3.1
40～49歳	101	71.3	51.5	25.7	16.8	5.9	9.9	6.9	4.0	7.9	5.9	3.0
50～59歳	156	59.6	34.6	19.2	16.7	7.7	11.5	9.0	7.1	7.7	14.1	2.6
60～64歳	90	53.3	34.4	18.9	14.4	7.8	8.9	2.2	3.3	13.3	17.8	7.8
65～74歳	242	50.0	35.5	7.4	11.6	7.4	7.0	7.0	3.7	15.3	14.5	13.2
75歳以上	306	23.2	24.2	3.9	6.5	4.9	2.6	4.9	9.5	21.6	18.0	23.9

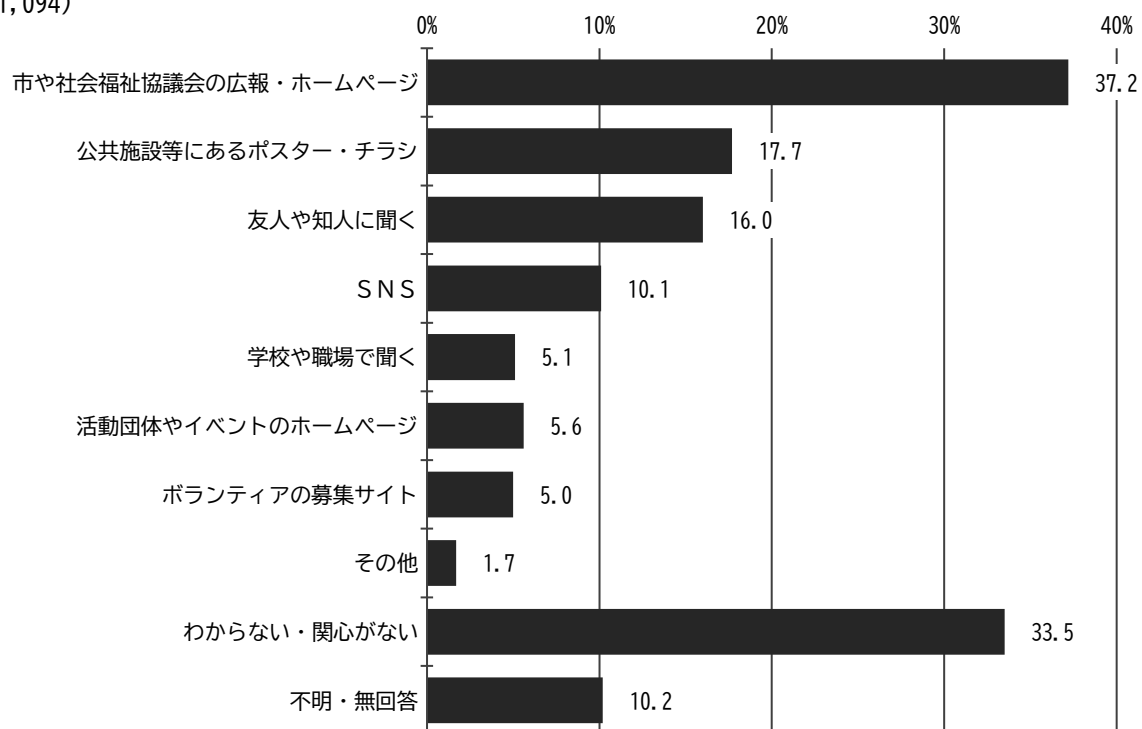
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 15 あなたは、ボランティア、地域活動の情報をどのような方法で探しますか。

【あてはまるもの全てに○】

ボランティア、地域活動の情報の収集方法については、全体で「市や社会福祉協議会の広報・ホームページ」が37.2%と最も高く、次いで「わからない・関心がない」が33.5%、「公共施設等にあるポスター・チラシ」が17.7%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「自治会や住民同士の口コミ」や「市報」「インターネット」「保育園の掲示板」等の意見がありました。

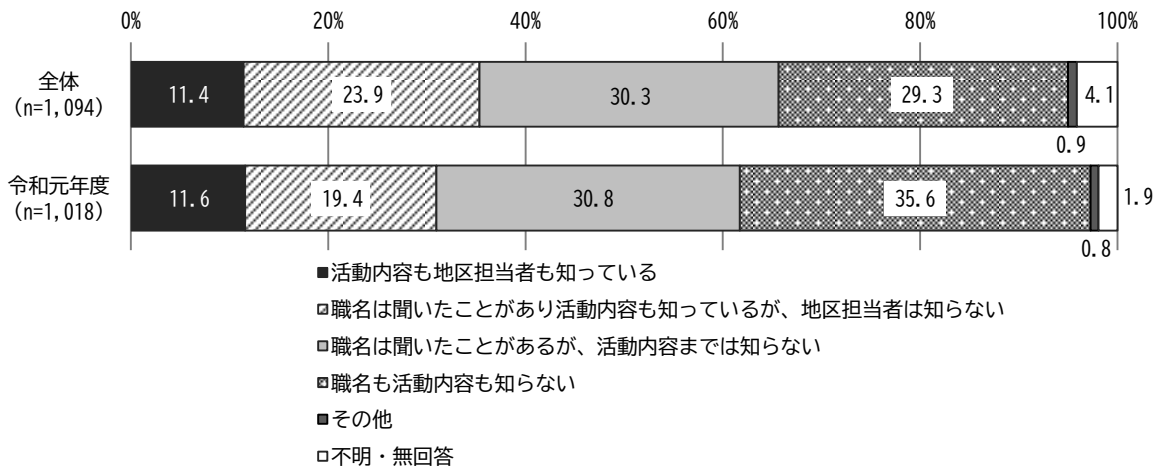
4 民生委員・児童委員、社会福祉協議会について

問 16 あなたが住んでいる地区を担当している民生委員・児童委員をご存知ですか。

[○は1つだけ]

居住地区担当の民生委員・児童委員の認知度については、全体で「職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない」が30.3%と最も高く、次いで「職名も活動内容も知らない」が29.3%、「職名は聞いたことがあり活動内容も知っているが、地区担当者は知らない」が23.9%となっています。

前回調査との比較をみると、「職名も活動内容も知らない」が6.3ポイント低くなっています。



※その他の回答では、「当地区には不在」や「親は知っているが自身は知らない」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「職名も活動内容も知らない」、「女性」で「職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、年齢が上がるにつれて「活動内容も地区担当者も知っている」割合が高くなっており、特に「75歳以上」で21.6%と、他の年代に比べ高くなっています。また、「18～29歳」から「40～49歳」では「職名も活動内容も知らない」が最も高くなっています。

(単位：%)

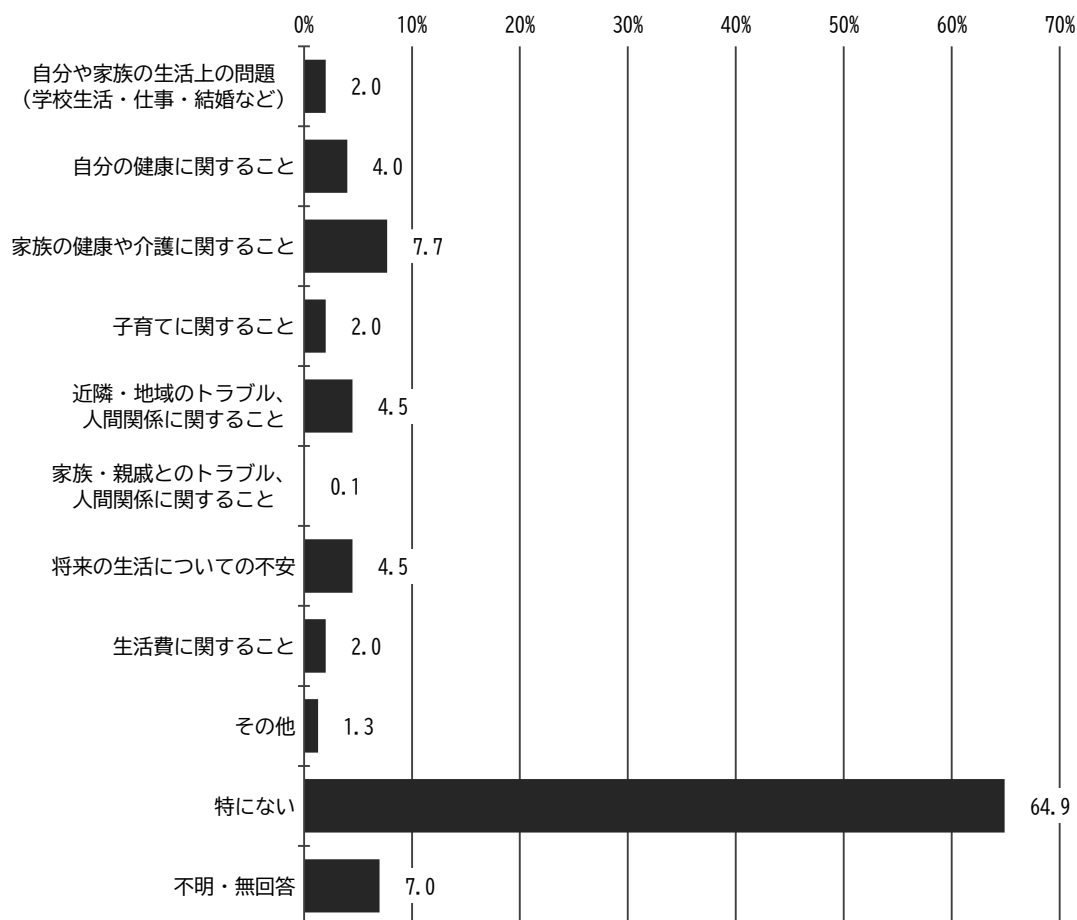
	n(人)	活動内容も地区担当者も知っている	職名は聞いたことがあり活動内容も知っているが、地区担当者は知らない	職名は聞いたことがあるが、活動内容までは知らない	職名も活動内容も知らない	その他	不明・無回答
【性別】							
男性	502	10.2	22.3	29.7	33.3	0.8	3.8
女性	566	12.4	25.1	31.6	25.8	1.1	4.1
【年代別】							
18～29歳	89	2.2	10.1	21.3	65.2	0.0	1.1
30～39歳	98	1.0	11.2	31.6	54.1	1.0	1.0
40～49歳	101	3.0	22.8	27.7	42.6	1.0	3.0
50～59歳	156	6.4	23.1	34.6	33.3	0.0	2.6
60～64歳	90	10.0	27.8	33.3	26.7	0.0	2.2
65～74歳	242	13.6	24.4	37.6	18.6	0.8	5.0
75歳以上	306	21.6	31.0	25.2	13.4	2.0	6.9

問 17 あなたは、今後、民生委員・児童委員にどのようなことを相談したいと思いますか。

〔〇は1つだけ〕

今後、民生委員・児童委員に相談したい内容については、全体で「特にない」が64.9%と最も高く、次いで「家族の健康や介護に関すること」が7.7%、「近隣・地域のトラブル、人間関係に関すること」「将来の生活についての不安」が4.5%となっています。

(n=1,094)

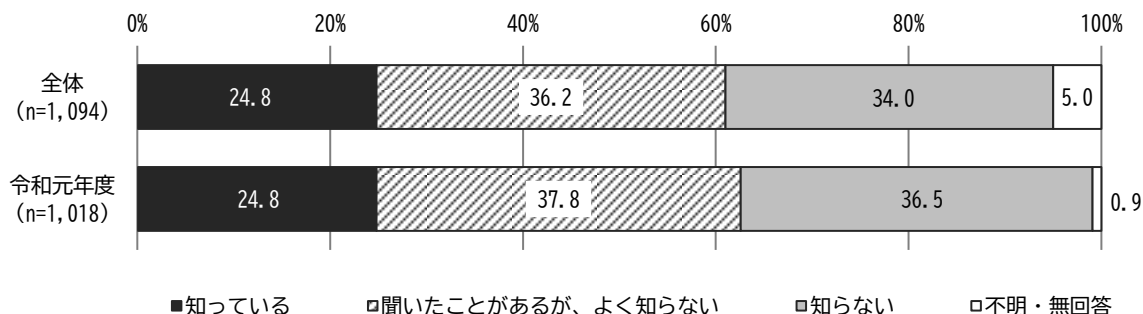


※その他の回答では、「どのようなものなのかわからない」や「問題が発生した際に機会があれば相談したい」等の意見がありました。

問 18 あなたは、地域福祉の推進を図るために様々な活動を行っている「社会福祉協議会」という組織をご存知ですか。〔〇は1つだけ〕

「社会福祉協議会」の認知度については、全体で「聞いたことがあるが、よく知らない」が36.2%と最も高く、次いで「知らない」が34.0%、「知っている」が24.8%となっています。

前回調査との比較をみると、大きな差はみられません。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「知らない」、「女性」で「聞いたことがあるが、よく知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「50～59歳」で「知らない」、「60歳以上」で「聞いたことがあるが、よく知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	知っている	聞いたことがあるが、よく知らない	知らない	不明・無回答
【性別】					
男性	502	22.1	33.5	39.2	5.2
女性	566	27.4	39.0	29.0	4.6
【年代別】					
18～29歳	89	13.5	22.5	60.7	3.4
30～39歳	98	15.3	32.7	52.0	0.0
40～49歳	101	14.9	33.7	47.5	4.0
50～59歳	156	22.4	35.3	38.5	3.8
60～64歳	90	25.6	46.7	23.3	4.4
65～74歳	242	28.5	39.3	26.4	5.8
75歳以上	306	33.0	37.3	22.2	7.5

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

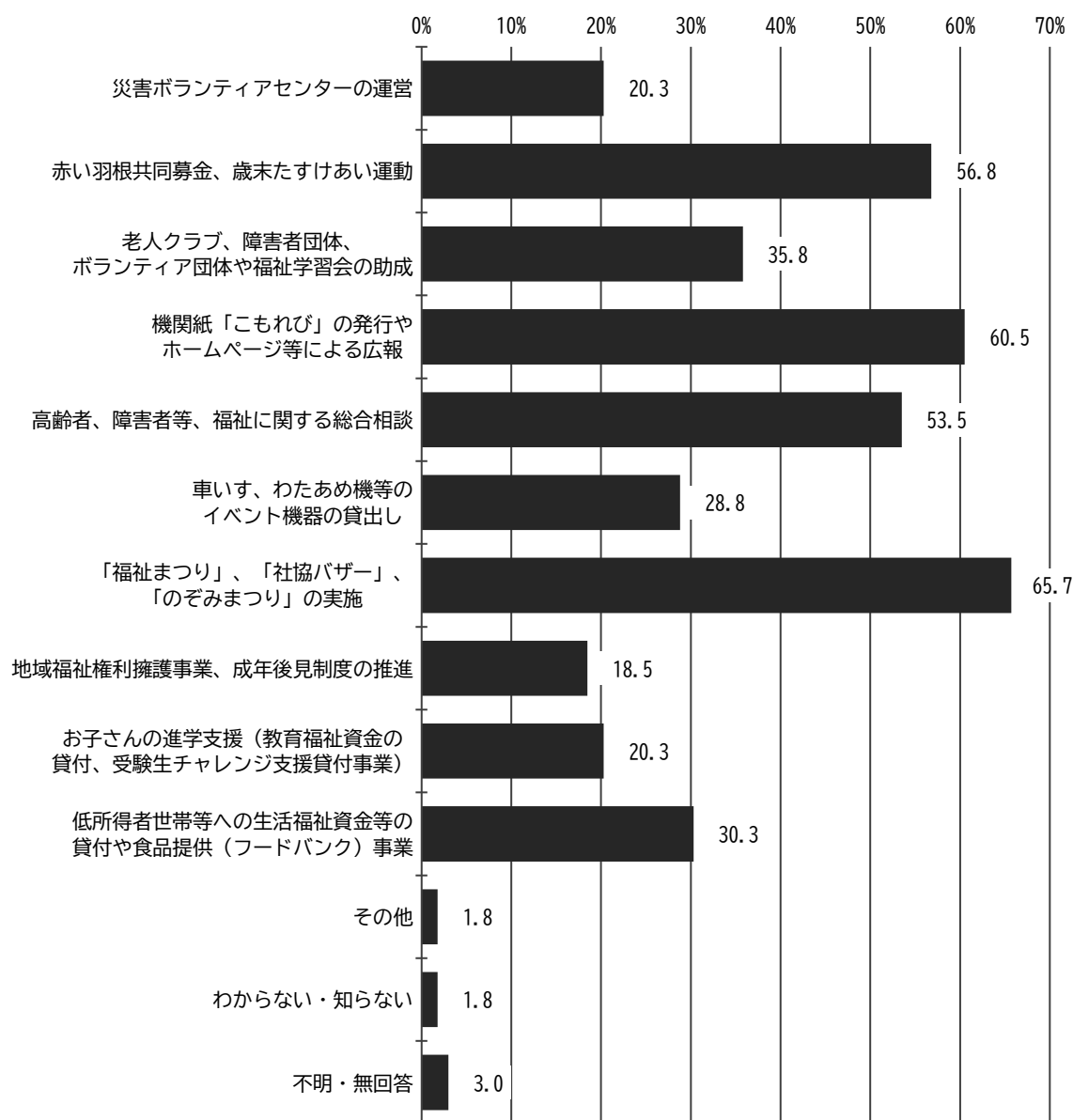
問 18で「知っている」を選択した方

問 18-1 あなたの知っている社会福祉協議会の活動は次のうちどれですか。

【あてはまるもの全てに○】

社会福祉協議会の活動で知っている内容については、全体で『『福祉まつり』、『社協バザー』『のぞみまつり』の実施』が65.7%と最も高く、次いで「機関紙『こもれび』の発行やホームページ等による広報」が60.5%、「赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動」が56.8%となっています。

(n=271)



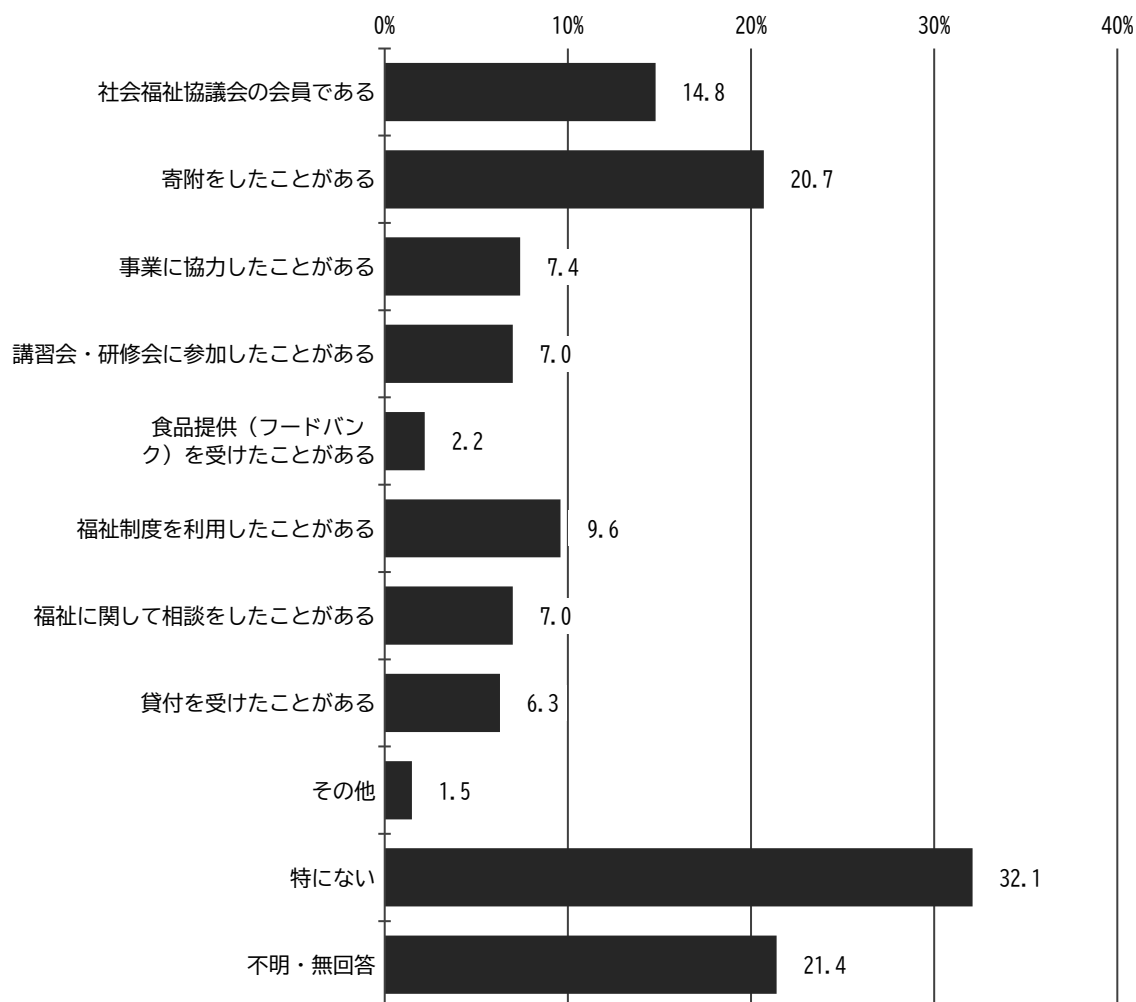
※その他の回答では、「市役所福祉部門との連携・調整」や「名前だけ」等の意見がありました。

問 18で「知っている」を選択した方

問 18-2 社会福祉協議会は市民の皆様からの会費や寄附金で様々な地域福祉事業を展開していますが、あなたは社会福祉協議会を利用したことがありますか。[あてはまるもの全てに○]

社会福祉協議会を利用した経験については、全体で「特にない」が32.1%と最も高く、次いで「寄附をしたことがある」が20.7%、「社会福祉協議会の会員である」が14.8%となっています。

(n=271)



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「特にない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「社会福祉協議会の会員である」が「40～49歳」と「65歳以上」で他の年代に比べ高くなっています。また、「特にない」が「18～29歳」で66.7%と他の年代に比べ高くなっています。

(単位：%)

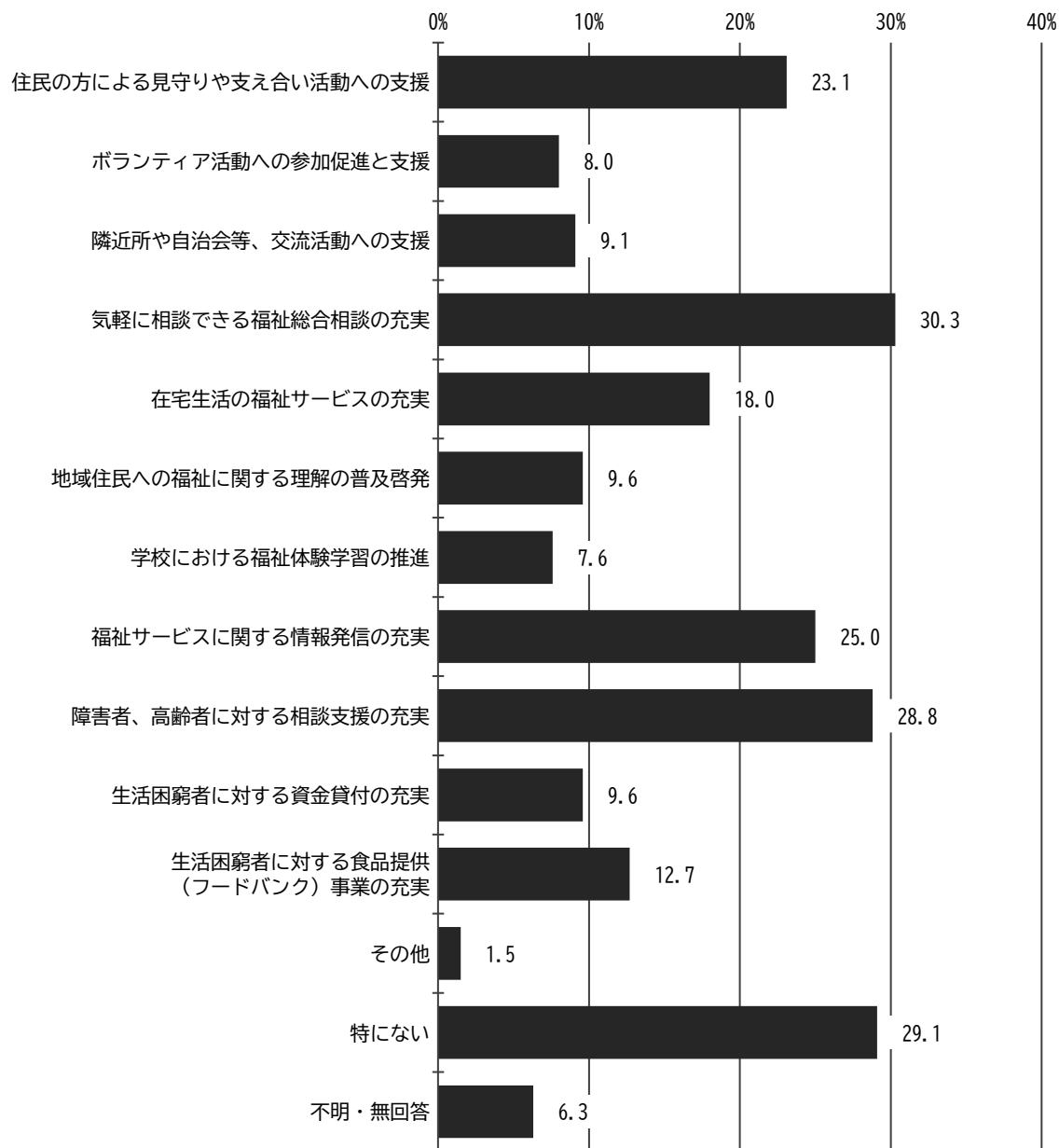
	n(人)	社会福祉協議会の会員である	寄附をしたことがある	事業に協力したことがある	講習会・研修会に参加したことがある	食品提供(フードバンク)を受けたことがある	福祉制度を利用したことがある	福祉に関して相談をしたことがある	貸付を受けたことがある	その他	特にない	不明・無回答
【性別】												
男性	111	18.9	23.4	9.9	5.4	3.6	14.4	8.1	6.3	2.7	32.4	15.3
女性	155	11.0	17.4	5.2	7.7	1.3	6.5	6.5	6.5	0.6	32.9	25.2
【年代別】												
18～29歳	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	66.7	25.0
30～39歳	15	6.7	20.0	6.7	13.3	0.0	20.0	13.3	13.3	0.0	40.0	13.3
40～49歳	15	13.3	0.0	0.0	6.7	20.0	6.7	20.0	13.3	0.0	20.0	33.3
50～59歳	35	0.0	14.3	5.7	11.4	0.0	8.6	2.9	11.4	8.6	37.1	11.4
60～64歳	23	0.0	8.7	0.0	0.0	8.7	17.4	8.7	13.0	0.0	43.5	17.4
65～74歳	69	26.1	29.0	13.0	11.6	1.4	13.0	4.3	5.8	1.4	21.7	23.2
75歳以上	101	18.8	25.7	7.9	4.0	0.0	5.9	6.9	2.0	0.0	31.7	22.8

◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

問 19 社会福祉協議会が行う活動・支援として、今後、充実してほしいものは次のうちどれですか。[あてはまるもの全てに○]

社会福祉協議会が行う活動・支援として、今後、充実してほしいものについては、全体で「気軽に相談できる福祉総合相談の充実」が30.3%と最も高く、次いで「特にない」が29.1%、「障害者、高齢者に対する相談支援の充実」が28.8%となっています。

(n=1,094)



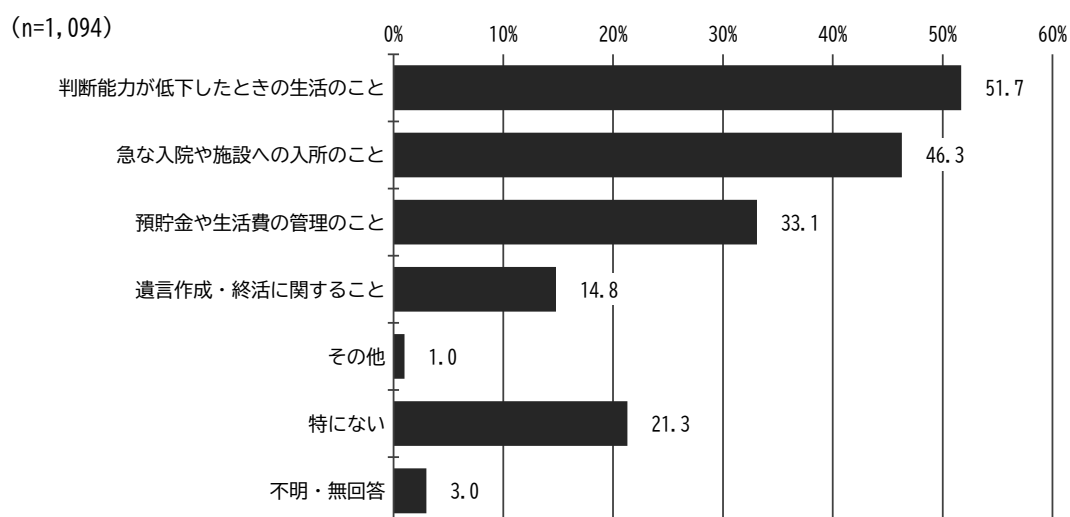
※その他の回答では、「学童保育の充実」「不登校児への学習支援」「子育てと福祉のイベント」等の意見がありました。

5 権利擁護支援について

問 20 あなたは将来の備えとして、どのようなことに不安を感じますか。

[あてはまるもの全てに○]

将来の備えとして、不安を感じることは、全体は「判断能力が低下したときの生活のこと」が51.7%と最も高く、次いで「急な入院や施設への入所のこと」が46.3%、「預貯金や生活費の管理のこと」が33.1%となっています。



※その他の回答では、「障害を持つ子供の将来」や「自分が動けなくなった後の家族の世話」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「判断能力が低下したときの生活のこと」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「40～49歳」で「預貯金や生活費の管理のこと」、「50歳以上」で「判断能力が低下したときの生活のこと」がそれぞれ最も高くなっています。

世帯構成別にみると、「預貯金や生活費の管理のこと」が「親と子と孫（三世代）」と「その他の世帯」で、他の世帯構成に比べわずかに低くなっています。

(単位：%)

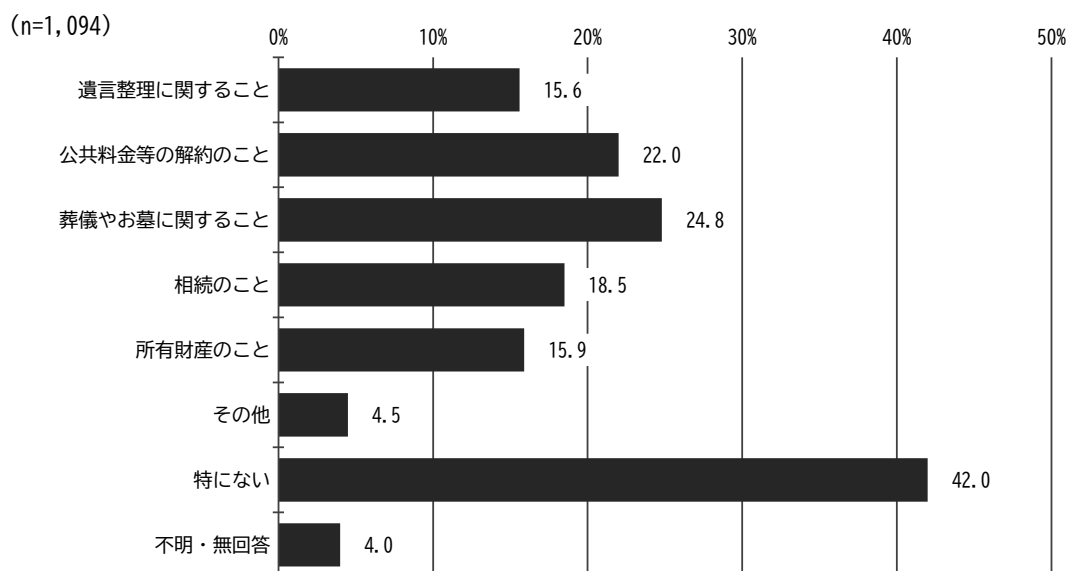
	n(人)	判断能力が低下したときの生活のこと	急な入院や施設への入所のこと	預貯金や生活費の管理のこと	遺言作成・終活に関すること	その他	特にない	不明・無回答
【性別】								
男性	502	50.6	46.0	33.9	14.9	1.0	23.9	2.2
女性	566	53.2	47.3	33.0	14.3	1.1	18.9	3.0
【年代別】								
18～29歳	89	32.6	41.6	55.1	6.7	1.1	25.8	0.0
30～39歳	98	44.9	48.0	64.3	15.3	1.0	22.4	0.0
40～49歳	101	45.5	46.5	49.5	18.8	2.0	16.8	2.0
50～59歳	156	55.8	53.8	43.6	14.1	1.3	17.9	0.6
60～64歳	90	54.4	41.1	27.8	10.0	2.2	26.7	1.1
65～74歳	242	59.9	46.7	27.7	18.2	0.4	19.0	2.9
75歳以上	306	52.6	44.8	12.4	15.0	0.7	23.5	5.9
【世帯構成別】								
1人(单身)	161	57.1	47.2	21.1	13.7	0.6	19.3	6.8
夫婦のみ	287	58.5	48.8	24.0	16.4	0.7	16.4	3.8
親と子(二世帯)	308	45.8	44.5	37.3	14.3	0.6	25.3	1.6
親と子と孫(三世代)	33	57.6	48.5	18.2	18.2	0.0	24.2	0.0
その他の世帯	27	59.3	48.1	18.5	7.4	3.7	25.9	3.7

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問21 あなたは、自身が亡くなった後のことで不安なことはありますか。

[あてはまるもの全てに○]

自身が亡くなった後のことで不安なことについては、全体で「特にない」が42.0%と最も高く、次いで「葬儀やお墓に関すること」が24.8%、「公共料金等の解約のこと」が22.0%となっています。



※その他の回答では、「家族の生活（障害のある子供や引きこもり等含む）」や「家財の整理」「賃貸の退去」「携帯電話やサブスクリプション等の解約手続き」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「特にない」が最も高くなっています。

年代別にみると、いずれも「特にない」が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、「遺言整理に関すること」が「その他の世帯」で22.2%と他の世帯構成に比べ高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	遺言整理に関すること	公共料金等の解約のこと	葬儀やお墓に関すること	相続のこと	所有財産のこと	その他	特にない	不明・無回答
【性別】									
男性	502	15.9	21.3	26.9	19.9	17.7	3.2	41.4	3.2
女性	566	14.8	22.8	23.1	17.1	14.0	5.8	42.4	4.1
【年代別】									
18～29歳	89	10.1	13.5	20.2	11.2	12.4	5.6	59.6	1.1
30～39歳	98	17.3	29.6	30.6	24.5	22.4	8.2	39.8	0.0
40～49歳	101	18.8	23.8	23.8	16.8	28.7	8.9	32.7	3.0
50～59歳	156	17.3	30.8	31.4	23.1	19.9	5.8	33.3	1.9
60～64歳	90	12.2	20.0	23.3	8.9	13.3	6.7	51.1	1.1
65～74歳	242	17.4	23.6	30.6	18.2	14.0	1.7	41.7	3.3
75歳以上	306	14.4	16.7	17.3	20.6	10.8	2.6	43.1	7.5
【世帯構成別】									
1人(单身)	161	12.4	24.8	26.1	13.7	10.6	3.1	44.7	5.6
夫婦のみ	287	15.3	24.0	24.7	19.9	13.6	2.1	37.6	5.9
親と子(二世帯)	308	14.6	18.5	26.3	16.9	14.9	8.1	44.5	2.3
親と子と孫(三世帯)	33	9.1	9.1	18.2	21.2	18.2	6.1	36.4	6.1
その他の世帯	27	22.2	29.6	25.9	11.1	18.5	3.7	37.0	7.4

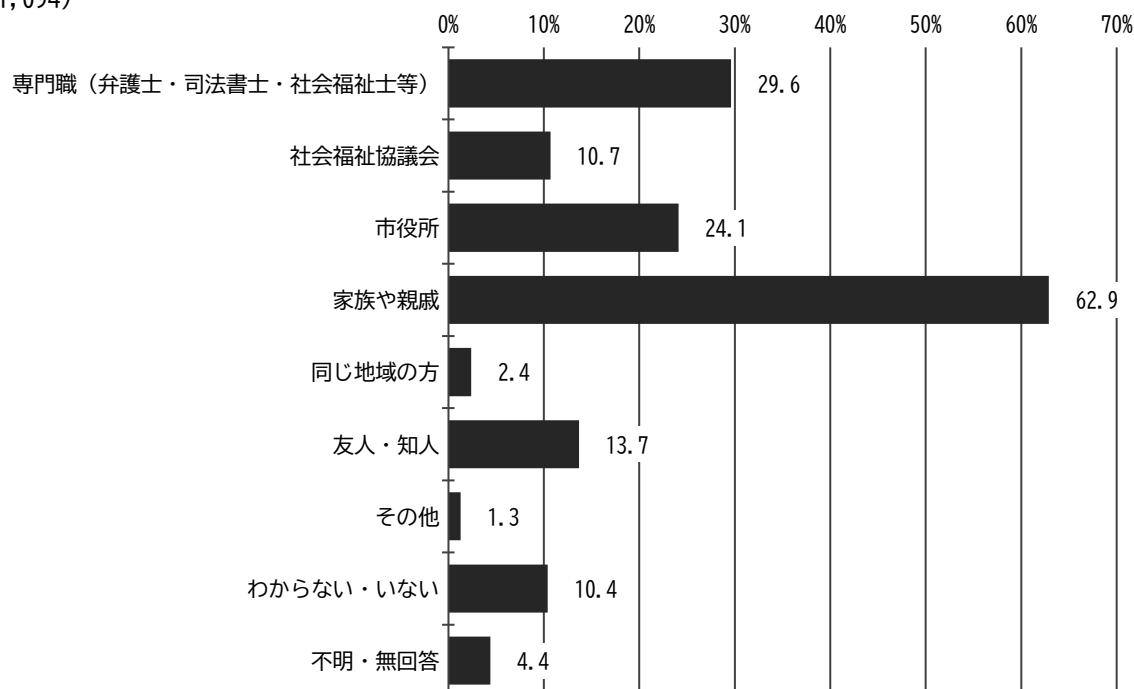
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 22 問 20・21 について、必要となったとき、どこに（誰に）に相談したいですか。

【あてはまるもの全てに○】

不安ごとを相談したい場所については、全体で「家族や親戚」が62.9%と最も高く、次いで「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が29.6%、「市役所」が24.1%となっています。

(n=1,094)



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「家族や親戚」が最も高くなっています。

年代別にみると、「友人・知人」が「18～29歳」から「40～49歳」の比較的若い年代で高くなっています。

世帯構成別にみると、「市役所」が「その他の世帯」で37.0%と他の世帯構成に比べ高くなっています。

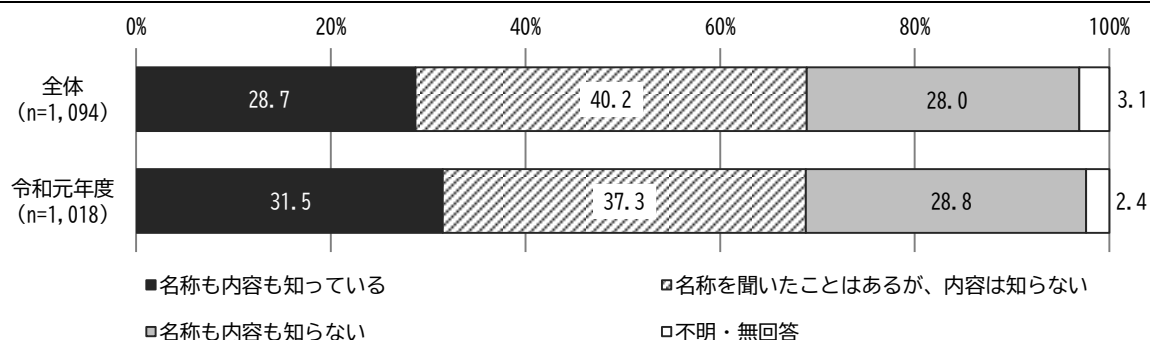
(単位：%)

	n(人)	専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士等)	社会福祉協議会	市役所	家族や親戚	同じ地域の方	友人・知人	その他	わからない・いない	不明・無回答
【性別】										
男性	502	30.3	10.4	26.1	59.0	2.2	11.0	1.2	12.7	5.2
女性	566	28.8	11.0	23.0	67.0	2.5	15.9	1.4	8.3	3.2
【年代別】										
18～29歳	89	28.1	9.0	23.6	65.2	1.1	24.7	1.1	15.7	1.1
30～39歳	98	36.7	8.2	22.4	61.2	3.1	26.5	1.0	16.3	0.0
40～49歳	101	40.6	5.0	20.8	60.4	2.0	20.8	0.0	12.9	3.0
50～59歳	156	38.5	9.6	29.5	59.0	1.9	15.4	0.6	12.8	2.6
60～64歳	90	26.7	11.1	25.6	64.4	2.2	16.7	1.1	10.0	2.2
65～74歳	242	27.3	13.2	25.6	62.4	3.3	10.3	1.7	9.9	5.4
75歳以上	306	22.9	12.1	21.9	66.3	2.3	4.9	2.0	5.9	7.2
【世帯構成別】										
1人(单身)	161	18.6	11.8	21.1	62.1	2.5	11.8	0.6	10.6	7.5
夫婦のみ	287	27.9	12.2	23.0	66.9	1.7	9.4	2.1	8.4	3.8
親と子(二世帯)	308	28.9	10.4	24.7	64.9	3.6	14.9	1.6	10.1	4.5
親と子と孫(三世帯)	33	36.4	12.1	15.2	63.6	6.1	12.1	0.0	6.1	3.0
その他の世帯	27	25.9	14.8	37.0	44.4	3.7	22.2	3.7	14.8	11.1

問 23 あなたは、成年後見制度について、説明文を読む以前からどの程度知っていましたか
 【○は1つだけ】

成年後見制度の認知度については、全体で「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が40.2%と最も高く、次いで「名称も内容も知っている」が28.7%、「名称も内容も知らない」が28.0%となっています。

前回調査との比較をみると、大きな差はみられません。



※令和元年度調査：あなたは成年後見制度についてご存知ですか。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「名称も内容も知らない」が「18～29歳」で65.2%と他の年代に比べ特に高くなっています。

世帯構成別にみると、「1人(単身)」で「名前も名称も知っている」、それ以外では「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」がそれぞれ最も高くなっています。

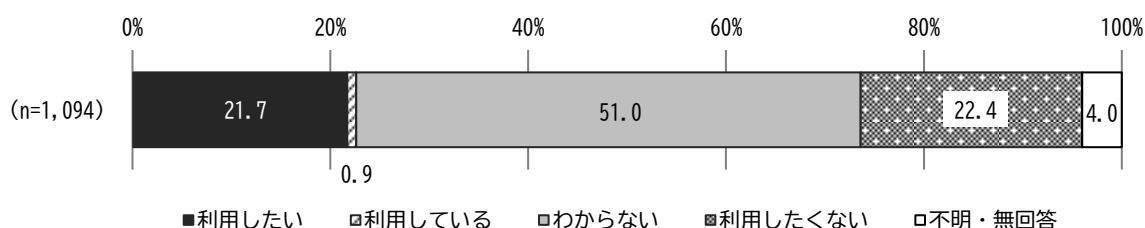
(単位：%)

	n(人)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	不明・無回答
【性別】					
男性	502	27.7	38.6	30.7	3.0
女性	566	30.0	41.2	26.1	2.7
【年代別】					
18～29歳	89	16.9	18.0	65.2	0.0
30～39歳	98	26.5	30.6	42.9	0.0
40～49歳	101	22.8	45.5	28.7	3.0
50～59歳	156	28.8	44.2	26.3	0.6
60～64歳	90	33.3	43.3	21.1	2.2
65～74歳	242	30.6	43.0	23.6	2.9
75歳以上	306	32.7	42.2	19.3	5.9
【世帯構成別】					
1人(単身)	161	34.2	33.5	26.1	6.2
夫婦のみ	287	30.3	45.3	20.2	4.2
親と子(二世帯)	308	28.2	36.4	33.1	2.3
親と子と孫(三世帯)	33	24.2	51.5	24.2	0.0
その他の世帯	27	18.5	44.4	33.3	3.7

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 24 あなたは、万一自分自身またはご家族が認知症等により判断ができなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。【○は1つだけ】

万一の場合、成年後見制度を利用したいと思うかについては、全体で「わからない」が51.0%と最も高く、次いで「利用したくない」が22.4%、「利用したい」が21.7%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「わからない」が最も高くなっています。

年代別にみると、年代が上がるにつれて「利用したい」が低い傾向となっています。

世帯構成別にみると、いずれの世帯構成でも「わからない」が最も高くなっています。また、「利用したい」が「親と子と孫（三世代）」で33.3%と、他の世帯構成に比べて高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	利用したい	利用している	わからない	利用したくない	不明・無回答
【性別】						
男性	502	21.5	1.2	52.6	20.7	4.0
女性	566	22.1	0.7	50.0	23.5	3.7
【年代別】						
18～29歳	89	31.5	0.0	66.3	2.2	0.0
30～39歳	98	34.7	0.0	51.0	14.3	0.0
40～49歳	101	23.8	0.0	56.4	16.8	3.0
50～59歳	156	21.8	0.6	61.5	14.1	1.9
60～64歳	90	21.1	1.1	52.2	24.4	1.1
65～74歳	242	16.5	0.4	49.6	28.9	4.5
75歳以上	306	18.3	2.3	40.8	31.0	7.5
【世帯構成別】						
1人(单身)	161	20.5	3.1	37.9	29.8	8.7
夫婦のみ	287	20.2	0.7	48.4	26.5	4.2
親と子(二世代)	308	18.5	0.3	55.8	21.4	3.9
親と子と孫(三世代)	33	33.3	0.0	42.4	24.2	0.0
その他の世帯	27	14.8	0.0	63.0	22.2	0.0

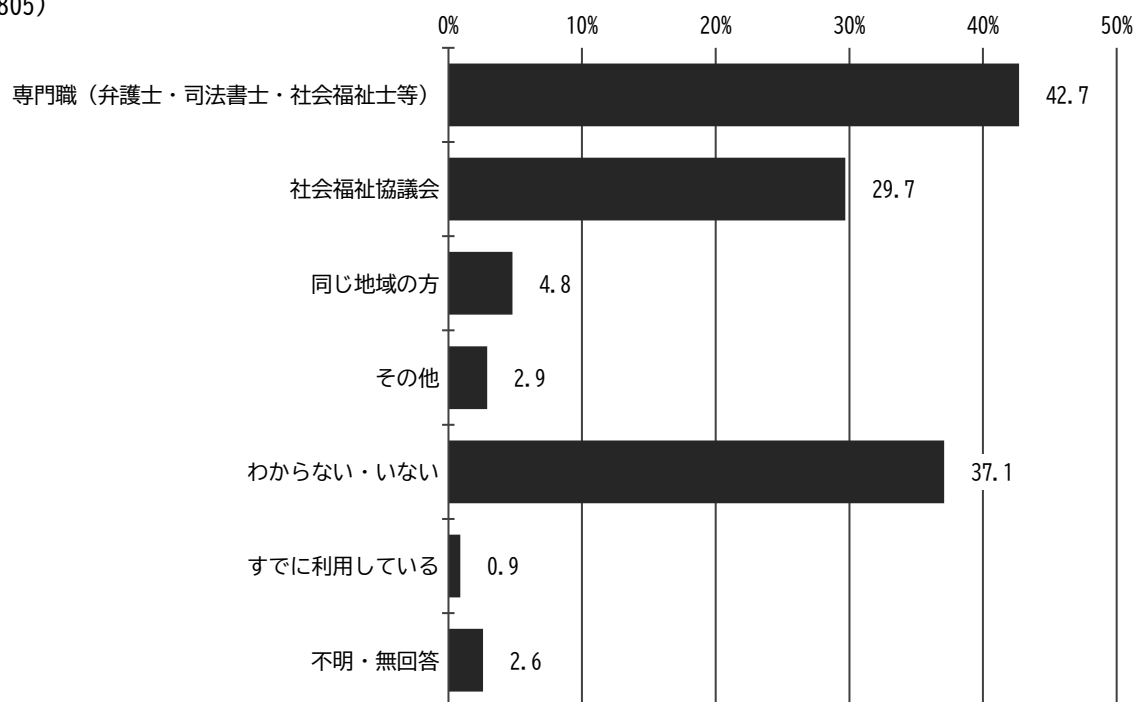
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 24 で「利用したい」「利用している」「わからない」のいずれかを選択した方

問 24-1 あなた自身の判断能力が低下して身近に支援できる親族などがない場合、どこに（誰に）支援してほしいですか。[あてはまるもの全てに○]

自身の判断能力が低下して身近に支援できる親族などがない場合、どこに（誰に）支援してほしいかについては、全体で「専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士等）」が 42.7%と最も高く、次いで「わからない・いない」が 37.1%、「社会福祉協議会」が 29.7%となっています。

(n=805)

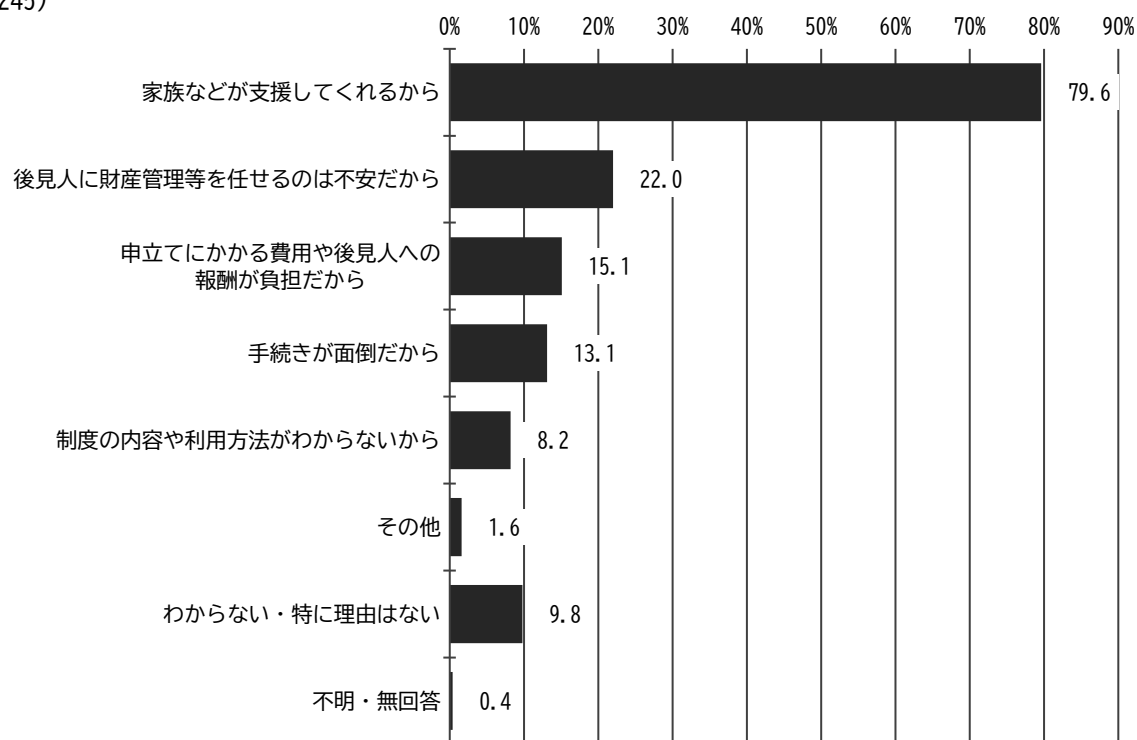


問 24 で「利用したくない」を選択した方

問 24-2 成年後見制度を利用したくない理由は何ですか。[あてはまるもの全てに○]

成年後見制度を利用したくない理由については、全体で「家族などが支援してくれるから」が 79.6%と最も高く、次いで「後見人に財産管理等を任せるのは不安だから」が 22.0%、「申立てにかかる費用や後見人への報酬が負担だから」が 15.1%となっています。

(n=245)



※その他の回答では、「子供や親族に任せたい」や「第三者に対する心配」「制度への不満」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「家族などが支援してくれるから」が最も高くなっています。

年代別にみると、「40～49 歳」で「後見人に財産管理等を任せるのは不安だから」、「40～49 歳」以外のすべての年代で「家族などが支援してくれるから」がそれぞれ最も高くなっています。

世帯構成別にみると、「後見人に財産管理等を任せるのは不安だから」が「1人（単身）」で6.3%と、他の世帯構成に比べ低くなっています。

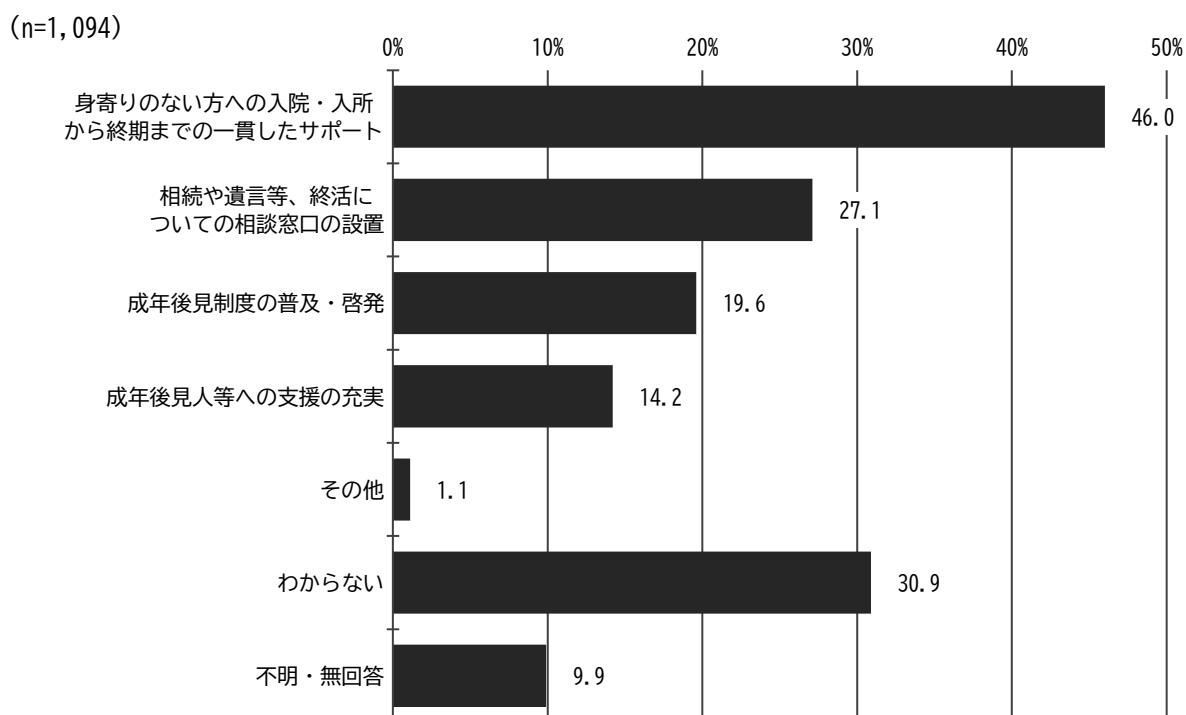
	n(人)	家族などが支援してくれるから	後見人に財産管理等を任せるのは不安だから	申立てにかかる費用や後見人への報酬が負担だから	手続きが面倒だから	制度の内容や利用方法がわからないから	その他	わからない・特に理由はない	不明・無回答
【性別】									
男性	104	77.9	26.9	19.2	14.4	11.5	1.0	8.7	1.0
女性	133	82.7	18.8	12.8	12.0	5.3	2.3	9.0	0.0
【年代別】									
30～39歳	14	64.3	28.6	28.6	21.4	14.3	0.0	14.3	0.0
40～49歳	17	52.9	70.6	41.2	29.4	23.5	5.9	5.9	0.0
50～59歳	22	59.1	40.9	27.3	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0
60～64歳	22	72.7	13.6	22.7	13.6	0.0	0.0	9.1	0.0
65～74歳	70	85.7	18.6	10.0	12.9	7.1	0.0	8.6	1.4
75歳以上	95	90.5	12.6	6.3	8.4	5.3	1.1	10.5	0.0
【世帯構成別】									
1人(単身)	48	89.6	6.3	8.3	6.3	4.2	2.1	12.5	0.0
夫婦のみ	76	82.9	22.4	11.8	18.4	11.8	0.0	5.3	0.0
親と子(二世帯)	66	74.2	33.3	24.2	13.6	6.1	3.0	10.6	1.5

◆表中の色分け： **第1位** **第2位** **第3位**

※クロス集計【年代別】の「18～29 歳」、【世帯構成別】の「親と子と孫（三世帯）」、「その他の世帯」は回答が5件以下のため省略

問 25 権利擁護支援について、今後どのような取組が必要だと感じますか。[3つまでに○]

権利擁護支援において今後必要な取組については、全体で「身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート」が46.0%と最も高く、次いで「わからない」が30.9%、「相続や遺言等、終活についての相談窓口の設置」が27.1%となっています。



※その他の回答では、「単身高齢者の異変を早期に察知する仕組み」や「制度の見直し」「その時になるまで分からない」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、男女ともに「身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」では「わからない」、「30歳代」以上のすべての年代で「身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート」が最も高くなっています。

世帯構成別にみると、すべての世帯構成において「身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート」が最も高くなっています。また、「相続や遺言等、終活についての相談窓口の設置」が「親と子と孫（三世代）」で39.4%と他の世帯構成に比べて高くなっています。

	n(人)	身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート	相続や遺言等、終活についての相談窓口の設置	成年後見制度の普及・啓発	成年後見人等への支援の充実	その他	わからない	不明・無回答
【性別】								
男性	502	43.4	22.7	20.1	14.1	1.4	33.7	9.4
女性	566	48.6	30.7	18.9	14.0	0.7	29.2	9.7
【年代別】								
18～29歳	89	38.2	16.9	21.3	16.9	0.0	42.7	4.5
30～39歳	98	48.0	24.5	23.5	21.4	3.1	29.6	9.2
40～49歳	101	55.4	29.7	29.7	13.9	0.0	24.8	7.9
50～59歳	156	57.1	32.7	28.2	24.4	0.0	26.3	4.5
60～64歳	90	55.6	31.1	17.8	14.4	0.0	28.9	4.4
65～74歳	242	45.0	29.3	15.3	11.2	1.2	31.8	9.1
75歳以上	306	37.3	24.5	14.1	8.5	1.6	33.3	16.0
【世帯構成別】								
1人(单身)	161	42.2	24.2	16.8	12.4	0.6	33.5	14.3
夫婦のみ	287	46.0	27.5	16.0	10.8	1.7	26.5	11.1
親と子(二世帯)	308	43.2	26.6	18.5	13.0	1.3	31.5	12.7
親と子と孫(三世代)	33	42.4	39.4	27.3	3.0	0.0	36.4	9.1
その他の世帯	27	48.1	22.2	11.1	11.1	0.0	40.7	7.4

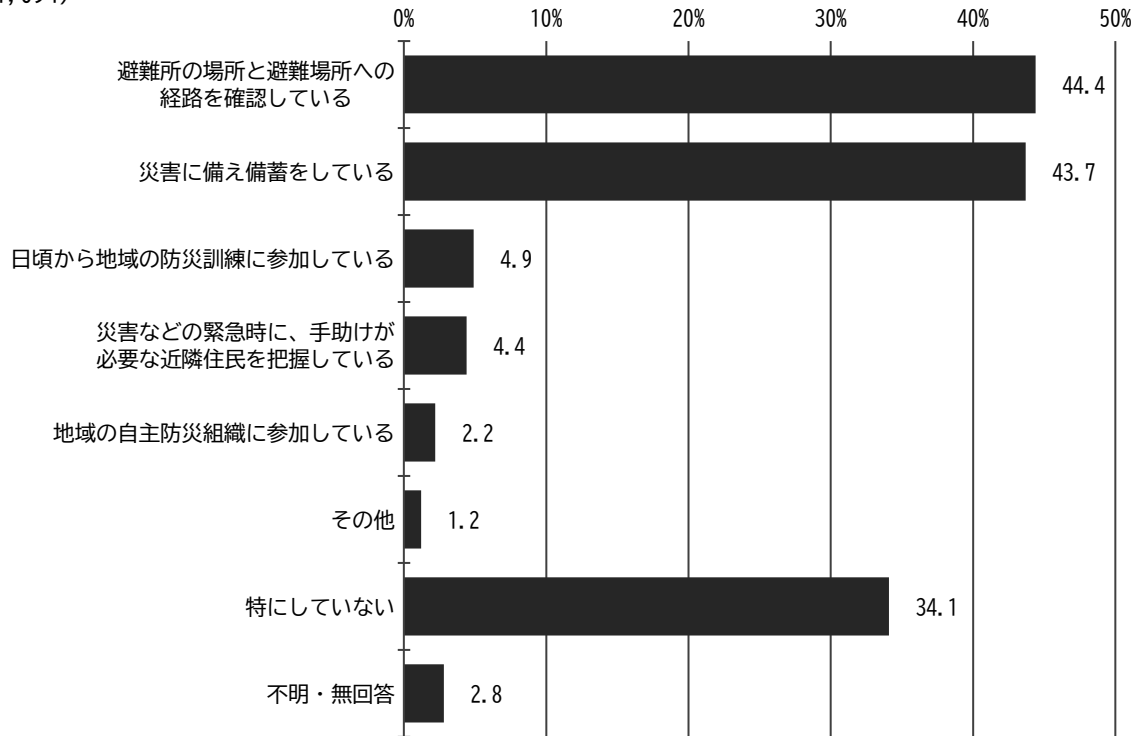
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

6 災害対策について

問 26 災害発生時に備えて、どのような取組をしていますか。[あてはまるもの全てに○]

災害発生時に備えた取組については、全体で「避難所の場所と避難場所への経路を確認している」が44.4%と最も高く、次いで「災害に備え備蓄をしている」が43.7%、「特にしていない」が34.1%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「枕元に靴を用意する」や「情報収集」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「災害に備え備蓄をしている」、「女性」で「避難所の場所と避難場所への経路を確認している」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「18～19歳」から「50～59歳」で「災害に備え備蓄をしている」、「60歳以上」で「避難所の場所と避難場所への経路を確認している」がそれぞれ最も高くなっています。

エリア別にみると、「日頃から地域の防災訓練に参加している」が「緑が丘エリア」で14.0%と、他のエリアに比べて高くなっています。

(単位：%)

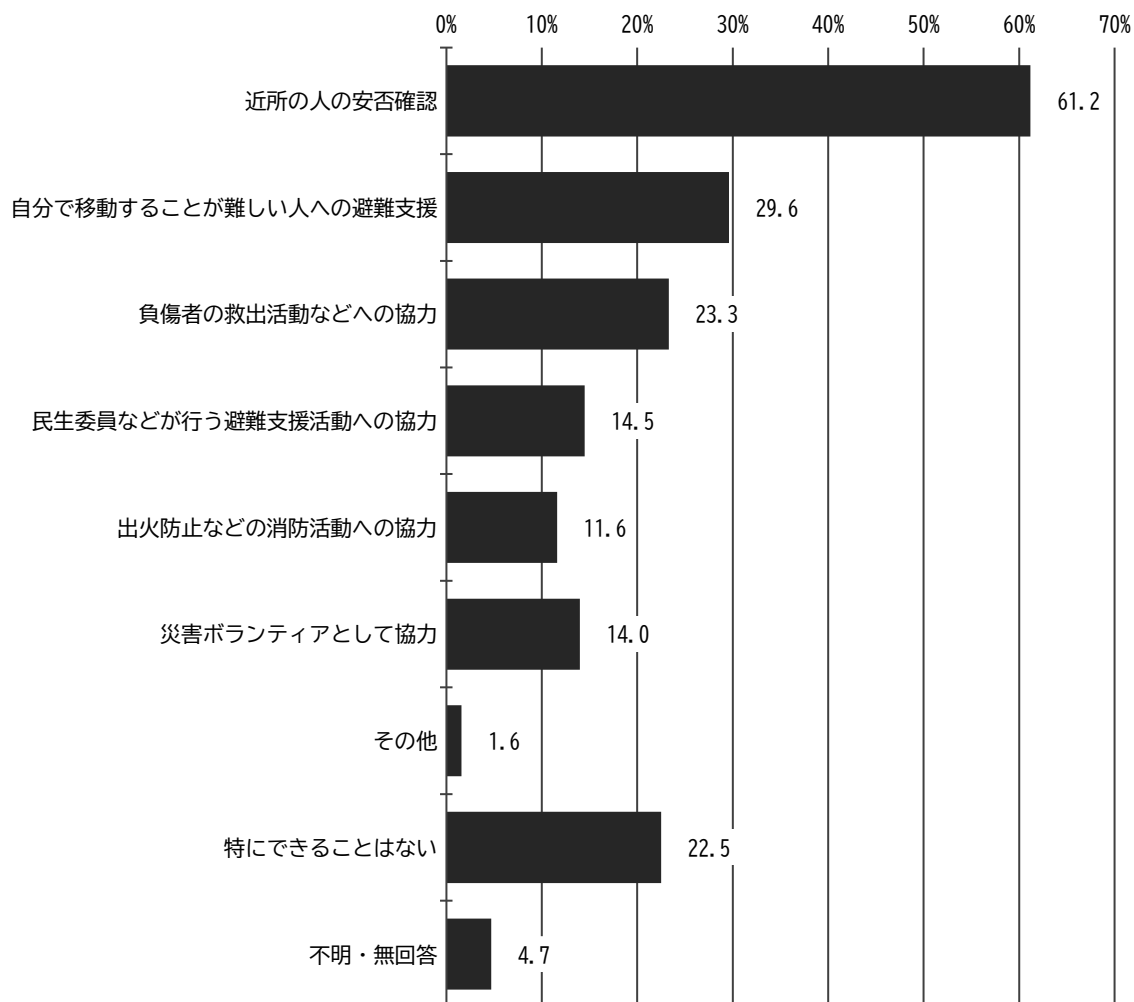
	n(人)	避難所の場所と避難場所への経路を確認している	災害に備え備蓄をしている	日頃から地域の防災訓練に参加している	災害などの緊急時に、手助けが必要な近隣住民を把握している	地域の自主防災組織に参加している	その他	特にしていない	不明・無回答
【性別】									
男性	502	41.2	41.4	6.4	3.8	2.2	1.8	37.6	2.2
女性	566	47.7	46.3	3.7	4.8	2.3	0.7	30.4	3.0
【年代別】									
18～29歳	89	33.7	44.9	4.5	1.1	0.0	1.1	37.1	0.0
30～39歳	98	37.8	49.0	2.0	2.0	0.0	1.0	31.6	0.0
40～49歳	101	44.6	51.5	3.0	2.0	1.0	2.0	27.7	4.0
50～59歳	156	42.3	44.9	1.3	5.1	0.0	0.6	35.3	0.6
60～64歳	90	46.7	45.6	5.6	2.2	1.1	1.1	32.2	2.2
65～74歳	242	50.8	44.6	5.8	3.3	2.1	1.2	34.3	2.5
75歳以上	306	45.8	37.9	7.8	7.8	5.6	1.3	35.6	4.9
【エリア別】									
西部エリア	352	44.9	44.6	4.8	5.1	1.4	0.6	33.2	1.7
北部エリア	288	48.6	44.8	3.5	3.1	1.4	2.1	31.9	2.8
南部エリア	305	44.3	47.2	2.6	3.3	1.6	1.3	34.1	2.3
緑が丘エリア	136	36.8	32.4	14.0	7.4	7.4	0.7	40.4	5.1

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 27 災害発生時にどのような地域の防災活動に協力できますか。[あてはまるもの全てに○]

災害発生時に協力できる地域の防災活動については、全体で「近所の人への安否確認」が61.2%と最も高く、次いで「自分で移動することが難しい人への避難支援」が29.6%、「負傷者の救出活動などへの協力」が23.3%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「自身の体力や持病への不安」や「家族や子供の安全確保」「意欲はあるが高齢や病気で動けない」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「近所の人の安否確認」が最も高くなっています。

年代別にみると、「特にできることはない」が「75歳以上」で36.3%と他の年代に比べ高くなっています。

エリア別にみると、「特にできることはない」が「緑が丘エリア」で30.9%と他のエリアに比べ高くなっています。

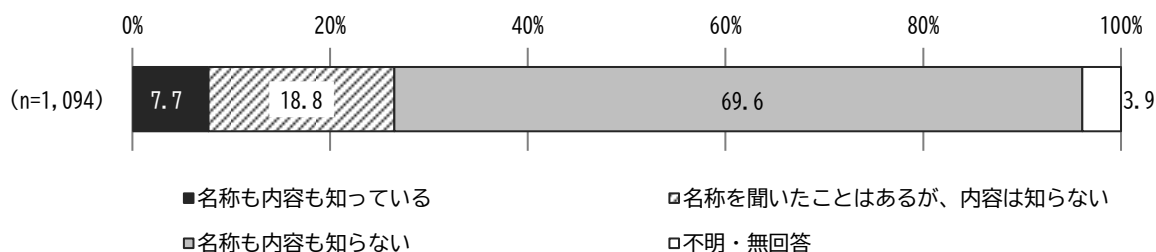
(単位：%)

	n(人)	近所の人の 安否確認	自分で移動 することが 難しい人へ の避難支援	負傷者の救 出活動など への協力	民生委員な どが行う避 難支援活動 への協力	出火防止な どの消防活 動への協力	災害ボラン ティアとして 協力	その他	特にできる ことはない	不明・無回 答
【性別】										
男性	502	60.2	35.7	33.5	14.3	19.1	16.9	1.6	22.9	4.0
女性	566	62.7	24.6	14.1	14.3	5.1	11.8	1.6	21.9	5.1
【年代別】										
18～29歳	89	70.8	30.3	32.6	14.6	11.2	21.3	1.1	13.5	0.0
30～39歳	98	63.3	37.8	32.7	10.2	9.2	12.2	2.0	20.4	1.0
40～49歳	101	68.3	38.6	27.7	17.8	15.8	21.8	1.0	11.9	2.0
50～59歳	156	67.3	35.9	30.8	14.7	12.2	16.7	1.9	19.2	1.3
60～64歳	90	66.7	33.3	23.3	14.4	13.3	18.9	1.1	18.9	2.2
65～74歳	242	68.2	33.5	24.4	16.1	13.2	13.2	0.8	16.5	5.0
75歳以上	306	46.1	17.0	11.8	13.1	9.2	7.8	2.3	36.3	10.1
【エリア別】										
西部エリア	352	61.9	31.0	25.0	13.4	11.6	15.3	1.7	24.1	3.4
北部エリア	288	64.2	30.6	22.2	14.6	11.8	13.5	1.0	18.1	5.9
南部エリア	305	62.0	31.1	27.2	14.4	14.1	14.8	1.3	20.7	3.6
緑が丘エリア	136	52.9	22.1	13.2	16.9	5.9	10.3	2.9	30.9	7.4

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 28 あなたは、避難行動要支援者支援制度について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。【○は1つだけ】

避難行動要支援者支援制度の認知度については、全体で「名称も内容も知らない」が69.6%と最も高く、次いで「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が18.8%、「名称も内容も知っている」が7.7%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「名称も内容も知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が、年代が上がるにつれて高い傾向となっています。

(単位：%)

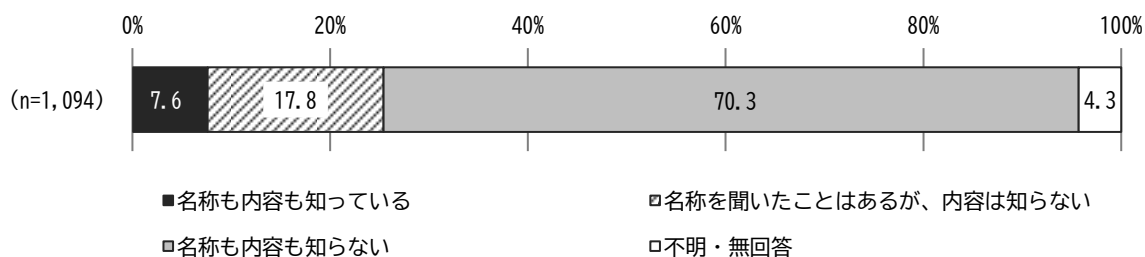
	n(人)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	不明・無回答
【性別】					
男性	502	6.8	18.7	70.5	4.0
女性	566	8.5	18.7	68.9	3.9
【年代別】					
18～29歳	89	6.7	7.9	84.3	1.1
30～39歳	98	6.1	9.2	84.7	0.0
40～49歳	101	6.9	7.9	83.2	2.0
50～59歳	156	7.7	17.3	73.1	1.9
60～64歳	90	7.8	20.0	71.1	1.1
65～74歳	242	9.1	20.2	66.1	4.5
75歳以上	306	7.8	27.8	56.5	7.8

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 29 あなたは、個別避難計画について、説明文を読む以前にどの程度知っていましたか。

【○は1つだけ】

個別避難計画の認知度については、全体で「名称も内容も知らない」が70.3%と最も高く、次いで「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が17.8%、「名称も内容も知っている」が7.6%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「名称も内容も知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「名称を聞いたことはあるが、内容は知らない」が、年代が上がるにつれて高い傾向となっています。

(単位：%)

	n(人)	名称も内容も知っている	名称を聞いたことはあるが、内容は知らない	名称も内容も知らない	不明・無回答
【性別】					
男性	502	6.6	20.3	68.9	4.2
女性	566	8.3	16.1	71.2	4.4
【年代別】					
18～29歳	89	5.6	12.4	79.8	2.2
30～39歳	98	3.1	10.2	86.7	0.0
40～49歳	101	6.9	12.9	78.2	2.0
50～59歳	156	5.8	16.7	76.3	1.3
60～64歳	90	8.9	23.3	66.7	1.1
65～74歳	242	7.0	20.2	69.0	3.7
75歳以上	306	11.1	20.6	58.2	10.1

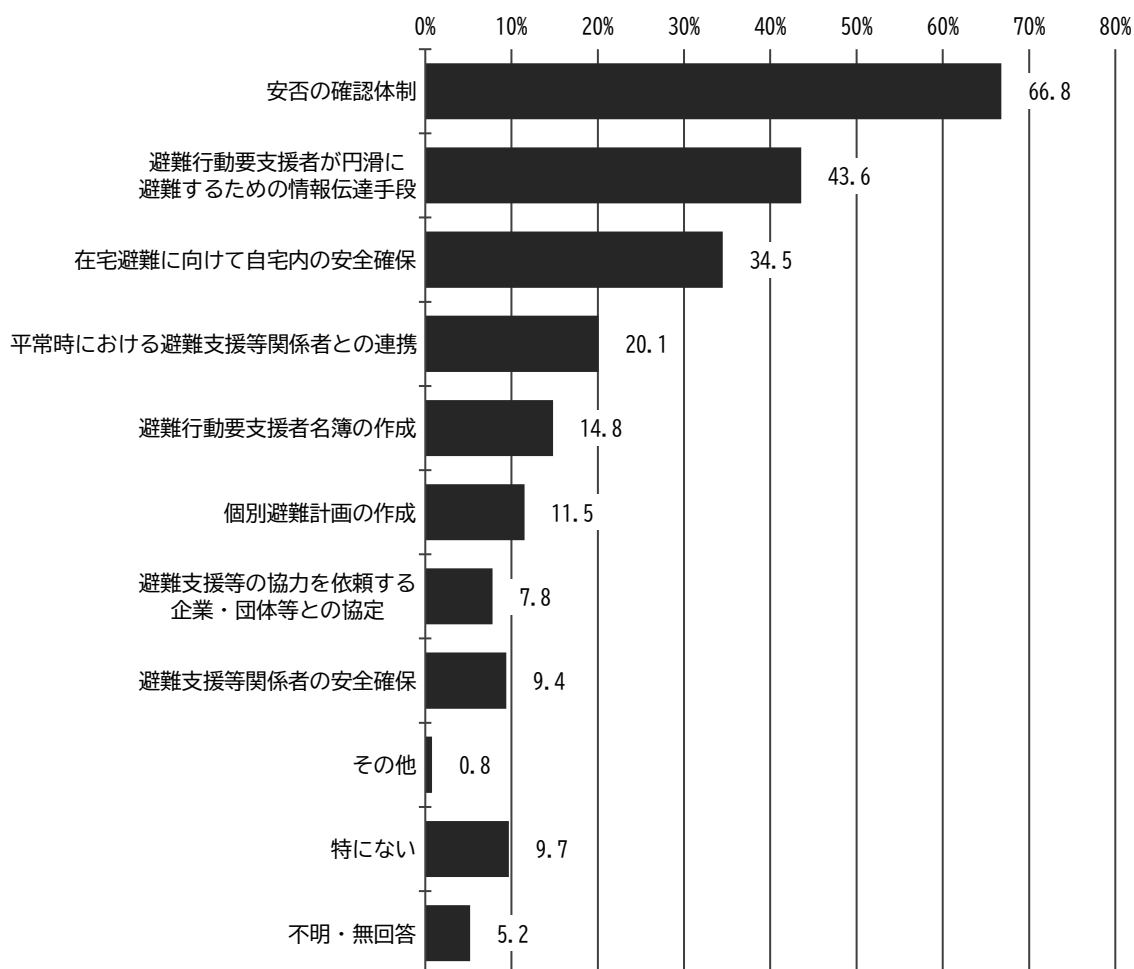
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 30 災害発生時に備えて、どのような避難行動要支援者対策が必要であると考えますか。

[3つまでに○]

災害発生時に備えて、必要であるとする避難行動要支援者対策については、全体で「安否の確認体制」が66.8%と最も高く、次いで「避難行動要支援者が円滑に避難するための情報伝達手段」が43.6%、「在宅避難に向けて自宅内の安全確保」が34.5%となっています。

(n=1,094)



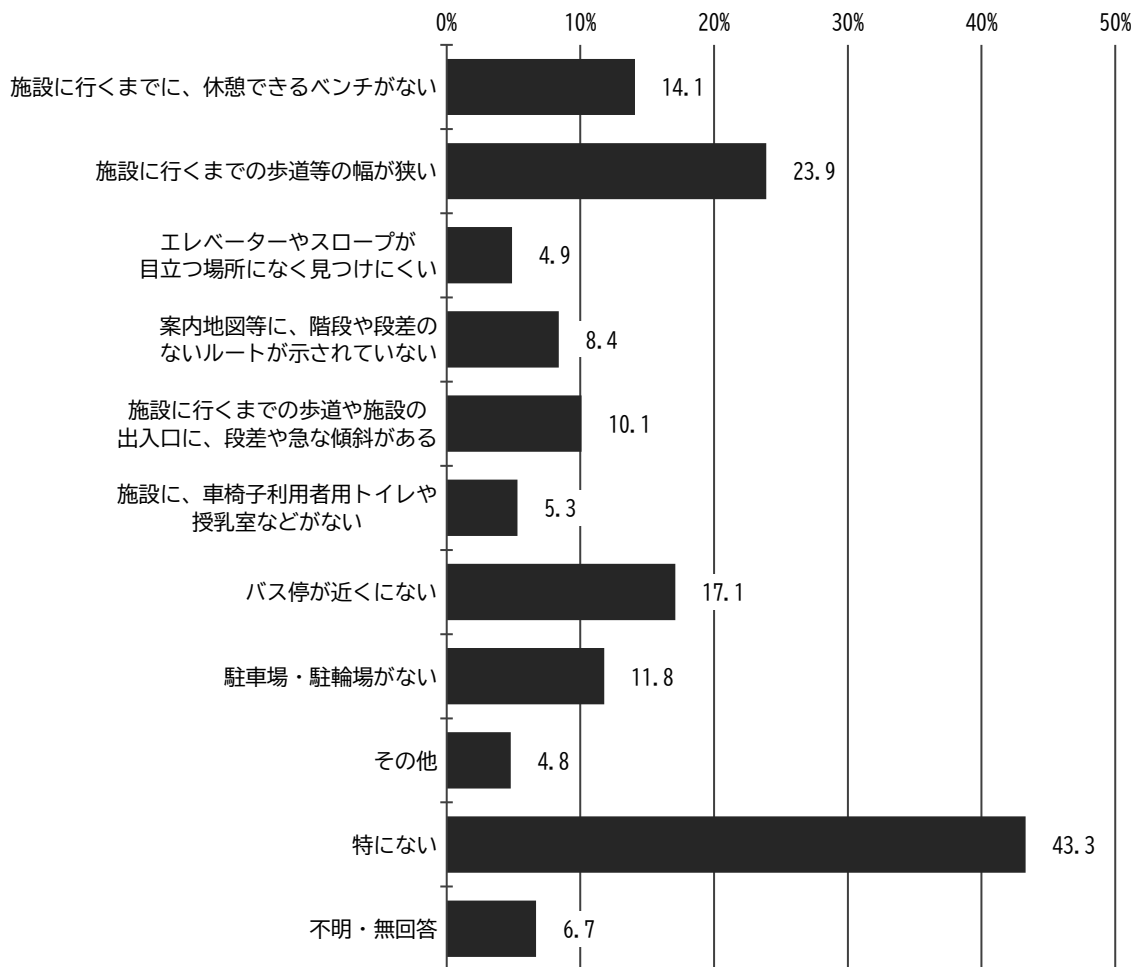
※その他の回答では、「高層住宅におけるエレベーター停止時の避難手段」や「個人情報の厳格な管理」等の意見がありました。

7 福祉のまちづくりについて

問 31 あなたが日頃市内の公共施設などに用事で出かけるときに、どのような設備や案内などが不足していると感じますか。[あてはまるもの全てに○]

日頃市内の公共施設などに用事で出かけるときに、不足していると感じる設備や案内については、全体で「特にない」が43.3%と最も高く、次いで「施設に行くまでの歩道等の幅が狭い」が23.9%、「バス停が近くにない」が17.1%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「バスの便数不足や駅へのアクセスの悪さ」や「洋式トイレの増設」「手すりの設置」「休憩用ベンチの不足」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「特にない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「施設に行くまでの歩道等の幅が狭い」や「駐車場・駐輪場がない」が比較的若い年代で高い傾向となっています。

エリア別にみると、「施設に行くまでに、休憩できるベンチがない」が「緑が丘エリア」で22.1%と他のエリアに比べ高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	施設に行くまでに、休憩できるベンチがない	施設に行くまでの歩道等の幅が狭い	エレベーターやスロープが目立つ場所になく見つけにくい	案内地図等に、階段や段差のないルートが示されていない	施設に行くまでの歩道や施設の入出口に、段差や急な傾斜がある	施設に、車椅子利用者用トイレや授乳室がない	バス停が近くにない	駐車場・駐輪場がない	その他	特にない	不明・無回答
【性別】												
男性	502	13.1	22.1	6.2	7.2	9.4	5.0	14.9	12.9	3.8	46.6	5.8
女性	566	14.7	26.0	4.1	9.5	10.8	5.7	19.1	10.8	6.0	40.3	7.2
【年代別】												
18～29歳	89	15.7	28.1	7.9	2.2	9.0	3.4	24.7	18.0	4.5	39.3	0.0
30～39歳	98	11.2	34.7	5.1	4.1	9.2	10.2	19.4	17.3	8.2	43.9	0.0
40～49歳	101	12.9	27.7	3.0	3.0	12.9	5.9	16.8	17.8	6.9	41.6	3.0
50～59歳	156	9.0	27.6	7.1	15.4	11.5	5.8	19.2	17.9	4.5	40.4	2.6
60～64歳	90	21.1	25.6	10.0	13.3	13.3	7.8	14.4	14.4	0.0	48.9	2.2
65～74歳	242	11.6	20.2	4.5	9.9	7.4	2.9	14.0	5.8	3.7	50.0	7.4
75歳以上	306	17.0	19.6	2.6	6.9	10.1	5.2	16.7	7.2	5.9	39.2	14.7
【エリア別】												
西部エリア	352	14.8	25.3	5.7	8.0	11.4	6.0	22.4	12.8	4.0	41.5	5.7
北部エリア	288	11.8	21.5	3.5	9.0	9.4	3.1	19.4	14.2	5.9	43.8	6.9
南部エリア	305	11.5	28.5	5.9	8.2	9.2	5.9	12.1	10.8	4.3	46.2	4.9
緑が丘エリア	136	22.1	17.6	4.4	8.1	10.3	7.4	10.3	6.6	6.6	39.7	12.5

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 32 バリアフリー設備が難しい小規模施設等において、あるとよい設備、対応、サービスのアイデア・工夫をお聞かせください。[自由記述]

バリアフリー設備が難しい小規模施設等において、あるとよい設備、対応、サービスのアイデア・工夫については、全体で 92 票の様々なご意見が寄せられました。

分 類	件数
歩道整備・段差解消	34 件
人的支援	17 件
インターホンや呼出ボタンの設置	11 件
誰もが利用できるトイレの設置	8 件
移動・アクセス環境の改善	7 件
休憩設備（ベンチ等）の設置	5 件
施設ごとのバリアフリー情報の周知	4 件
予約や事前連絡に応じた個別対応	3 件
その他	16 件

※複数の分類に関係する意見は、【複数該当】として、関係するすべての分類に掲載しています。

【歩道整備・段差解消】

内 容	性別・年齢
・スロープや車いす。	男性 20～29 歳
・折り畳み式のスロープを置いておいて使えるようにしておく。	女性 20～29 歳
・備え付きスロープ。	女性 20～29 歳
・手すり、取り外し可能なスロープ、補助が必要な人への対応の教育やマニュアルの作成。	女性 20～29 歳
・段差や数段の階段にスロープ設置が難しい場合、介護用のミニの補助スロープ用具を設置してみてもいいかと思っています。	女性 40～49 歳
・段差解消の為の移動可能なスロープ。	女性 40～49 歳
・車椅子を使う方が通りやすいスロープの設備と、手助けして下さる係の方がお店にいらっしゃったら良いと思います	女性 40～49 歳
・柵とか段差を簡単にどかせられるようにする。車輪ついたり	女性 40～49 歳
・簡易スロープ（おりたたみ）の常備。手伝ってほしい時に呼び出すインターホン。	男性 50～59 歳
・出入口に段差注意のプレートを付ける	男性 50～59 歳
・手すりの取り付けと段差解消	男性 50～59 歳
・歩行者道路の段差が少なくなるとういなと思っています。（車椅子の方が通りやすいように）	女性 50～59 歳
・段差なくフラットな床。	女性 50～59 歳
・里山、野山北公園など自然を感じられる場所に車いすが無理をしないと通れる道がなく、車いすでも散歩できる道ができると良いと思う。	女性 50～59 歳

内 容	性別・年齢
・外出する事が危険と思う程、道路が整備されていない。ガードレールが無い、段差もそのまま。そもそも小規模施設まで辿り着けるか考えると行くのを止めてしまう。バリアフリーでなければ行く選択肢に入らない。車いすユーザーの家族。	女性 50～59 歳
・車いすに障害となる段差ができる限り少ない設備。車いすではアスファルトであっても、粗いアスファルトだと転落の危険を常に感じているため、滑らかな道を望みます。（母親が車いすであり、押ししている際はいつも感じます。）	女性 50～59 歳
・手すりや転倒した際に怪我を和らげる床材など。	女性 50～59 歳
・スロープ、手すりの設置。インターホンによるサービス対応（スタッフ呼出し）。自動ドア。	男性 60～64 歳
・スロープを付けて欲しい。つかまる手すりも欲しい。	女性 60～64 歳
・足元等の注意看板を立てる。	男性 65～74 歳
・スロープ→滑りやすい素材使用するのは何故か？疑問。	男性 65～74 歳
・全ての公共施設に本来必要であるが、市の財政が逼迫しているのか、あまり整備がされていない。地域の地主が土地等を有効に活用できるように市役所職員が…。道路も狭く、段差もあり、危ない場所が数多くある。有効活用がうまくしていない。	男性 65～74 歳
・電車とホームの隙間を埋めるようなタイプの簡易型スロープの貸出。	男性 65～74 歳
・段差のある所にスロープがあるとよい。手すりがある方がよい（トイレ、洗面）。	女性 65～74 歳
・段差がないこと。手すりは各所に設置してあること。トイレは全て洋式に。	女性 65～74 歳
・スロープが無い。段差や急な傾斜がある。	女性 65～74 歳
・手すりがあると良い。	男性 75 歳以上
・エレベーター設置。エスカレーター設置。	男性 75 歳以上
・最小限、段差解消、手摺り設置、洋式トイレは必要。	男性 75 歳以上
・足元注意表示をしっかりとわかり易くする事。	男性 75 歳以上
・エレベーターの設置をして欲しい。	女性 75 歳以上
・1.スロープ。2.障害者が利用できるトイレ。	女性 75 歳以上
・歩道の幅が狭い所や傾いている事があり、歩きにくいです。（車椅子は使いにくいのではないかと、気にかけています。）	女性 75 歳以上
・2、3段の時は、外側にスロープみたいなのを置いては。	女性 75 歳以上

【人的支援】

内 容	性別・年齢
・手すり、取り外し可能なスロープ、補助が必要な人への対応の教育やマニュアルの作成。【複数該当】	女性 20～29 歳
・すぐに助けを求められるようなスタッフがいること。周りや掃除をしながら声をかけやすい場所にいること。	女性 20～29 歳
・困っている人の助け合いサービス。	女性 30～39 歳

内 容	性別・年齢
・呼出ボタンなどで不自由な身体の方の手伝いなど、しやすさがあれば良いかなと思います。	女性 30～39 歳
・車いすやベビーカーを持ち上げる（移動させる）のを手伝ってくれる人やカウンターが、必要な場所のすぐ近く（横など）にあると良い。声を掛けにくい。	女性 30～39 歳
・車椅子を使う方が通りやすいスロープの設備と、手助けして下さる係の方がお店にいらっしゃったら良いと思います【複数該当】	女性 40～49 歳
・シルバーのボランティアの方に協力してもらえないか？小学生の下校の見守りみたいなもの。	男性 40～49 歳
・理想ですがヘルパー 3 級などの資格を持つ方が居て頂けるとある程度の対応・サービスが出来るのではないかと思います。	女性 50～59 歳
・まずはその施設がバリアフリーではないということを明示しておく。どうしても利用しなくてはならない人は先に連絡（予約）するようにして、予約時間にスタッフが対応できるようにしておく。突然の訪問でスタッフの都合がつかないリスクを回避するため。	女性 50～59 歳
・人的対応	女性 50～59 歳
・車椅子の方への支援のスタッフの研修	女性 50～59 歳
・簡易設置型スロープ等を踏まえて、施設利用時に日時予約制の導入、予約時間に人員を確保しておく。当日であれば電話、事前ならサイト予約等。あと詳しくはわかりませんが、車椅子の方が電車に乗る時の駅員さんのような動きはできないものですかね？	女性 50～59 歳
・専門のコンシェルジュ制度	男性 60～64 歳
・ボランティアを募ってフォローできる人を数人配置してもらう。	女性 60～64 歳
・サポートするスタッフが居れば良いのでは。	男性 60～64 歳
・車椅子、ボランティア職員。	女性 65～74 歳
・人員の確保。	女性 65～74 歳

【インターホンや呼出ボタンの設置】

内 容	性別・年齢
・インターホン	男性 20～29 歳
・専用インターホンを設置し、サポート出来るように対応する。	男性 30～39 歳
・お手伝いしますよのプレートやボタン	男性 30～39 歳
・呼出ボタンなどで不自由な身体の方の手伝いなど、しやすさがあれば良いかなと思います。【複数該当】	女性 30～39 歳
・低い位置にインターフォンがあることで必要な時に人を呼べるようにする。	女性 30～39 歳
・呼び出しボタン	女性 30～39 歳
・補助が必要な時の呼び鈴のようなもの	男性 50～59 歳
・開き戸→引き戸、自動水栓、インターフォン（中のスタッフが呼べるように）。	女性 50～59 歳

内 容	性別・年齢
・簡易スロープ（おりたたみ）の常備。手伝ってほしい時に呼び出すインターホン。 【複数該当】	男性 50～59 歳
・スロープ、手すりの設置。インターホンによるサービス対応（スタッフ呼出し）。 自動ドア。【複数該当】	男性 60～64 歳
・施設入口付近にインターホン等ヘルプが必要な方への対応が出来ればと思います。	女性 65～74 歳

【誰もが利用できるトイレの設置】

内 容	性別・年齢
・車イス用トイレに大きなベッド、すべてにあると助かります。	女性 40～49 歳
・市内の施設は、和式トイレが多いように感じる。洋式トイレを増やしたほうがいいと思う。	女性 40～49 歳
・温水洗浄便座付洋式トイレ。給水機。	男性 65～74 歳
・段差のある所にスロープがあるとよい。手すりがある方がよい（トイレ、洗面）。 【複数該当】	女性 65～74 歳
・段差がないこと。手すりは各所に設置してあること。トイレは全て洋式に。 【複数該当】	女性 65～74 歳
・最小限、段差解消、手摺り設置、洋式トイレは必要。【複数該当】	男性 75 歳以上
・居の外から入れるトイレ。	女性 75 歳以上
・1.スロープ。2.障害者が利用できるトイレ。【複数該当】	女性 75 歳以上

【移動・アクセス環境の改善】

内 容	性別・年齢
・その施設に行かなくてもよい手続きにしてほしい。（いろいろな申請をオンラインでできるようにするとか）面談が必要なものは来てくれるとうれしい。	女性 30～39 歳
・電話一本で送迎してくれるサービス（地域全体）。	女性 30～39 歳
・訪問事業	女性 40～49 歳
・他の市町村と比べ、公共のトイレ自体少なく、交通機関も使用しにくい。自動車の運転が出来ない人達に対する移動手段をもっと取り入れないといけないと思う。公共タクシーをもっと充実させる等。	男性 50～59 歳
・簡易設置型スロープ等を踏まえて、施設利用時に日時予約制の導入、予約時間に人員を確保しておく。当日であれば電話、事前ならサイト予約等。あと詳しくはわかりませんが、車椅子の方が電車に乗る時の駅員さんのような動きはできないものですかね？【複数該当】	女性 50～59 歳
・無料または格安の送迎車等。	女性 60～64 歳
・2 km程歩くため体力的に大変。また選挙時、大変。	男性 75 歳以上

【休憩設備（ベンチ等）の設置】

内 容	性別・年齢
・ 野外でも休めるような駐車場スペースを利用して、いざ必要になった時、例えばベンチがテーブルになったり、いつも使用できる（イス、テーブル等）ものに、別の役割もできるようなもの（簡易ベッド等）を設置して休めるようなものやそれを設置できるスペースがほしいです。	男性 40～49 歳
・ 施設に行くまでに疲れたりするので、施設の外や室内に椅子があると良いと思う。	女性 40～49 歳
・ 買い物に行く際、手押し車で歩いて行くのですが、途中一寸休憩出来る、小さくてもよいので腰を掛けるところが欲しい。	女性 75 歳以上
・ 腰をかけて座るための椅子が欲しい。買い物の帰り腰が痛くて、道路の手摺りに寄りかかり帰る時がある。	女性 75 歳以上
・ 休憩設備、軽食設備、毛布等。	無回答 無回答

【施設ごとのバリアフリー情報の周知】

内 容	性別・年齢
・ 無理なものは無理なので、バリアフリー設備はないので気をつけてと告知する。	男性 50～59 歳
・ 身体不自由な方が出掛けられる施設や利用の仕方の案内。	女性 50～59 歳
・ まずはその施設がバリアフリーではないということを明示しておく。どうしても利用しなくてはならない人は先に連絡（予約）するようにして、予約時間にスタッフが対応できるようにしておく。突然の訪問でスタッフの都合がつかないリスクを回避するため。【複数該当】	女性 50～59 歳
・ バリアフリー非対応、対応設備の有無や場所等の情報をホームページや SNS で公表する事。（非対応施設には行かないか、事前連絡で対応を求める。）	男性 65～74 歳

【予約や事前連絡に応じた個別対応】

内 容	性別・年齢
・ 可能であれば、バリアフリー設備を必要とする人が事前に施設等に連絡（予約）を入れ、施設担当者が対応（要望に応じて）しては如何でしょうか。	女性 30～39 歳
・ まずはその施設がバリアフリーではないということを明示しておく。どうしても利用しなくてはならない人は先に連絡（予約）するようにして、予約時間にスタッフが対応できるようにしておく。突然の訪問でスタッフの都合がつかないリスクを回避するため。【複数該当】	女性 50～59 歳
・ 簡易設置型スロープ等を踏まえて、施設利用時に日時予約制の導入、予約時間に人員を確保しておく。当日であれば電話、事前ならサイト予約等。あと詳しくはわかりませんが、車椅子の方が電車に乗る時の駅員さんのような動きはできないものですかね？【複数該当】	女性 50～59 歳

【その他】

内 容	性別・年齢
・多目的室での大型鏡の設置（ダンス、踊りなど、自身の姿を確認したい）。	男性 30～39 歳
・結局のところ車いすになったら、そういう場所には行けないとあきらめるしかない。（イオンなら行ける。）	男性 50～59 歳
・行かなくて済むよう、紙文化を捨てる。	男性 50～59 歳
・当事者のご意見を伺うのがいいと思います。	男性 50～59 歳
・補える設備の工夫と仕組みづくり。	男性 50～59 歳
・子供用の屋内型プレイルーム	男性 50～59 歳
・柔軟なフェンスの設置。	男性 60～64 歳
・複数の用事がある場合に、一カ所で受付が済むサービス。	男性 60～64 歳
・ヘルプ用具の確保。	男性 65～74 歳
・費用対効果を考えて設置。過剰なまでの設置は不要。適度に。	男性 65～74 歳
・利用者の声に反応する案内支援、特別な場所で声で質問するのではなく、施設内のどこでも反応・応答するシステム。	男性 65～74 歳
・バス停に屋根をつけて欲しい	女性 65～74 歳
・バリアフリーにしたから、つまづく人が多くなった。	男性 75 歳以上
・大南図書館をバリアフリーにして欲しい。	男性 75 歳以上
・買い物をした後荷物を整理する場所や、ドックランや犬を繋いで待たせる事が可能なスペース。	男性 75 歳以上
・自分が心から相談をして受け入れてくれる所です。	女性 75 歳以上

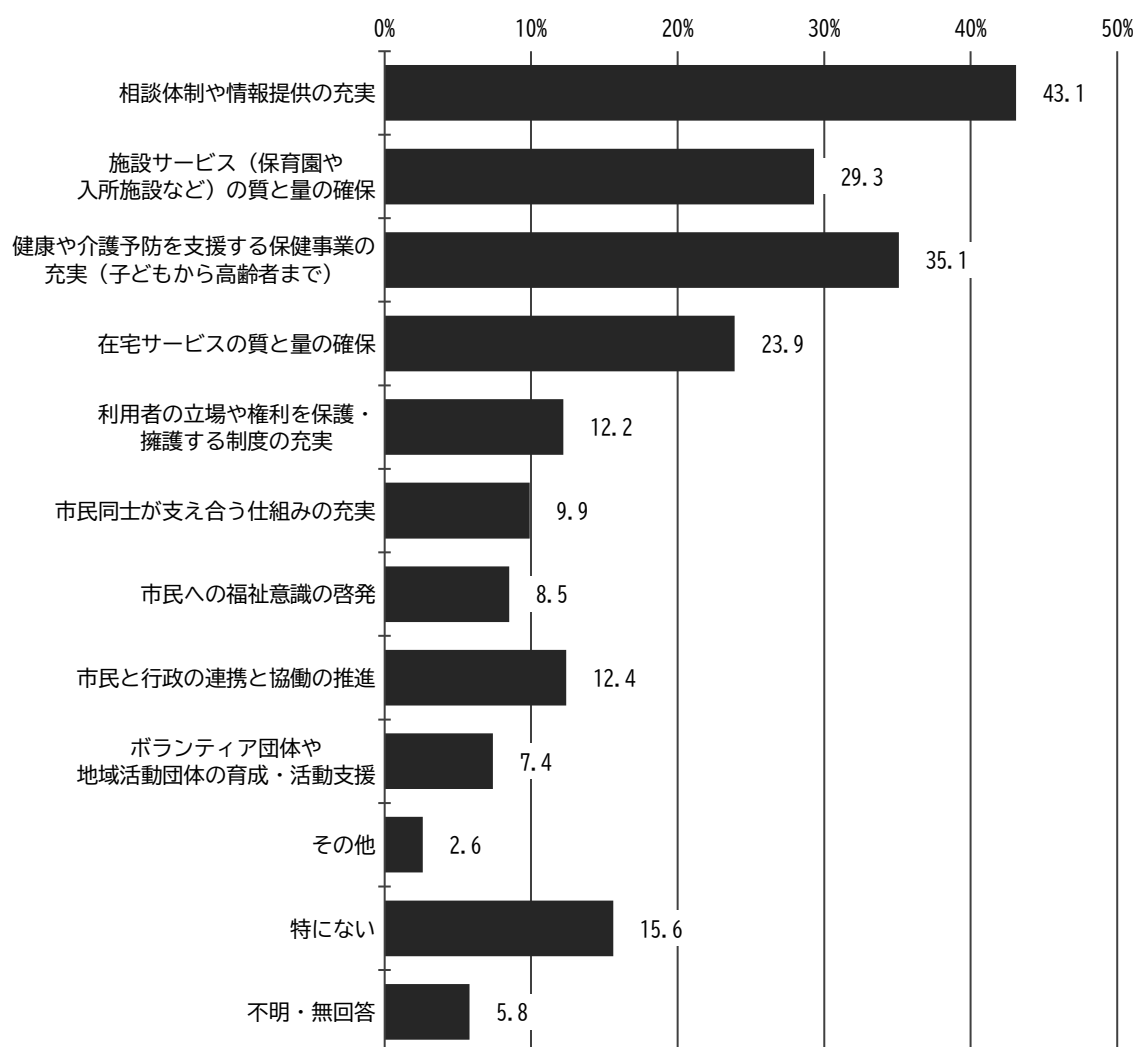
8 地域福祉活動全般について

問 33 市の福祉サービスを充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。

[3つまでに○]

市の福祉サービスを充実していくために、特に重要と考える取組については、全体で「相談体制や情報提供の充実」が43.1%と最も高く、次いで「健康や介護予防を支援する保健事業の充実（子どもから高齢者まで）」が35.1%、「施設サービス（保育園や入所施設など）の質と量の確保」が29.3%となっています。

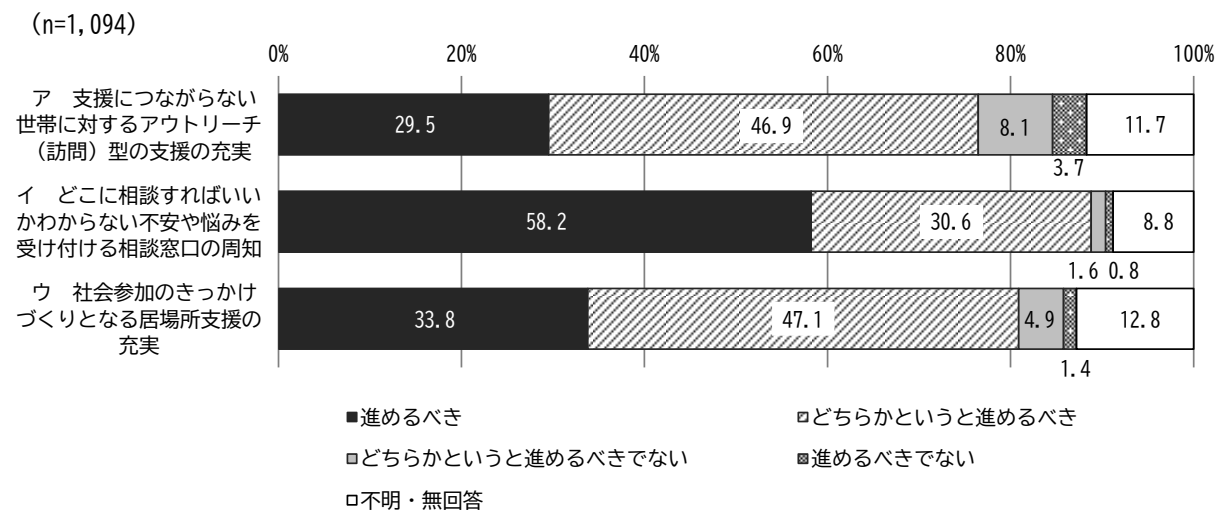
(n=1,094)



※その他の回答では、「窓口での一貫した責任体制の構築」や「介護職員の待遇改善」「ボランティアへの適切な対価の検討」等の意見がありました。

問 34 どこに相談すればいいかわからない生活上の困りごとを抱えている世帯に対し、以下の取組を進めるべきだと思いますか。[それぞれ○は1つだけ]

相談先がわからない生活上の困りごとを抱えている世帯に対し、進めるべきだと思う取組について、〔ア 支援につながらない世帯に対するアウトリーチ（訪問）型の支援の充実〕〔ウ 社会参加のきっかけづくりとなる居場所支援の充実〕では「どちらかというに進めるべき」、〔イ どこに相談すればいいかわからない不安や悩みを受け付ける相談窓口の周知〕では「進めるべき」が最も高くなっています。

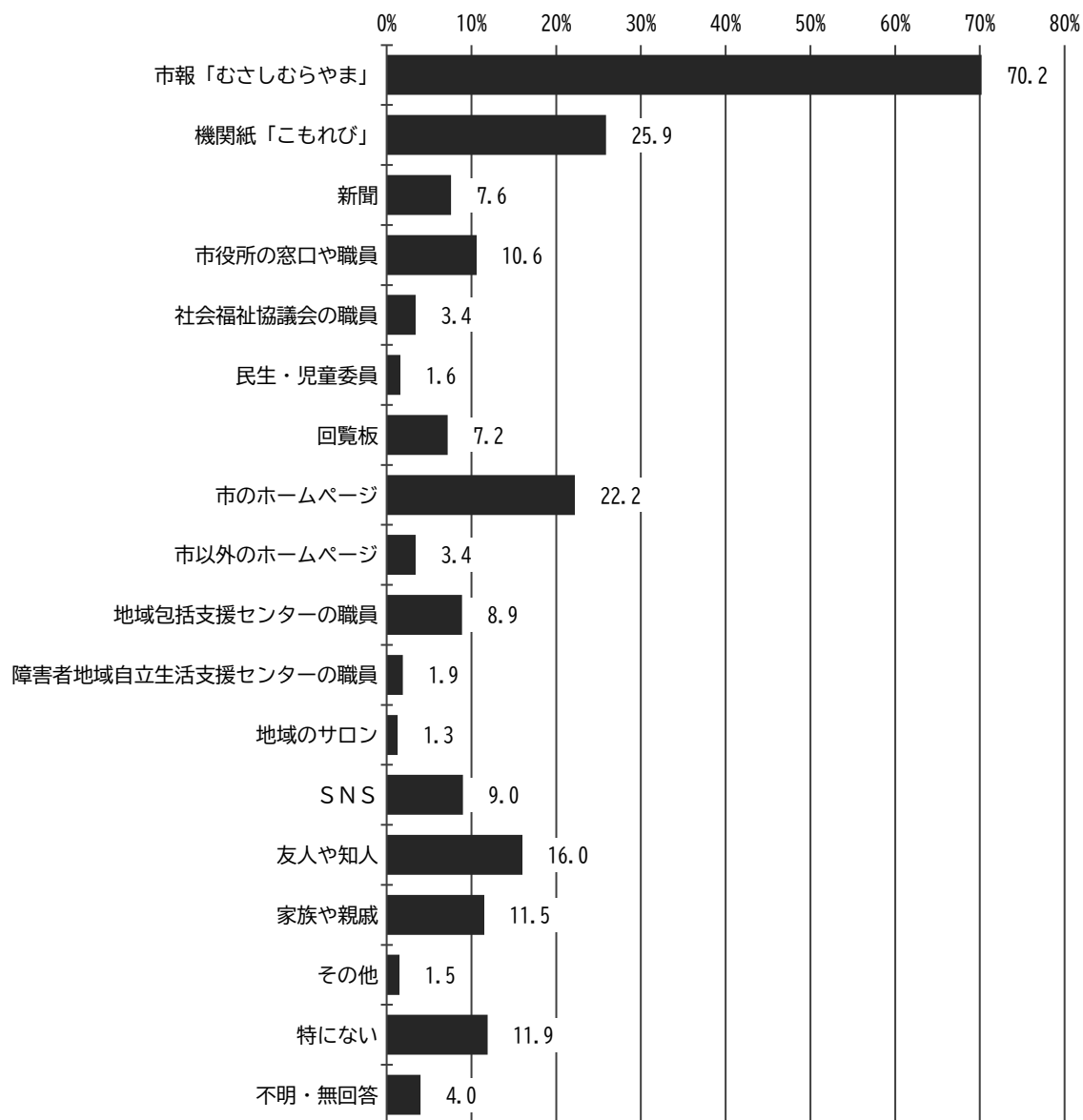


問 35 あなたは、福祉サービスに関する情報をどのような方法で探していますか。

[あてはまるもの全てに○]

福祉サービスに関する情報の収集方法については、全体で「市報『むさしむらやま』」が70.2%と最も高く、次いで「機関紙『こもれび』」が25.9%、「市のホームページ」が22.2%となっています。

(n=1,094)



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「市報『むさしむらやま』」が最も高くなっています。

年代別にみると、「市報『むさしむらやま』」「機関紙「こもれび」」が、年代が上がるにつれて高い傾向となっています。また、「18～29歳」で「特にない」が36.0%と最も高くなっているほか、「SNS」が28.1%と、他の年代に比べて高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	市報「むさしむらやま」	機関紙「こもれび」	新聞	市役所の窓口や職員	社会福祉協議会の職員	民生・児童委員	回覧板	市のホームページ	市以外のホームページ	地域包括支援センターの職員
【性別】											
男性	502	65.5	24.5	8.2	11.6	4.2	1.8	7.6	23.7	2.8	7.8
女性	566	74.7	27.6	6.7	9.9	2.8	1.6	7.1	20.7	3.9	9.7
【年代別】											
18～29歳	89	33.7	3.4	4.5	4.5	1.1	0.0	3.4	23.6	3.4	1.1
30～39歳	98	60.2	13.3	1.0	10.2	2.0	0.0	3.1	27.6	7.1	5.1
40～49歳	101	63.4	15.8	3.0	10.9	5.0	1.0	4.0	27.7	5.9	3.0
50～59歳	156	75.6	23.1	5.8	9.0	1.3	0.6	5.1	38.5	7.7	5.8
60～64歳	90	78.9	32.2	2.2	11.1	2.2	3.3	2.2	23.3	1.1	10.0
65～74歳	242	78.5	36.8	10.7	11.2	5.0	0.8	10.7	22.7	1.7	7.0
75歳以上	306	74.5	31.0	11.8	12.7	4.2	3.6	10.8	9.5	1.3	16.7

	n(人)	障害者地域自立生活支援センターの職員	地域のサロン	SNS	友人や知人	家族や親戚	その他	特にない	不明・無回答
【性別】									
男性	502	1.8	0.6	7.6	12.2	11.0	1.6	15.1	5.0
女性	566	2.1	1.9	10.4	19.4	12.2	1.2	8.8	3.2
【年代別】									
18～29歳	89	2.2	1.1	28.1	10.1	11.2	2.2	36.0	0.0
30～39歳	98	3.1	0.0	20.4	14.3	15.3	2.0	20.4	0.0
40～49歳	101	1.0	0.0	16.8	22.8	7.9	0.0	17.8	2.0
50～59歳	156	0.6	0.0	14.1	16.7	9.0	2.6	6.4	0.6
60～64歳	90	1.1	1.1	5.6	5.6	4.4	1.1	10.0	1.1
65～74歳	242	2.1	0.8	3.3	16.1	11.6	1.2	9.5	6.2
75歳以上	306	2.6	3.3	0.7	19.3	15.4	1.3	5.2	7.8

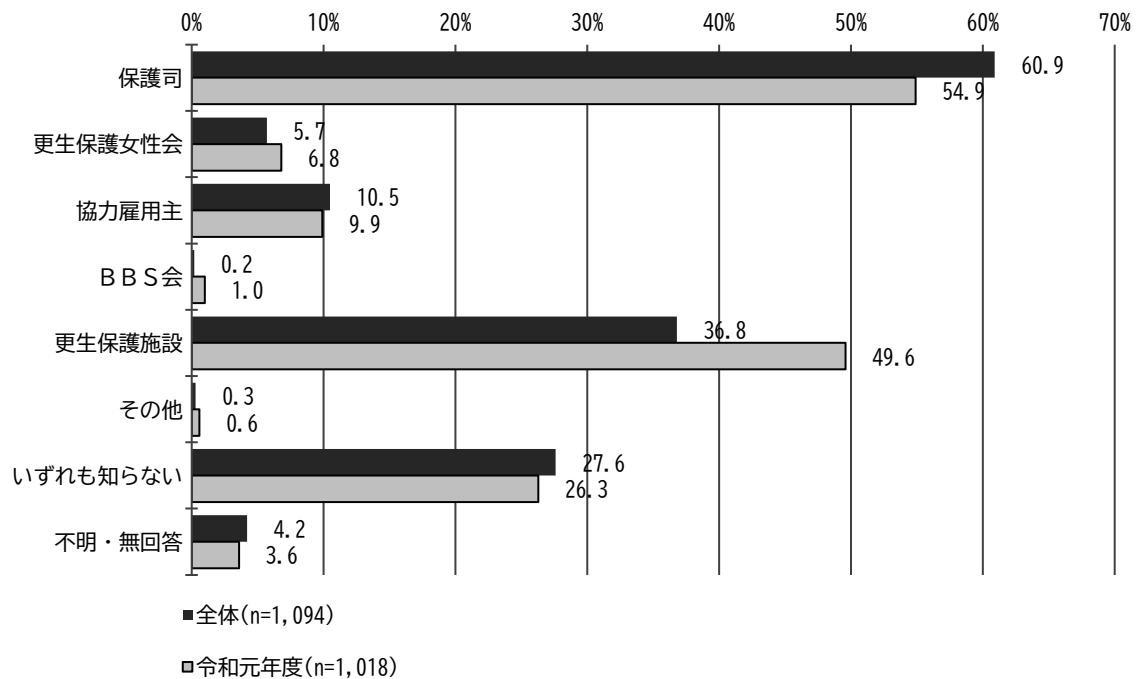
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

9 更生を支援するまちづくり（再犯防止）について

問 36 あなたは犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。[あてはまるもの全てに○]

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために協力する民間協力者の認知状況については、全体で「保護司」が60.9%と最も高く、次いで「更生保護施設」が36.8%、「いずれも知らない」が27.6%となっています。

前回調査との比較をみると、「保護司」が6.0ポイント高く、「更生保護施設」が12.8ポイント低くなっています。



※令和元年度調査：再犯防止に協力する民間協力者として、知っているものを全てお選びください。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」とともに「保護司」が最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「30～39歳」で「いずれも知らない」、「40歳以上」で「保護司」がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

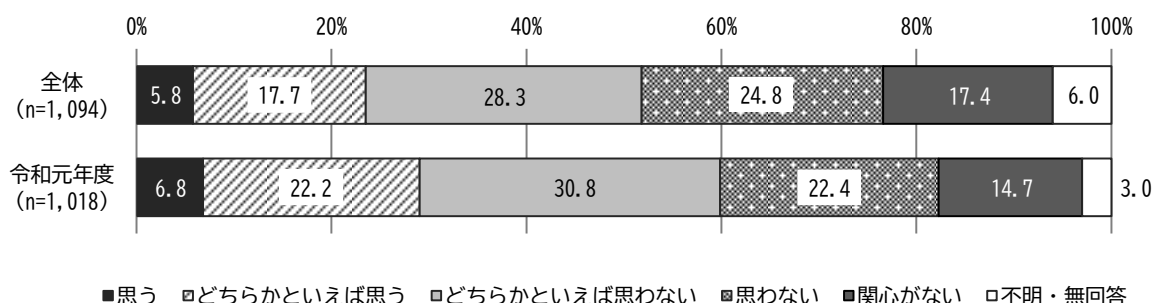
	n(人)	保護司	更生保護女性会	協力雇用主	BBS会	更生保護施設	その他	いずれも知らない	不明・無回答
【性別】									
男性	502	55.4	5.2	9.2	0.2	30.7	0.2	31.7	5.0
女性	566	65.4	5.8	11.1	0.2	42.2	0.4	24.2	3.5
【年代別】									
18～29歳	89	23.6	1.1	3.4	0.0	34.8	0.0	55.1	1.1
30～39歳	98	39.8	0.0	4.1	0.0	35.7	0.0	46.9	0.0
40～49歳	101	53.5	5.0	5.9	0.0	39.6	1.0	29.7	3.0
50～59歳	156	69.2	5.1	12.2	0.0	46.8	0.0	23.1	0.6
60～64歳	90	74.4	5.6	12.2	0.0	40.0	0.0	21.1	1.1
65～74歳	242	70.7	5.8	12.8	0.4	36.8	0.4	20.2	5.0
75歳以上	306	64.1	9.2	12.7	0.3	31.0	0.3	23.5	8.8

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 37 あなたは、犯罪や非行をした人たちの立ち直りに協力したいと思いますか。[○は1つだけ]

犯罪や非行をした人たちの立ち直りに協力したいと思うかについては、全体で「どちらかといえば思わない」が28.3%と最も高く、次いで「思わない」が24.8%、「どちらかといえば思う」が17.7%となっています。

前回調査との比較をみると、大きな差はみられません。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「どちらかといえば思わない」が最も高くなっています。

年代別にみると、「関心がない」が「18～29歳」から「30～39歳」の比較的若い年代で2割台と他の年代に比べ高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	思う	どちらか といえば 思う	どちらか といえば 思わ ない	思わ ない	関心 が な い	不明・無 回 答
【性別】							
男性	502	6.2	17.7	25.5	23.7	20.1	6.8
女性	566	5.5	17.3	31.4	26.1	14.1	5.5
【年代別】							
18～29歳	89	5.6	20.2	19.1	28.1	27.0	0.0
30～39歳	98	3.1	14.3	22.4	37.8	22.4	0.0
40～49歳	101	3.0	14.9	29.7	32.7	17.8	2.0
50～59歳	156	4.5	12.2	41.0	22.4	17.9	1.9
60～64歳	90	3.3	20.0	30.0	30.0	15.6	1.1
65～74歳	242	4.5	18.6	31.8	21.5	17.8	5.8
75歳以上	306	9.8	20.3	23.9	19.3	12.1	14.7

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

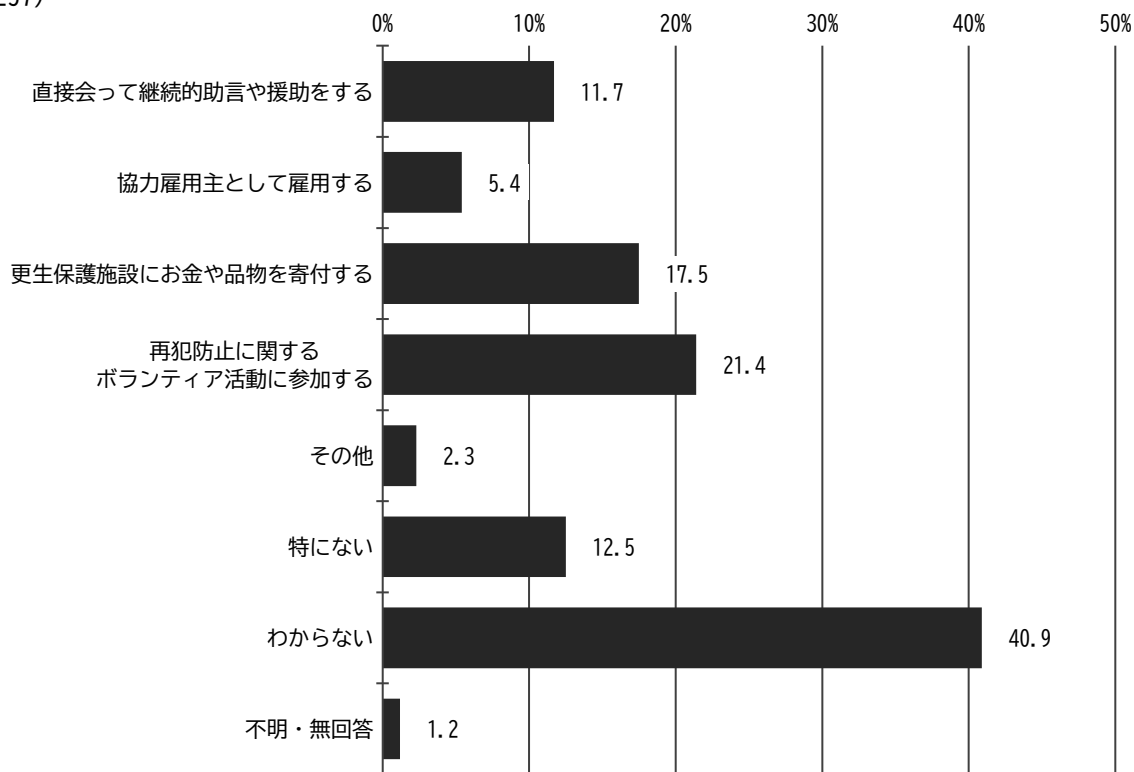
問 37で「思う」または「どちらかといえば思う」を選択した方

問 37-1 犯罪や非行をした人たちの立ち直りにどのような協力をしたいと思いますか。

【あてはまるもの全てに○】

犯罪や非行をした人たちの立ち直りにどのような協力をしたいと思うかについては、全体で「わからない」が40.9%と最も高く、次いで「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が21.4%、「更生保護施設にお金や品物を寄付する」が17.5%となっています。

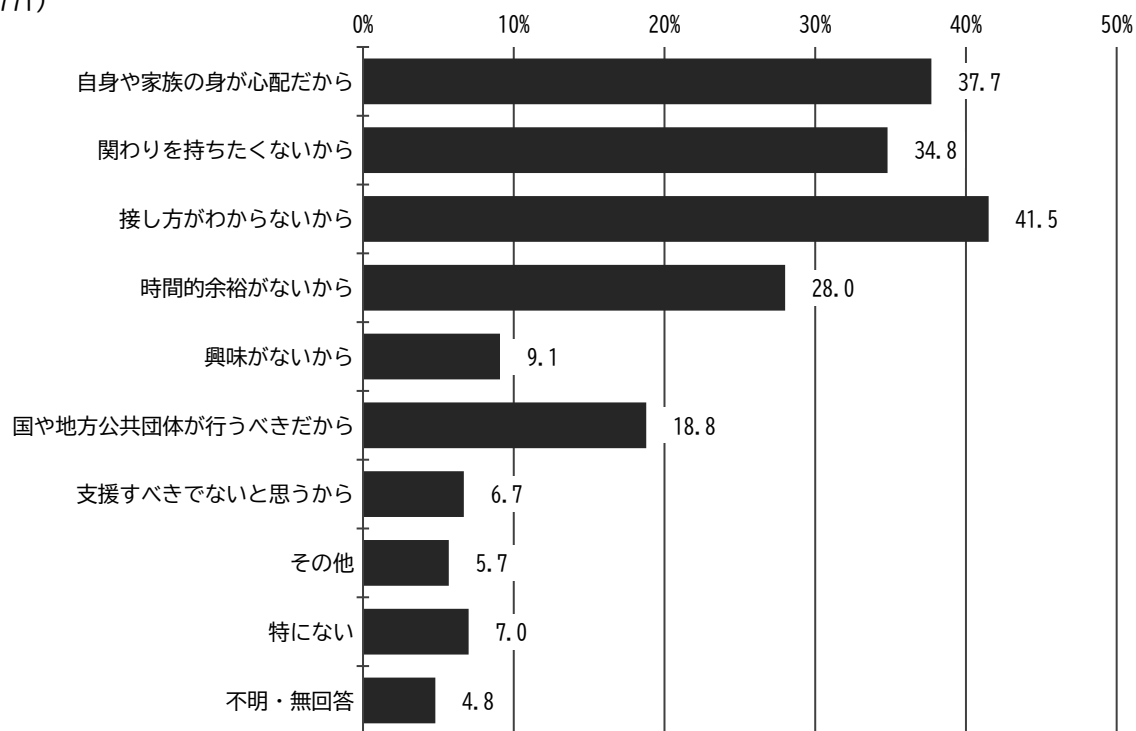
(n=257)



問 37で「どちらかといえば思わない」「思わない」「関心がない」のいずれかを選択した方
問 37-2 協力したいと思わない理由を教えてください。[あてはまるもの全てに○]

協力したいと思わない理由については、全体で「接し方がわからないから」が41.5%と最も高く、次いで「自身や家族の身が心配だから」が37.7%、「関わりを持ちたくないから」が34.8%となっています。

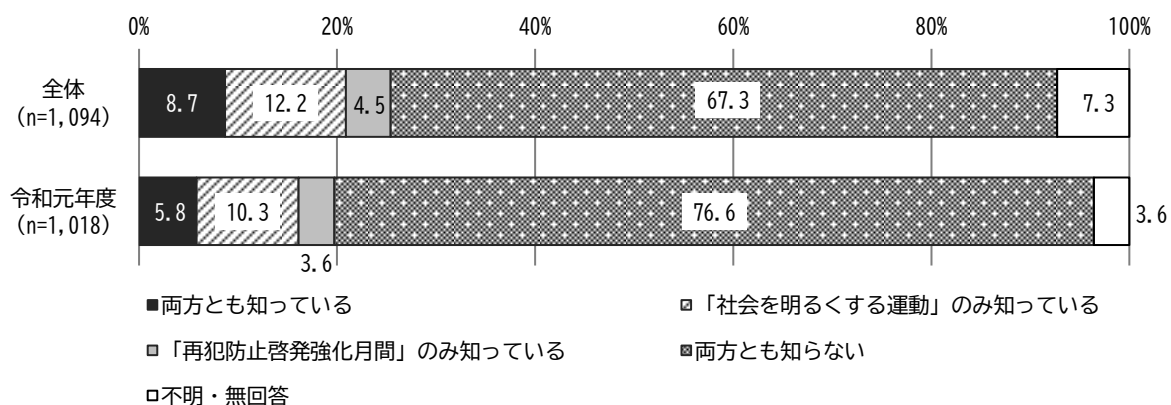
(n=771)



問 38 あなたは、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くため全国的な運動である「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を知っていますか。[○は1つだけ]

「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」の認知度については、全体で「両方とも知らない」が67.3%と最も高く、次いで「『社会を明るくする運動』のみ知っている」が12.2%、「両方とも知っている」が8.7%となっています。

前回調査との比較をみると、「両方とも知らない」が9.3ポイント低くなっています。



※令和元年度調査：あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」を知っていますか。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」、「女性」ともに「両方とも知らない」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代において「両方とも知らない」が最も高くなっています。また、「『社会を明るくする運動』のみ知っている」が18～29歳で22.5%と、他の年代と比較して高くなっています。

(単位：%)

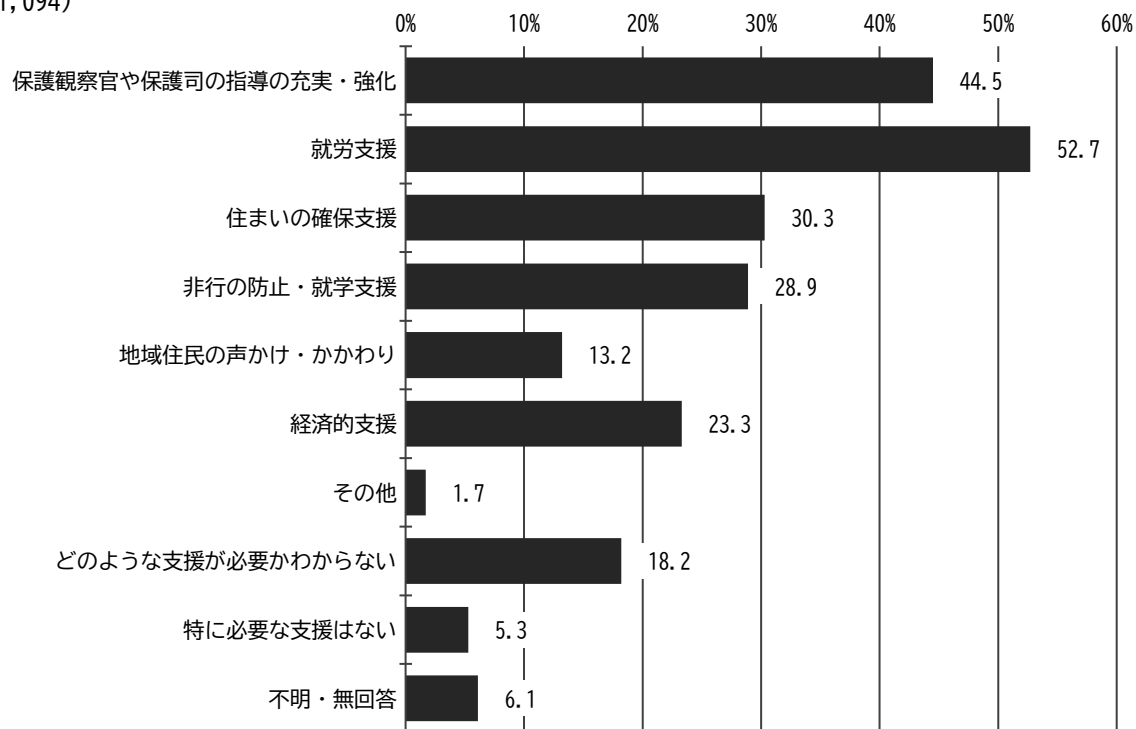
	n(人)	両方とも知っている	「社会を明るくする運動」のみ知っている	「再犯防止啓発強化月間」のみ知っている	両方とも知らない	不明・無回答
【性別】						
男性	502	7.6	10.0	5.4	69.5	7.6
女性	566	9.7	14.3	3.5	65.4	7.1
【年代別】						
18～29歳	89	7.9	22.5	4.5	61.8	3.4
30～39歳	98	2.0	8.2	3.1	85.7	1.0
40～49歳	101	6.9	4.0	9.9	77.2	2.0
50～59歳	156	12.8	10.9	5.1	68.6	2.6
60～64歳	90	6.7	10.0	5.6	75.6	2.2
65～74歳	242	8.7	10.7	2.9	71.1	6.6
75歳以上	306	10.5	15.7	3.6	53.6	16.7

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 39 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすため、特に重要な支援は何だと思えますか。[あてはまるもの全てに○]

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすため、特に重要な支援については、全体で「就労支援」が52.7%と最も高く、次いで「保護観察官や保護司の指導の充実・強化」が44.5%、「住まいの確保支援」が30.3%となっています。

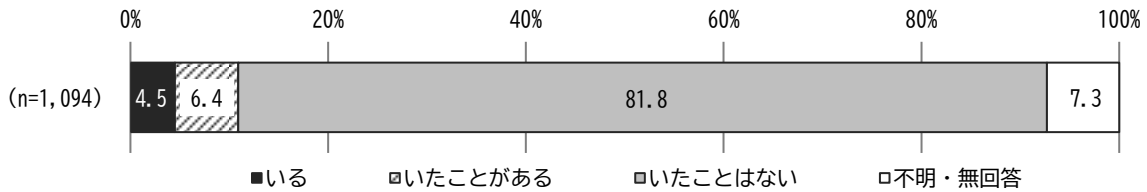
(n=1,094)



10 「ひきこもり状態」について

問 40 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある、またはあった方はいますか。[○は1つだけ]

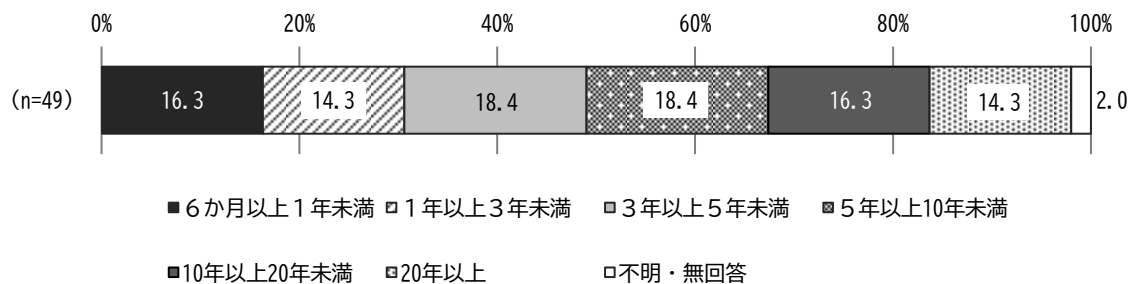
回答者の世帯に、ひきこもり状態にある、またはあった方はいるかについては、全体で「いたことはない」が81.8%と最も高く、次いで「いたことがある」が6.4%、「いる」が4.5%となっています。



問 40で「いる」を選択した方

問 40-1 その方がひきこもりの状態になられてから、どのくらい経ちますか。[○は1つだけ]

ひきこもりの状態の期間については、全体で「3年以上5年未満」「5年以上10年未満」が18.4%と最も高く、次いで「6か月以上1年未満」「10年以上20年未満」が16.3%となっています。



【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「5年以上10年未満」、「女性」で「6か月以上1年未満」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「75歳以上」で「20年以上」が50.0%と高くなっています。

世帯構成別にみると、「親と子（二世帯）」で「20年以上」が25.0%と高くなっています。

(単位：%)

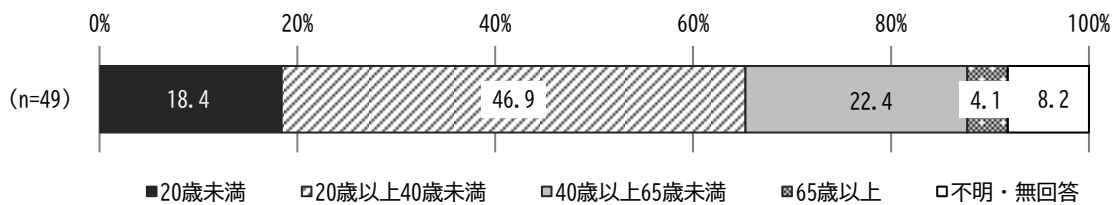
	n(人)	6か月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不明・無回答
【性別】								
男性	12	0.0	8.3	16.7	41.7	25.0	8.3	0.0
女性	35	22.9	17.1	20.0	11.4	11.4	14.3	2.9
【年代別】								
18～29歳	8	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0
30～39歳	7	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0
40～49歳	4	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳	8	37.5	12.5	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0
60～64歳	5	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
65～74歳	8	12.5	0.0	12.5	12.5	62.5	0.0	0.0
75歳以上	8	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0	50.0	12.5
【世帯構成別】								
1人(単身)	5	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
夫婦のみ	6	16.7	0.0	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0
親と子(二世帯)	16	6.3	12.5	12.5	18.8	18.8	25.0	6.3
親と子と孫(三世帯)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の世帯	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

問 40 で「いる」を選択した方

問 40-2 その方の現在の年代を教えてください。[○は1つだけ]

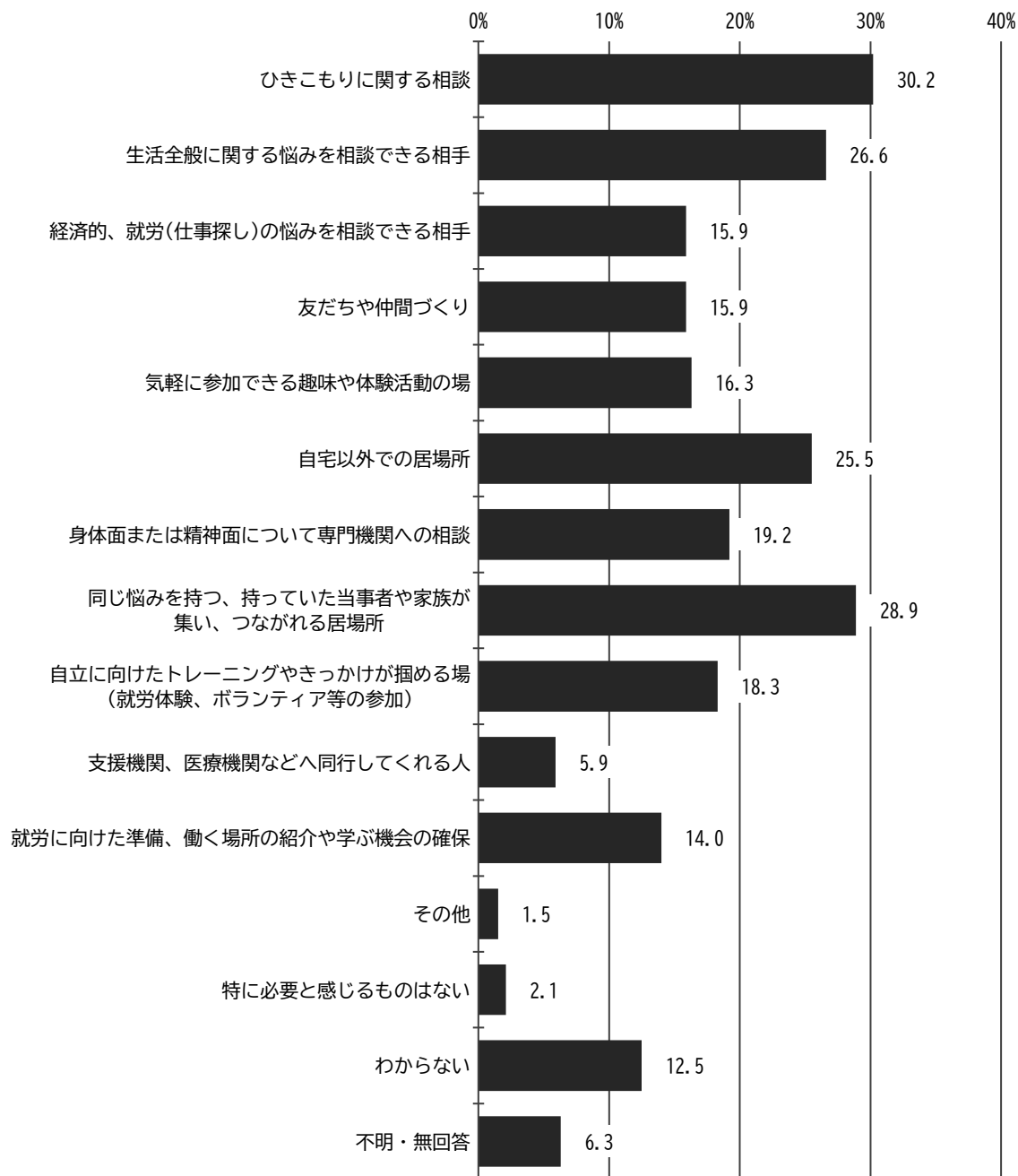
ひきこもりの状態にある方の年代については、全体で「20 歳以上 40 歳未満」が 46.9%と最も高く、次いで「40 歳以上 65 歳未満」が 22.4%、「20 歳未満」が 18.4%となっています。



問 41 あなたはひきこもり状態にある方やそのご家族に対して、どのような支援が必要だと考えますか。[3つまでに○]

ひきこもり状態にある方や家族に対して、必要だと考える支援については、全体で「ひきこもりに関する相談」が30.2%と最も高く、次いで「同じ悩みを持つ、持っていた当事者や家族が集い、つながれる場所」が28.9%、「生活全般に関する悩みを相談できる相手」が26.6%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「ひきこもりでもいいと思える社会」や「本人の得意を活かせる安心できる居場所」「保護者の接し方」等の意見がありました。

【クロス集計】

性別にみると、「男性」で「ひきこもりに関する相談」、「女性」で「同じ悩みを持つ、持っていた当事者や家族が集い、つながれる居場所」がそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、「18～29歳」から「30～39歳」で「自宅以外での居場所」、「50～59歳」から「60～64歳」と「75歳以上」で「ひきこもりに関する相談」、「65～74歳」で「ひきこもりに関する相談」と「同じ悩みを持つ、持っていた当事者や家族が集い、つながれる場所」がそれぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

	n(人)	ひきこもりに関する相談	生活全般に関する悩みを相談できる相手	経済的、就労(仕事探し)の悩みを相談できる相手	友だちや仲間づくり	気軽に参加できる趣味や体験活動の場	自宅以外での居場所	身体面または精神面について専門機関への相談	同じ悩みを持つ、持っていた当事者や家族が集い、つながれる居場所	自立に向けたトレーニングやきっかけが掴める場(就労体験、ボランティア等の参加)	支援機関、医療機関などへ同行してくれる人
【性別】											
男性	502	31.5	24.3	15.9	16.3	16.3	21.9	18.7	22.7	17.9	5.8
女性	566	29.7	29.0	16.1	15.4	15.5	28.6	20.0	34.6	18.9	6.4
【年代別】											
18～29歳	89	21.3	20.2	27.0	22.5	20.2	33.7	23.6	31.5	15.7	6.7
30～39歳	98	24.5	22.4	26.5	19.4	17.3	36.7	21.4	26.5	21.4	8.2
40～49歳	101	30.7	27.7	22.8	25.7	16.8	37.6	21.8	27.7	20.8	6.9
50～59歳	156	35.9	30.1	16.7	16.7	13.5	28.8	15.4	25.0	20.5	7.1
60～64歳	90	40.0	30.0	14.4	17.8	14.4	26.7	18.9	34.4	24.4	7.8
65～74歳	242	31.0	28.9	12.8	9.5	14.9	21.1	27.3	31.0	16.9	5.0
75歳以上	306	28.8	24.8	9.8	13.7	16.7	16.3	12.4	27.5	15.7	4.6

	n(人)	就労に向けた準備、働く場所の紹介や学ぶ機会の確保	その他	特に必要と感ずるものはない	わからない	不明・無回答
【性別】						
男性	502	12.7	1.6	3.2	15.1	6.8
女性	566	15.4	1.4	1.2	9.9	5.7
【年代別】						
18～29歳	89	28.1	1.1	3.4	9.0	0.0
30～39歳	98	10.2	2.0	2.0	12.2	0.0
40～49歳	101	14.9	5.0	4.0	3.0	3.0
50～59歳	156	12.8	1.9	3.8	10.9	0.6
60～64歳	90	8.9	0.0	1.1	13.3	2.2
65～74歳	242	11.2	0.0	1.7	16.1	5.8
75歳以上	306	15.0	1.6	1.0	14.7	15.7

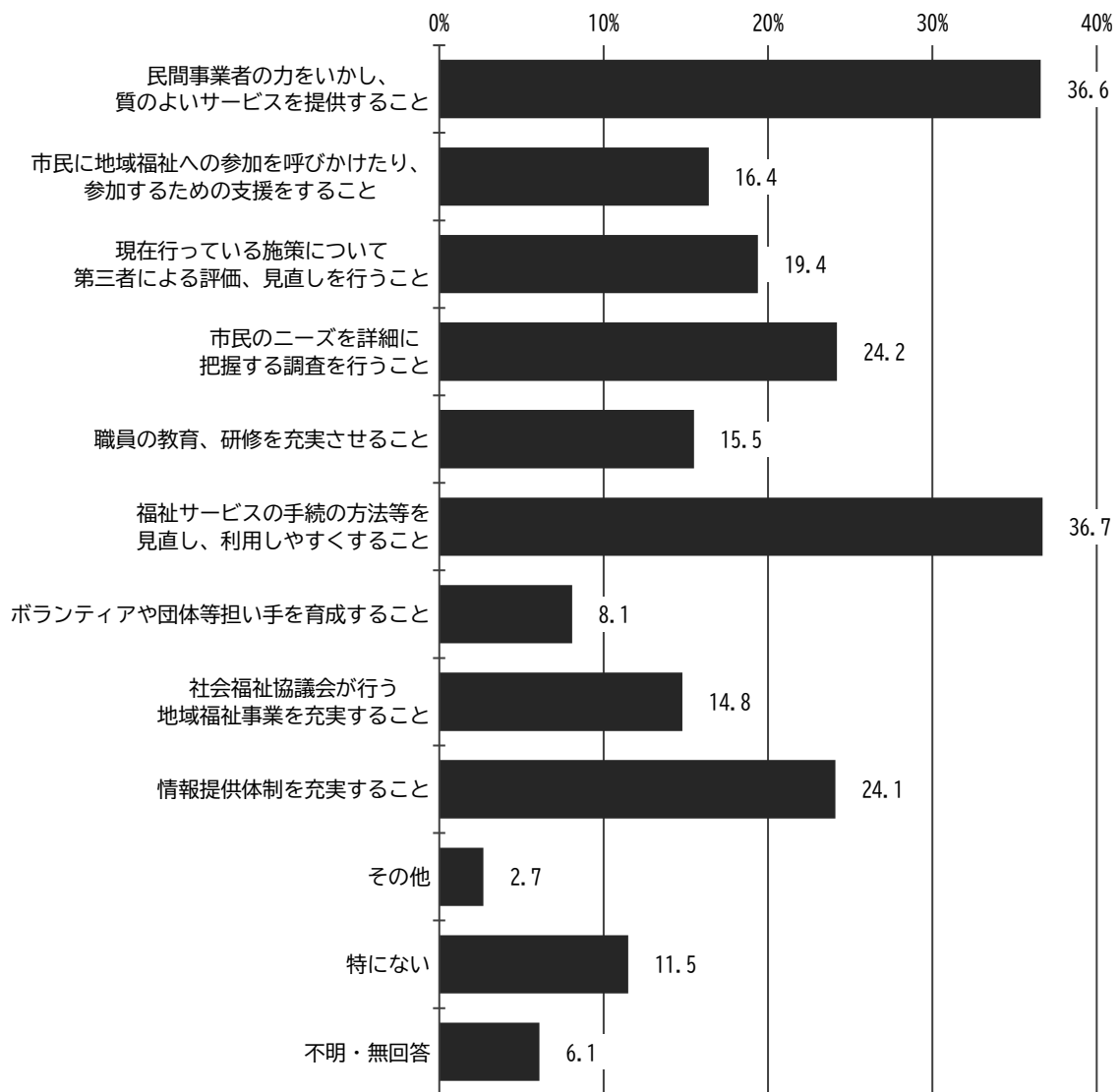
◆表中の色分け： 第1位 第2位 第3位

II これからの施策について

問 42 あなたは、地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために、本市は今後、どのようなことに取り組むべきだとお考えですか。[3つまでに○]

地域福祉に関する施策を効果的に進めていくために、市が取り組むべき内容については、全体で「福祉サービスの手続の方法等を見直し、利用しやすくすること」が 36.7%と最も高く、次いで「民間事業者の力をいかし、質のよいサービスを提供すること」が 36.6%、「市民のニーズを詳細に把握する調査を行うこと」が 24.2%となっています。

(n=1,094)



※その他の回答では、「市役所と包括センターの機能集約」や「税金の無駄づかいをしない」「市民への広報活動の強化」等の意見がありました。

問 43 本市の地域福祉に関わる施策や保健福祉サービスに関して、ご意見やご要望がありましたら、お書きください。[自由記述]

市の地域福祉に関わる施策や保健福祉サービスに関するご意見やご要望については、全体で 127 件の様々なご意見が寄せられました。

分類	件数
福祉行政について	15 件
福祉サービスについて	32 件
地域活動やボランティアについて	18 件
情報提供・相談体制について	44 件
アンケート自体について	14 件
その他	20 件

※複数の分類に関係する意見は、【複数該当】として、関係するすべての分類に掲載しています。

【福祉行政について】

内容	性別・年齢
・他の市に比べ、多子世帯への支援や子育て家庭への支援が弱い。他の市や時代に合わせた支援を検討すべき。また、乳児や幼児が遊べる綺麗な公園がない。このままでは他の市に子育て家庭が流れ、高齢化が進むことが懸念される。	男性 30～39 歳
・高齢者や障がい者に対する世間の偏見が、つらい。市役所ががんばって。ありがとうございました。	女性 60～64 歳
・世界中がどんどん不安定な状況になっているので、高齢者や身障者等が避難しやすいように、難しいと思いますが核シェルターをなるべく多く（スイスのようにできれば一世帯に一か所）できるようにして欲しいです。	女性 60～64 歳
・自分も高齢者の仲間入り。まだ現在不自由に感じていることはないけれど行政の方々には様々な形で支援を期待しています。	男性 65～74 歳
・今までは地域福祉に関わる事項については、あまり身近に感じられず、関心もなかったが年を重ねて、地域に常住するようになって地域福祉、サービス等の内容について少しずつ関心を持つようになってきた。	男性 65～74 歳
・自助努力の啓蒙。	男性 65～74 歳
・地域福祉に対する不信感があり、噂に惑わされ、本質がわからず、近所付き合いができなくなるケースが多くなるのではないか。その根本は民事になり、とても難しいのではないか。真剣に取り組める気骨のある職員がいれば別であるが、財政の問題にあたり解決につながらない。お役所仕事になりがちであるが、本来は福祉について、皆が幸せに生活するために何ができるかを考えて実行することではないか？福祉に携わるうえでは誰もが平等な権利を持っているという考え方が重要である。福祉に関わる仕事は様々ありますが、その中で最も大切なことは、これをとっているあなたの気持ちが福祉の仕事に真剣に取り組むと心が病みますよ。	男性 65～74 歳

内 容	性別・年齢
<ul style="list-style-type: none"> ・今後増々、老人の高齢化が進み暮らしにくい状況が目に見えてきます。今後共、人々の目線に合わせて人々が気持ち良く、幸せに暮らせる世の中を希望します。 	男性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・文京区から3カ月前に引越して来ました。文京区も弱者に優しい区だったが武蔵村山市はもっと優しい市だと思う。十分評価している。続けて欲しいと思う。 	男性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・少ない年金（厚生年金）なのに高齢になるにつれ、介護保険料額や医療保険料が高くなるのはおかしい。又、住宅税額も高過ぎる。高齢になるにつれ安くして、年金額を減らさない様に！ 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所を地区毎に拡充していただきたいです。 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・社会には裕福な家庭、困窮の世帯、健常者や障害者がいて当たり前。強者が（富裕・健常）が手を差しのべて、みんなが笑顔で暮らしてゆく事が大切。福祉・平等を切り捨てると、戦争へと悪い道に走ってしまう。ロシア、イスラエルは典型的な例です。障害者、生活困窮家庭等、市民全員が楽しく生活出来る武蔵村山市＝日本一幸せな市になる事を祈っています。宗教、政治の自由、基本的人権を大切にする市に。そして、一切の差別を無くすことが理想だと思う。山崎市長及び職員の方々の更なるご努力とご健勝を。がんばっていこう武蔵村山市。 	男性 75 歳以上
<ul style="list-style-type: none"> ・低所得者に対する生活支援の増加。生活保護世帯への経済的支援の増加。武蔵村山市の「ゴミ処理対策」は大変立派。迅速・丁寧。担当部署・ゴミ処理作業者に、市民からの感謝の気持ちを「ぜひ」お伝えください。「ありがとう、健康に留意されて、頑張ってください！」 	男性 75 歳以上
<ul style="list-style-type: none"> ・近年パスの交通機関で運行回数の減少がみられる。老人の日常生活に支障をきたしています。病院、行政、買い物と生活に不便をしています。これらの交通行政をよろしくお願いします。 	女性 75 歳以上
<ul style="list-style-type: none"> ・87 歳。ペースメーカーで介護申請するも非該当。他の自治体では該当するのでは…と聞いたが、審査に差があるのか？ある理由は何か？80 歳過ぎたら福祉関係の訪問がある自治体も存在すると聞いたが、武蔵村山市はないのでしょうか？ 	女性 75 歳以上

【福祉サービスについて】

内 容	性別・年齢
<p>・障害のある人の生活について（居場所づくりについて）高校を卒業した後、放課後等デイサービスの利用が18才までで終わると、就労後に作業所から帰ってきて、夕方（19時頃まで）過ごせる居場所が市内にはありません。そのため、障害のある人は親が働いている場合には、高校を卒業した後は、グループホームや入所施設に入るしか選択肢がありません。家族と一緒に暮らしたいという思いがあっても、居場所がないために、入所を選ばざるを得ない状況があります。一緒に家族と暮らすことを選んだ場合には、家族が働く時間を確保することができず、特に母子家庭・父子家庭の場合には、親の就労そのものが困難になるという大きな問題があります。重度の知的障害・身体障害をもつ人は、選択肢が限られ、よほど金銭的余裕がない限りは、入所施設・グループホーム以外に道がありません。だからこそ、市内に就労後の時間に利用できる、「日中一時支援」などの居場所づくりを強く求めます。市による新しい施設の運営が難しい場合には、民間企業や団体が積極的に運営に参入できるよう、市で受け入れ体制を整え、承認・監督する形をとって欲しいと思います。障害をもつ人が地域で安心して生活でき、家族も安心して働けるはずで。また、福祉に携わる職員の数が全体的に不足しているように感じます。支援の質を保つためにも、人材確保・待遇の改善をぜひ優先的に取り組んで頂きたいです。よろしく願いいたします。</p>	<p>女性 20～29歳</p>
<p>・どんな福祉サービスがあるのかを複数の媒体や場所で発信して、多くの市民が知れるようにして欲しい。</p>	<p>女性 20～29歳</p>
<p>・シングルで育てている人に住宅支援や年金免除などを市役所からやって欲しい</p>	<p>女性 20～29歳</p>
<p>・市内、地域によっては公共交通が利用したくても利用しにくい。病院や買い物も思うように行けなく不便を感じている高齢者や障害者が多くいます。そういった方へのサービスの充実をお願いします。障害者の入所施設の充実をお願いします。ずっと住み続けられる街にしてください。</p>	<p>男性 30～39歳</p>
<p>・他県にいたこともありますが、さすが東京、福祉サービスや情報公開、案内パンフレットが充実していると思います。住民が必要なサービスを受けやすい環境にあると思います。これからの時代、子供のいない老人が増えていくと思うので、そういう人が福祉サービスを受けやすく、生きやすくする制度が必要になってくると感じます。（介護、相続、認知症、お墓とか。）</p>	<p>女性 30～39歳</p>
<p>・子育て世帯のため、子どもの福祉には興味があります。以前、住んでいた近隣の他市では、市民であれば図書館内で子どもの一時預かりを利用できたり、総合センター内の子育てひろばには保育士が常駐していて、一緒に遊んでくれたり、親の話し相手になってもらえた。子育てひろばに行けば、子育て中の悩みも子どもを遊ばせながら相談することができ、心強い場だった。武蔵村山も子育てひろばが開いている時間はいつ行っても、相談ができる状況だと子育てしやすいと感じる。（今はイベントがある時間以外は、ひろばが空いてる時間、他に誰も遊びにきていないと誰とも交流できず孤独な感じがします。）</p>	<p>女性 30～39歳</p>

内 容	性別・年齢
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスについて、知らないことで利用まで繋がらない方が多くいるように思います。福祉サービスの知識を身につけることを個人に任せると、情報格差が激しくなってしまうため、学校での学習内容に、福祉サービスの利用方法まで含めた総合的な授業が組み込まれればよいな、と思っています。 	女性 30～39 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・今家族が有料老人ホームに入所中です。今まで思ったことを述べたいと思います。在宅に関しての手厚いサービスは充実しています。しかし老人ホームに入所した方用のサービスが思っていた以上に少なく、例えば、GPSを利用（認知症で）しています。それでも完璧ではありません。それは仕方ないのですが。ただ、GPSの機材代、月の使用料に負担がかかります。その他、いろいろと施設代以上にかかってきます。レンタルしてみたい介護用の靴も単品だと借りられなかったり、購入となると高いです。いろいろと言って申し訳ありませんが、せめて行方不明者を出さないようなGPSの補助や包括さんで発行してもらっているキーホルダー式のを全国共通にしてもらいたい（市をお願いするのは間違っているかもしれませんが）。武蔵村山から違う区画になると利用できないのを知った時は、本当に行方不明を出したくないのではないなと思ってしまいました。以前、家族がお世話になっていない時にニュースで高齢者の行方不明増を聞いて、もっと年が進んだら、少しは制度（行方不明にならない）が良くなるかなと思っていたのですが。包括さんを全国共通の情報になってほしいです。認知症を診てくださっている病院と包括さんと市でも連携してほしいです。認知症の相談の際に武蔵村山病院と包括さんの連携がなく、家族がその都度説明、説明の繰り返し、あの時はとても精神的にまいりました。家族の負担が思っていた以上に老人ホームに入所してもあります。入所している方にも何か負担を減らせるサービスがほしいです。 	男性 40～49 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から低額でもいいので徴収すること。福祉事業は必要だが、全てを救う事はそもそも不可能であり、利用者には無料ではない事を教育していくと良いと思います。全てにコストがかかるためです。日本のサービスは優れていますが過保護すぎて救う側が沈んでしまいます。どちらかというサービスする側をサービスした方が良いアイデアが出そうです。 	男性 40～49 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・初めて福祉のサービスを利用する人への説明不足や受けられる支援や助成金を明確に提示する事を市の職員がしない。職員の教育からしっかりやること。誰が見てもわかり易いサービスを利用できる表を作るなどして、どんなサービスがあるか提示する。申請しないと受けられないシステムから直す。 	女性 40～49 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病の人に関しての支援や同じ人が集まる場所や、家族の勉強会をやって欲しい。 	女性 40～49 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・要支援、要介護未満の方を少し手助けする何かが無いかと考えている。国に、この介護保険を使っていない方々に少しお金を回すことが出来ないものか。 	男性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・年老いた時に病院に行く手段が少なく、病院が減っていると思うので、今後、武蔵村山市で十分な医療が受けられるか心配です。 	男性 50～59 歳

内 容	性別・年齢
・武蔵村山市はひとり親世帯に対する手当、支援が他市に比べて非常に薄い地域である、もっと言えばそういう方々に冷たい場所であると強く感じます 金銭だけの話ではなく就労支援や子育て支援等をもう少し改善できないものでしょうか？	男性 50～59 歳
・有事の際に福祉サービス受けられたら良いですね。	女性 50～59 歳
・福祉サービスについてネットで情報を得られることが少ない。行政窓口等は平日のみなので、仕事を休んで出向かうので、土曜対応が増えてほしい。	女性 50～59 歳
・これからますます高齢者のみの世帯が増えていくので、日常生活をサポートする仕組みづくりをしっかりと整える事が必要。（気軽に相談できる事、声かけ、ゴミ出し、買い物、病院の送り迎え等、民間と協力して行えれば良いと思う。）	女性 60～64 歳
・中間層→何も使えない。大変でも適用にならない。そんな福祉サービスに興味がない。正直な気持ちはこれ。本当に必要な人には手厚くても良いとは思いますが、きちんと見極める施策であって欲しい。	女性 60～64 歳
・介護施設や福祉施設の拡充や質の向上を希望します。	男性 65～74 歳
・高齢者への福祉を充実してほしい。	男性 65～74 歳
・今までは地域福祉に関わる事項については、あまり身近に感じられず、関心もなかったが年を重ねて、地域に常住するようになって地域福祉、サービス等の内容について少しずつ関心を持つようになってきた。【複数該当】	男性 65～74 歳
・現状の保健福祉サービスについて、民間のコンサルタントを入れて改善点についてアドバイスを求めたらどうか。	男性 65～74 歳
・今年夫が亡くなりまして子供もいませんので1人になってしまいました。関西に姉がいますが、心臓が悪く頼りにはなりません。私のように頼れる親族のいない高齢の者で入院や施設に入る際の保証人がいない人は、かなりいるのではないかと思います。保証協会などを調べてみましたが、高額な保証料金が必要です。それと私が死んだ後の事も心配です。一番簡単な直葬にしても、誰がやってくれるのか。都営に住んでいますが、家具を出して部屋を綺麗にしたり、死亡届を出したり、銀行口座の解約やいろいろな事務的な事が山ほどあります。それで、武蔵村山市の方で、死んだ後どうするか、私のような者に聞き取りをしてもらえないかと思います。預金はありますので、必要と思われるお金を市に預けておく事もできます。神奈川県横須賀市の高齢者政策はとてもいいと思います。武蔵村山市でも実施されたらどんなに安心できるかと思います。	女性 65～74 歳
・福祉サービスについて、障がい者を持つ家族にとっての項目がなかったように思え残念でした。健常者目線になっているように感じました。	女性 65～74 歳
・まだ利用希望がないのでいまいち関心がないが、そのうちお世話になると思う。その時色々なサービスが簡単に受けられる様な仕組みを作って欲しいと考える。病院の待ち時間短縮、考えて欲しい。	女性 65～74 歳
・高齢者の介護施設は高額で心配になります。誰もが入れる施設が増えて欲しいです。安いからといってほったからしにされる施設も心配になります。市でもそういう人の負担を少しでもして頂き安心して入所出来るようになって欲しいです。	女性 65～74 歳

内 容	性別・年齢
・近隣の見守り（高齢者、障害者）。思いやりを持つ。声掛け。ゴミの分別が出来ない人がおられる。福祉のあり方、介護の見直しやヘルパーの見直し。	女性 65～74 歳
・道路をきれいにしてほしい。車いすでの移動が困難。特に災害時、車で移動していても揺れが激しく危ない。	女性 65～74 歳
・他市に比べ全てサービスが不足している。商店街を含め、モノレール開業を機に充実させてほしい（買い物も含め本市だけで完結できないことが多い）。	男性 75 歳以上
・地域包括支援センターにいろいろと相談して、現在に至りますが…。期間は2～3年になると思いますが…。主に、主人が支援？を受け、特に部屋の中に器具を貸してもらいましたが、効果があるかないかわからないまま、高額な（私達にとっては）ため、やめようとした際、「やめられなかった」記憶があります。今でも、その頃のいやな事が思い出されます。心身共々、弱っているときの“対応”等々考えてほしいと思っています。時間がありませんで、乱筆にて失礼いたします。	女性 75 歳以上
・買物に行って、バス停にトイレ・ベンチがないと困る。	女性 75 歳以上
・高齢になり（82 歳）何もかもが大変です。生命ある限り、自分の事は自分で…と思っていますが、それも最近は無理！出来る事は協力致します。お世話になります。ありがとうございます！	女性 75 歳以上

【地域活動やボランティアについて】

内 容	性別・年齢
・小学校で行っていた道徳授業を活用して、福祉やボランティアに関する事を高学年や中学生等に話をする機会が、必要だと思う。なんとなく言葉は知っていても、どんな内容なのかは知らない。知る事で誰かの力になれたり、自分の力になる事があると思う。	女性 18、19 歳
・大人用トイレの中に子供を座らせる椅子を沢山設置して欲しい。大きい公園（ボール遊び可）を作って欲しい。お年寄りから子供までお散歩できる道（木が生えてるから日陰になる）。	女性 20～29 歳
・近くでどんなことが行われているのかわからないので参加できない。参加不参加のアンケートとってみてもいいかも	男性 30～39 歳
・現在の生活で世帯に高齢者がおらず、子どもの引きこもり等がない中で“福祉”に関わることが少なく、自分自身の中でも情報収集することがなく、知識がないことがわかった。今後、当事者だけでなく“いつ自分や自分の家族が福祉と関わる可能性がある”と思うことや、協力できることがあるのであれば、やっていきたいと思った。	女性 30～39 歳
・もっと小規模での地域交流があると、参加しやすいし身近な近所の人顔も覚えられると思う。福祉中心の交流会は参加する年代は限られると思うので、イベントの主旨を限定しなくても良いと思う。	女性 30～39 歳

<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病の人に関する支援や同じ人が集まる場所や、家族の勉強会をやって欲しい。【複数該当】 	女性 40～49 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 申請すればもらえる助成金等をもっと明確にアピールして欲しい。 2. 市民のふれあい、憩いの場となる大きな中央図書館を作って欲しい。 	男性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ これからますます高齢者のみの世帯が増えていくので、日常生活をサポートする仕組みづくりをしっかりと整える事が必要。(気軽に相談できる事、声かけ、ゴミ出し、買い物、病院の送り迎え等、民間と協力して行えば良いと思う。)【複数該当】 	女性 60～64 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 問 42 に記載しましたが、地域での住民同士の繋がりが無い状況です。自治会組織はあるが、加入率が低い状況です。加入率が上がれば地域の繋がりが構築出来るかも知れません。 	男性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在コンビニの派遣をされていてシフト制です。孫が出来てから小さい子がとてもかわいくて大切に感じます。以前は子供と真剣にやり取りしたことが無かったのですが、無の子供に色々な事を教えるのは楽しいと感じる今日です。読み聞かせをする事で、子供は自然と本が好きになり、読める様になります。孫は立川に住んでいて6歳になり、なんとオリンピック選手の浅田真央さんのマオリンクでスケートを習うようになりました。子供の運動能力は優れていて、67歳の私よりずっとスケートがうまくなりました。水泳も習っていて平気で泳げるようになってきました。お話も上手で飼い猫の夢の話をしてくれます。今は無いチョコレート色の猫の話で人間の子になった話です。孫は双子の女の子です。 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者同士が繋がれる場所等（気軽にお茶したり、運動したり、出かけたり）がもう少しあってもいいかな…と。情報交換の場所が欲しい。 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1. アンケートを通して、地域福祉に関心が無かったことを実感した。自分も幸せだし、周りにも困っている人がいないと感じているから。 2. 自分にも何かできるかも…とは思っていたが自信が無い。 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉活動の範囲は広い。高齢者の立場から一点に絞って述べる。65歳以上の高齢者になると3人に1人は認知症予備軍だとマスコミで報道されている。その予防対策に決定的な方法がないだろうが、孤独にならないこと、できるだけ体を動かし、交流を図り、世間話で結構、大いに会話を多くすることが大切だと言われている。市老連のこれら全てを網羅した活動を中心にした活動は他にない。そして役員は全てボランティアで行っている。結論は、これらの活動を行政は側面から支援し、活動を継続していけるよう、ご理解をいただきたいと思う（市老連一会員から）。 	男性 75歳以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 助けて欲しい、助けて下さいという人がいたら、その人の親や子供になって助けなければいけないから、普通の人には出来ないと思う。自分を犠牲にするくらいの人がいればいいが、やりますという人がいても、まず、人を助けるなんて家を直すとか食料を配るのは出来るけど、ひきこもりや治らない病気の人を助けるのは本当に大変。私には出来ない。これが私の正直な気持ちです。 	男性 75歳以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は言葉少ないし、明るくないので小仕事から何かしたいです。休みなのもうやれませんか。話しかけをする事は、良い事ですね。孤独です。何かやれること教えて下さい。 	女性 75歳以上

・広報に掲載する保健の日等と月に何日か、または利用する人に合わせて、ボランティアで送り迎えできる人を登録しておき、連絡して利用できる交通の便があればと思います。	女性 75歳以上
・自分が若ければ色々手伝いたいと思います。でも高齢なので。	女性 75歳以上
・今迄、主人の介護をしていたので、地域活動は何もしてこなかったが、出来る事があればこれからは参加したいと思っている。	女性 75歳以上

【情報提供・相談体制について】

内 容	性別・年齢
・どんな福祉サービスがあるのかを複数の媒体や場所で発信して、多くの市民が知れるようにして欲しい。【複数該当】	女性 20～29歳
・住民の若い人達がいるところに、積極的に情報を流して認知度を向上させる。SNSを最大限に活用。情報誌も古く感じるので、若者が目を惹かれるようなデザインにするとか。	女性 20～29歳
・知らない事が多く、自分の無知を思い知りました。施策やサービスはどこで主に発信しているのでしょうか？あまり市役所に行かないため、近くのイオンやバスの中に発信するものがあると助かります。只、家へ用紙を配布するのは経費が掛ってしまう為、止めるべきかと思います。家から出られない方がいるので、全てを止めるべきではないと思いますが。このようなアンケートの実施をありがとうございます。	女性 20～29歳
・近くでどんなことが行われているのかわからないので参加できない。参加不参加のアンケートとってみてもいいかも【複数該当】	男性 30～39歳
・子育て世帯のため、子どもの福祉には興味があります。以前、住んでいた近隣の他市では、市民であれば図書館内で子どもの一時預かりを利用できたり、総合センター内の子育てひろばには保育士が常駐していて、一緒に遊んでくれたり、親の話し相手になってもらえた。子育てひろばに行けば、子育て中の悩みも子どもを遊ばせながら相談することができ、心強い場だった。武蔵村山も子育てひろばが開いている時間はいつ行っても、相談ができる状況だと子育てしやすいと感じる。（今はイベントがある時間以外は、ひろばが空いてる時間、他に誰も遊びにきていないと誰とも交流できず孤独な感じがします。）【複数該当】	女性 30～39歳
・障害児を持つ母です。マイナンバーで色々できる日は、いつ来るのでしょうか？手続きも、1つの手当につき時期もバラバラ…提出期限、書類の多さ…。マイナンバーの有効性を感じたことはありません。一度、市役所でしか取れない書類があると、包括センター→市役所→包括センターに移動させられた事があります。子供を三人引き連れて。市内の施設なのに、行政なのに、なぜ？せめて隣接した建物であって欲しいです。早くモノレールが通り、市の重要な建物が集まって欲しいです。専業主婦なので時間に余裕があり色々な事に目を向けられるけど、近所との付き合い・情報収集…仕事してる人には大変だろうなと思います。アプリ等活用して、もっと情報を見やすくして欲しいです。	女性 30～39歳

内 容	性別・年齢
<p>・私の母と叔父（母の弟）は障害者手帳2級です。幼い頃から母の精神的サポートをしてきました。今でいうヤングケアラーでした。昔から今までしんどいです。子供って助けてと言えないし、その状況があたり前なのでおかしいと気づかないんです。大人になって色々わかってきましたが。母と、叔父そしてその母（私からしたら祖母）は高齢だし、勝手に背負わなくていいのにやってくれと言われたわけでもないのに心配しています。結構前から心配でどこでサポートしてくれるのか、情報をネットで調べてみたり母、叔父の病院の先生に相談してみても何か納得する情報が得られなかったりで、最近は地域包括支援センターに行っても何かなりに情報はもらえました。母とは同居してるので、叔父と祖母は見守っていて介護サービスなどを使えたらと思います。意見、要望ではない内容になってしまいましたけど、こういう思いをしてる人がいるという事を知ってほしいです。</p>	女性 30～39 歳
<p>・1.何をどこに相談したら良いかが分かり易くなると良いと思います。2.人員数が見合っていないと思います。今、必要な人への支援が早急に行われる事を希望します。</p>	女性 30～39 歳
<p>・今家族が有料老人ホームに入所中です。今まで思ったことを述べたいと思います。在宅に関しての手厚いサービスは充実しています。しかし老人ホームに入所した方用のサービスが思っていた以上に少なく、例えば、GPSを利用（認知症で）しています。それでも完璧ではありません。それは仕方ないのですが。ただ、GPSの機材代、月の使用料に負担がかかります。その他、いろいろと施設代以上にかかってきます。レンタルしてみたい介護用の靴も単品だと借りられなかったり、購入となると高いです。いろいろと言って申し訳ありませんが、せめて行方不明者を出さないようなGPSの補助や包括さんで発行してもらっているキーホルダー一式のものを全国共通にしてもらいたい（市にお願いするのは間違っているかもしれませんが）。武蔵村山から違う区画になると利用できないのを知った時は、本当に行方不明を出したくないのではないなと思ってしまいました。以前、家族がお世話になっていない時にニュースで高齢者の行方不明増を聞いて、もっと年が進んだら、少しは制度（行方不明にならない）が良くなるかなと思っていたのですが。包括さんを全国共通の情報になってほしいです。認知症を診てくださっている病院と包括さんと市でも連携してほしいです。認知症の相談の際に武蔵村山病院と包括さんの連携がなく、家族がその都度説明、説明の繰り返し、あの時はとても精神的にまいりました。家族の負担が思っていた以上に老人ホームに入所してもあります。入所している方にも何か負担を減らせるサービスがほしいです。【複数該当】</p>	男性 40～49 歳
<p>・土日、お休みの時もやって欲しい。相談一つするにも、仕事をしているので行かれません。自分に支援が必要になってからでは遅いので早めに整えていきたい。武蔵村山市が住みやすいところになって欲しい。バス、電車、モノレールが使いやすい地域になって欲しい。</p>	女性 40～49 歳

内 容	性別・年齢
<p>・介護を何十年もしてきました。その何十年間、親の介護に子育てを一人でやっていましたが、働きに行く事もできず収入はなく、色々大変でした。子供にも欲しい物を買ってやれず、親にも介護や家事以外ろくに幸せな思いをさせてあげられないまま、お別れの日が来てしまいました。ひとり親家庭で親の介護や手続き、病院の送迎・付き添い等々、自宅介護は本当に大変でした。加えて、子供の学校に関する様々な用件や手続き、ひとり親家庭の手続き、あれこれも本当に多過ぎて、手続きだけで一日が済む日も多々でした。もっと簡単に手続きが終わるようであれば、良いサービスも利用できない方がたくさん居ると思います。まずはそこを改善してみてもいいですか？</p>	女性 40～49 歳
<p>・福祉に相談・手続きに行った際の対応が、良い方・悪い方がいらっしゃいます。目の悪い方に用紙だけ出して「記入してください」で席を外して、聞くこともできない。お給料をもらっているなら、しっかりと対応しましょう。仕事が嫌なら、辞めて転職すべきだと思う。福祉で働いている意味？そういう方は必要ないと思う。しかし、そのような方ばかりではないです。3・4年前、高齢福祉の担当者には、とても良くしていただきました。本当に感謝しています。</p>	女性 40～49 歳
<p>・初めて福祉のサービスを利用する人への説明不足や受けられる支援や助成金を明確に提示する事を市の職員がしない。職員の教育からしっかりやること。誰が見てもわかり易いサービスを利用できる表を作るなどして、どんなサービスがあるか提示する。申請しないと受けられないシステムから直す。【複数該当】</p>	女性 40～49 歳
<p>・小学校の学級崩壊、1クラスに落ち着きのない児童が沢山いて授業になりません。親から見放されている子や、親が子を見れていない家庭が多いです。発達障害がありそうだが、親のサポートが得られない。学校でしつけてもらいたいと思っている。市の質の低下につながるし、学力の低下にも繋がります。各家庭で親が子を把握できているのか調査し、あやしい場合は指導する。児に対しては周りに迷惑をかけるならそれなりの対応をすべきだと思います。</p>	女性 40～49 歳
<p>・アンケートをやってみて福祉に関して知らない事ばかりだと感じた。現在、自身に直接関係が無い為だと思いますが、いざという時に備えて、もう少し日頃から情報収集しようと思いました。一方で、どうやって情報収集すれば良いのかが分かりません。市の広報誌があるようですが、あまり読んだ事はありません。</p>	女性 40～49 歳
<p>・市内循環バスの時刻表やルート案内などをまとめた表を各家庭に1つ欲しい 出来れば立川バスもあつたら助かる人も多いと思う（乗り継ぎなど）</p>	女性 40～49 歳
<p>・親が脳梗塞で入院し退院して介護認定をとり、デイに行きはじめました。確定申告やもろもろ発生しそうな事柄を自分で探すのが地味に負担です。障害者手帳申請など。申請主義といえばそれまでですが、どうにかならんものでしょうか？</p>	男性 50～59 歳
<p>・老後にこの市で過ごすのは不安だと感じる。せっかく配布している情報誌をもっと内容を見直した方が良い。他の市町村は武蔵村山市に比べてサービスが充実していると感じる事が多い。力になって下さる相談員にもたくさん出会いましたが、当市ではお会い出来ていません。お手本となる市町村はたくさんあると思う。</p>	男性 50～59 歳

内 容	性別・年齢
<ul style="list-style-type: none"> ・兎に角、情報の伝え方がうまくない。チラシや市報に載せたりしても、見ない方は見ないので弱いと感じる。 	男性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・いつもお世話になっています。今は 50 代で問題ないですが、70、80 代の時にどんな問題が出てくるのかなど、少しずつ知っておきたいなと思っています。 	男性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・親の介護・認知症の相談などは以前よりは地域包括支援センターの利用、介護認定を活用する方が増えていると思いますが、ヤングケアラーやひきこもりの当事者・家族の方はまだまだ相談窓口まで行けない方が多いのではないかと思います。その様な悩みをもつ方が相談出来る場所がある事をもっと広めてほしいと思います。 	女性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスについてネットで情報を得られることが少ない。行政窓口等は平日のみなので、仕事を休んで出向かうので、土曜対応が増えてほしい。【複数該当】 	女性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・困った時に対応して頂ける部署・相談窓口の充実と明確化。 	女性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の閉館時間が早い。せめて 19 時。理想は 22 時。窓口は（本の貸し借り）開いていなくていいから、本を読む場所（自習スペース）は、遅くまで開けて欲しい。図書館以外でも夜遅くまで、勉強できる場所を提供して欲しいです！ 	女性 50～59 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵村山 山崎市長殿。このような形でのアンケートを行う事自体に、一番の問題があると思っています。アンケートの内容も、自己保身（健康福祉部殿を自己と表現）の思惑が直に伝わってくる内容でした。市と地域の民生委員等が色々な意味で市のバックアップを前提にきちんとした交流が出来ていれば、このようなアンケートは必要ないのではないのでしょうか？言い換えれば、地域の民生委員に対して、無記名アンケートをするのが最も有効な事、と考えます。※地域の民生委員が素直に話してくれないから市民に直接…、という事であれば理解できるが…。私の一個人の意見に過ぎませんが、聞いてください。私は、一般の市民の方々と比べると、市への期待度も高く、地域住民の代表と勘違いし自負しながら、地域住民が泣き寝入り（市は頼れないからとのこと）している実情に対して、市を頼るべきという形で幾つかの問題を市の各部門に相談してきました。が、ある 4 部門については、全くと言って良いほど、市民目線での対応をして貰えず（詳細説明は割愛）、最終的には、警察や消防や税務署等を訪ねる形で相談し、解決に至ったりそれに大きく近づく、という対応をここ数年してきました。※税に関しては、虐めとも受け取られる、相談内容が面倒くさいが根源となる嘘の情報を伝えられ、結果として税務署担当者に笑われ、市に対して信頼性を損なうという原因ともなった事例もある。このように、私を含め多くの市民は、“市を頼っていない”という問題が根本にあるのだと思っています。市役所受付様（完璧な対応）を除いて、先ずはせめて、市役所内で面と向かった対応の有るべき姿に関して見直しをすることが不可欠と考えます。…笑顔での対応者、ほぼ皆無です。※「めんどくせーなー！」が直に伝わってくる。…それぞれの部門が、自己保身を最優先にしている、根本の問題は薄れてゆくばかりではないのでしょうか…。…それとも、問題という位置付けではなく、市の自己保身だけが目的なのではないでしょうか？ 	男性 60～64 歳

内 容	性別・年齢
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者の立場になって、相手のことを考えることができる心の教育。※車いすの人はバスの乗降に時間がかかるため、ほかの乗客に迷惑をかけるので、乗りづらいことがある。このような気持ちにさせないよう、市民の理解が必要。 	女性 60～64 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に困っている方や税金を支払うのが大変で、市の収納課へ分割払いで生活ができる位の支払い方などの相談なり、収納課で協議をしていただき、困っている方への強化をして欲しい。 	女性 60～64 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・これからますます高齢者のみの世帯が増えていくので、日常生活をサポートする仕組みづくりをしっかりと整える事が必要。（気軽に相談できる事、声かけ、ゴミ出し、買い物、病院の送り迎え等、民間と協力して行えれば良いと思う。） <p>【複数該当】</p>	女性 60～64 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉に対する不信感があり、噂に惑わされ、本質がわからず、近所付き合いができなくなるケースが多くなるのではないかと。その根本は民事になり、とても難しいのではないかと。真剣に取り組める気骨のある職員がいれば別であるが、財政の問題にあたり解決につながらない。お役所仕事になりがちであるが、本来は福祉について、皆が幸せに生活するために何が出来るかを考えて実行することではないかと。福祉に携わるうえでは誰もが平等な権利を持っているという考え方が重要である。福祉に関わる仕事は様々ありますが、その中で最も大切なことは、これをとっているあなたの気持ちが福祉の仕事に真剣に取り組むと心が病みますよ。【複数該当】 	男性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・自分がその状況に置かれるまで無策のまままで過ごす不安がありますので、適度な頻度の情報発信をしていただけると助かります。 	男性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・以前にみまもり相談室の男性の方から、何度かボランティアのお誘いや、訪問した事が書いてある紙がポストに入っていたことがあります。一人暮らしなので、男性の方は迷惑です。あと、生活に困っている人は沢山います。コンビニで40・50代の男性が話し込んでいるのを見かけますが、働きもせず不思議に思っています。4・5人で、話している事と言えば女性の話です。昼間から女性を部屋に入れて、お隣の方が迷惑しています。（生活保護の見直し。） 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・私見です。基本は自分で自分の事はする。すぐに頼るのではなく。ただし、自身ではどうしても困った時は、「こういう時は」→「ここへ」、「//」→「//」、とか相談する所を明確に広報（表など）して欲しい。市役所の職員の方の対応が…。どうしても必要がない限り、関わりたくないです。 	女性 65～74 歳
<ul style="list-style-type: none"> ・市民に関心を持ってもらえる様な広報誌の作成と情報提供。 	女性 65～74 歳

内 容	性別・年齢
<p>・今年夫が亡くなりまして子供もいせんので1人になってしまいました。関西に姉がいますが、心臓が悪く頼りにはなりません。私のように頼れる親族のいない高齢の者で入院や施設に入る際の保証人がいない人は、かなりいるのではないかと思います。保証協会などを調べてみましたが、高額な保証料金が必要です。それと私が死んだ後の事も心配です。一番簡単な直葬にしても、誰がやってくれるのか。都営に住んでいますが、家具を出して部屋を綺麗にしたり、死亡届を出したり、銀行口座の解約やいろんな事務的な事が山ほどあります。それで、武蔵村山市の方で、死んだ後どうするか、私のような者に聞き取りをしてもらえないかと思います。預金はありますので、必要と思われるお金を市に預けておく事もできます。神奈川県横須賀市の高齢者政策はとていいと思います。武蔵村山市でも実施されたらどんなに安心できるかと思います。【複数該当】</p>	女性 65～74 歳
<p>・まだ利用希望がないのでいまいち関心がないが、そのうちお世話になると思う。その時々色々なサービスが簡単に受けられる様な仕組みを作って欲しいと考える。病院の待ち時間短縮、考えて欲しい。【複数該当】</p>	女性 65～74 歳
<p>・福祉活動の範囲は広い。高齢者の立場から一点に絞って述べる。65 歳以上の高齢者になると3人に1人は認知症予備軍だとマスコミで報道されている。その予防対策に決定的な方法がないだろうが、孤独にならないこと、できるだけ体を動かし、交流を図り、世間話で結構、大いに会話を多くすることが大切だと言われている。市老連のこれら全てを網羅した活動を中心にした活動は他にない。そして役員は全てボランティアで行っている。結論は、これらの活動を行政は側面から支援し、活動を継続していけるよう、ご理解をいただきたいと思う（市老連一会員から）。【複数該当】</p>	男性 75 歳以上
<p>・市の職員は市民のことを考えて、とことん話を聞き、本人が納得するまで相談して欲しい。</p>	女性 75 歳以上
<p>・担当者がおいてるか？向いてない人が多いような気がする。聞きに行く方は、何もわからないで聞くので、よくかみくだいてわかり易く説明をして欲しい。ひきこもり等など出て行ける所などあるか？最後に相手の立場、又は自分が聞くつもりで相手をして欲しい。</p>	女性 75 歳以上
<p>・申し訳ないんですけど、福祉という言葉が嫌いなんです。まだ介護保険がない頃、母を介護していました。とても元気なのですが病院でCTを撮ったら頭のなかは無数の脳梗塞が星屑のように。病気の脳梗塞で歩けない事で、入院3カ月…友人から入院3カ月では助成金が市から出ると聞き申請に福祉課に行きました。来た訳を説明し、係りの人が席を離れて自席かな？戻る時に後ろの席にいた上司らしき人が、なんだー？と声をかけたら係りの人が金が欲しいとよ！と答えた。福祉という言葉は勝手に一人歩きし現場は何をどうすれば良いのかわかっていないと思う。すごく腹が立ちそのまま帰って、あれ以来福祉課には行った事はありません。あしからず。</p>	女性 75 歳以上

内 容	性別・年齢
・高齢の親が体調を崩し、一人暮らしのため地域包括支援センターに相談に行ったことがあるが、相談にのってくれなかった。安心して住み続けることができるのかと、心配になった。	女性 75歳以上
・我家には年老いた老人が昼間は二人います。その一人は足が不自由で迅速には動けません。災害があった場合、迅速に避難できるよう、市からの配慮をお願いします。夜は息子達がいるので安心ですが。	女性 75歳以上
・87歳。ペースメーカーで介護申請するも非該当。他の自治体では該当するのでは…と聞いたが、審査に差があるのか？ある理由は何か？80歳過ぎたら福祉関係の訪問がある自治体も存在すると聞いたが、武蔵村山市はないのでしょうか？ 【複数該当】	女性 75歳以上
・守秘義務はとても重要ではあるが、縦割り行政に戸惑うこともあります。情報共有のあり方を再考する必要があるのでは？	女性 75歳以上
・周知の為の情報提供。	無回答 無回答

【アンケート自体について】

内 容	性別・年齢
・このようにQRコードで簡単にアンケート回答が出来るのであれば3,000人と言わず、18歳以上の市民全員にお願いしてもいいのではないのでしょうか。まずは知るところからだと思います。自分は社会福祉に関して知る良い機会になりました。	男性 20～29歳
・この調査が役立ってくださると嬉しいです	女性 20～29歳
・いつもありがとうございます。全体的に言葉などが分かりづらいです。学力の高くない地域ですので言葉を簡単にすることで伝わりやすくなるかもしれません。ご年配の方が多い地域かもしれませんが、市の発展を目指すなら教育に力を入れるのがいいと思っています。教育に予算をたくさんつけてください。教員は教科予算が多くつく地域なら行きたいと思う人が多いと思います。また、質のよい教育者の講演会を各学校で行う予算などもつくると良いと思います。学校関係だけでやるのではなく、外部からの講師を呼べることも大切かと思っています。働かされている皆様もいつも大変な思いをされていると思います。いらない施策や流れに合っていないものは手放していくことも大切かと思っています。今回のアンケートのことは脱線したことも書いてしまい申し訳ありません。ありがとうございました。	女性 30～39歳
・知らない事が多かったです	男性 50～59歳

内 容	性別・年齢
<p>・武蔵村山 山崎市長殿。このような形でのアンケートを行う事自体に、一番の問題があると思っています。アンケートの内容も、自己保身（健康福祉部殿を自己と表現）の思惑が直に伝わってくる内容でした。市と地域の民生委員等が色々な意味で市のバックアップを前提にきちんとした交流が出来ていれば、このようなアンケートは必要ないのではないのでしょうか？言い換えれば、地域の民生委員に対して、無記名アンケートをするのが最も有効な事、と考えます。※地域の民生委員が素直に話してくれないから市民に直接…、という事であれば理解できるが…。私の一個人の意見に過ぎませんが、聞いてください。私は、一般の市民の方々と比べると、市への期待度も高く、地域住民の代表と勘違いし自負しながら、地域住民が泣き寝入り（市は頼れないからとのこと）している実情に対して、市を頼るべきという形で幾つかの問題を市の各部門に相談してきました。が、ある4部門については、全くとって良いほど、市民目線での対応をして貰えず（詳細説明は割愛）、最終的には、警察や消防や税務署等を訪ねる形で相談し、解決に至ったりそれに大きく近づく、という対応をここ数年してきました。※税に関しては、虐めとも受け取られる、相談内容が面倒くさいが根源となる嘘の情報を伝えられ、結果として税務署担当者に笑われ、市に対して信頼性を損なうという原因ともなった事例もある。このように、私を含め多くの市民は、“市を頼っていない”という問題が根本にあるのだと思っています。市役所受付様（完璧な対応）を除いて、先ずはせめて、市役所内で面と向かった対応の有るべき姿に関して見直しをすることが不可欠と考えます。…笑顔での対応者、ほぼ皆無です。※「めんどくせーなー！」が直に伝わってくる。…それぞれの部門が、自己保身を最優先にしている、根本の問題は薄れてゆくばかりではないのでしょうか…。…それとも、問題という位置付けではなく、市の自己保身だけが目的なのではないでしょうか？ 【複数該当】</p>	男性 60～64 歳
<p>・問1～2を考えてほしい。何故今回の回答まで生活できるか不明なので。</p>	男性 65～74 歳
<p>・憩いの場として、総合公園（十分な広さ）の配置を検討願います。本アンケート内容に対して、F7（世帯収入）の調査の必要性が理解できない。（回答は「わからない」としてます。）本アンケート調査の分析結果及び新計画策定に向けたアンケート結果の反映内容を、いつまでにどのような方法で公表するかを、事前に知らせていただきたい。</p>	男性 65～74 歳
<p>・このアンケートの記入方法に問題はありませんか？分かりづらい順番や表題があり、単身と答えたのに同居家族の事を質問されるのは良く分かりません。</p>	男性 65～74 歳
<p>・福祉かどうかの問題でなく、用紙作成費用は大変な金額である。このアンケートは何の為になるのか、疑問です。この物価高に大変な思いをして、日常生活をしていると思う。福祉の担当はそれなりの考えで、市民が喜ぶ事をするべき。市民に生活給付金を出すほうが、今の時点は市民は喜び、また、武蔵村山市としても変化が見えると判断される。無駄な事はやめるべき。私達も無駄な時間です。</p>	男性 75 歳以上

内 容	性別・年齢
・問 43 に関して意見はないんですが、私事に関しての意見であります。今回の意識調査に感謝致しております。自分は 80 歳近いので毎日終活の事を考え生活をさせて頂いています。ですから、本当に今回の調査は認知症予防にもなり、頭で考える力を大いにさせてもらい、ありがとうございました	女性 75 歳以上
・国勢調査が終わったばかりに、良く分からないアンケートが届き疲れました。老人には大変です。自分自身がなるべく家族に迷惑をかけたくないので、頑張って生きて行かなくてはと思っています。	女性 75 歳以上
・国全体で子育て支援、障害者支援などはかなりありますが、高齢者には冷たい国だと思います。金持ちだけではないのですよ。アンケートも字は小さいし、漢字が多くて読めない字もあります。こんなアンケート役に立ちますか？	女性 75 歳以上

【その他】

内 容	性別・年齢
・遊具のある公園を増やしてほしい。自習室などの勉強ができる場所を作ってほしい。	女性 18、19 歳
・バイクの駐車を増やしてほしい。（原付ではなく中堅、大型用。）バスの増便、バス停の増設。右左折用の信号の増加。交通の便が悪い地域なのでもう少しバイクや車、バスでの対策をできるようにしてほしい。	女性 20～29 歳
・車を持ってない高齢者向けの交通手段を充実して欲しい。	女性 20～29 歳
・利用する機会が無い為、分かりません。	男性 30～39 歳
・今回の質問内容を真面目に解決する気のある方々にしてもらえれば、自然と良いサービスになりそう。公金が欲しいだけの団体にならないように頑張ってください。	男性 40～49 歳
・早くモノレールが開通して欲しい	女性 50～59 歳
・今は主人がいますが、ひとりになった時の不安とかはあります。先日、知人が亡くなり身内が誰もいない人だったので、その人の所有の車や家や家財、預金はすべて国の方で…それを見たとき、自分の時や主人、今は別居している娘がいますが、ちょっと考えさせられました。友人がいても口は挟めず！	女性 60～64 歳
・当事者になっていないので、あまり良くわからない。	男性 65～74 歳
・ガンバって下さいね。	男性 65～74 歳
・来年 4 月から自転車の「青切符」制度が導入されますが、車道に自転車専用ラインみたいな物を書いて頂きたいです。歩道から見えても、とても危険で来年から特に事故が多発するのではと心配です。若い方だけでなく高齢者の方の危険な運転がとても目につきます。財政が厳しいのは重々承知していますが何卒よろしくお願い致します。	女性 65～74 歳
・武蔵村山市残堀地区には施策などが、少なすぎる。	女性 65～74 歳

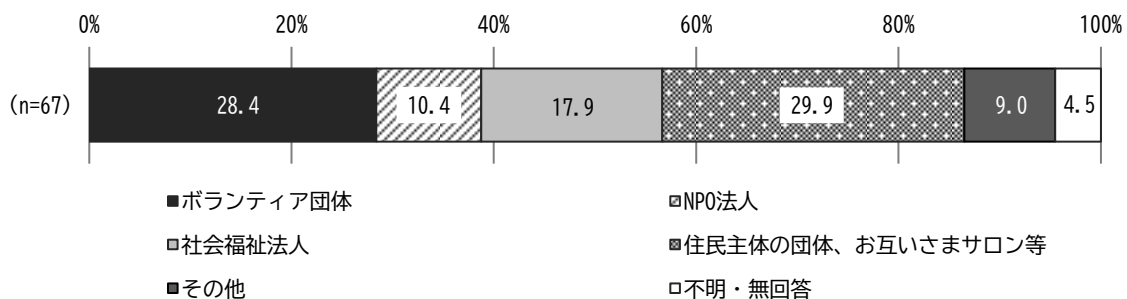
内 容	性別・年齢
・福祉かわかりませんが、年々バスの本数が減ってしまい、外出したくても考えてしまいます。私の所は、立川行が1時間に1本になってしまいました。なんとか増やしていただきたい。	女性 65～74 歳
・日頃の皆様方の活動に感謝いたしております。高齢なので何もできませんが、より良い環境、充実した生活が送れますこと希望します。	女性 65～74 歳
・本意識調査の質問内容は全てが、人との関わりに関するもので、いわばソフト面のみに関するものです。無論大切なことばかりなのですが、本市の社会インフラ、いわばハード面である道路の補修等を行ってください。道路標示はかすれて消えたまま、カーブミラーをつけてもらいたい所も多く有ります。度重なる工事でごぼこになった路面等、何十年も放ってあります。こうした道路はすべてが生活道路です。モノレール延伸も結構ですが、足元のことも考えていただきたいものです。	男性 75 歳以上
・神明4丁目から西に行くバスがないのは、困ります。私は循環器内科に通っていますが、バスの便がなく1時間以上かかるので（うまくいきませんよね）。	男性 75 歳以上
・市民目線で何事も対応していただきたい。公僕者とは。	男性 75 歳以上
・NHKの件で。金町青梅に住んで13年間はNHKの料金請求は一度もありませんでした。しかし武蔵村山団地に入居してすぐに請求がありました。なぜですか？10年住んでいますが今でも請求が届いて支払いはしていません。3回手紙を出しましたが未だに請求が来ます。金町青梅と同じようにしてもらいたい。都営の住まいの件で。学生は勉強のためにワンルームでもいいですよ。だが親は子供が泊まりに来るため、もう一部屋欲しいです。今の住まいはワンルームで風の通り窓がないため、夏はドアを開けておく。小さな窓があったら助かります。この2つがいつもの悩みです。	女性 75 歳以上
・80歳を過ぎてから自分の体力に自信がなくなり気持ちはあっても、活動を制限せざるを得ないのが残念です。	女性 75 歳以上
・細かい事はともかくも私達年寄りの散歩コースは、古いブロックの高い塀が多く恐らく強い地震があれば逃げ道は全部ふさがれて通行出来ない状態になると思われ、散歩の都度古い高い塀を出来るだけなくしてほしいと思っています。全体の生活不安を除くのは、市が各家へ他人に迷惑をかけない生活を広報で呼びかけていく事が理想と思います。	女性 75 歳以上
・私は高齢者ですので、限られた回答しか出来ません。武蔵村山市は好きです。その為、良くなる事を願います。皆様のご協力に感謝の言葉しかありません。ありがとうございます。	女性 75 歳以上
・質問に答えるには年を重ね過ぎて申し訳ありません。手指足腰も良くないので…。	女性 75 歳以上
・自転車専用道路が無い場所が多い。	無回答 無回答

Ⅲ 団体・事業所アンケート調査結果

Ⅰ 貴団体のことについて

問Ⅰ 団体の区分はどちらですか。[○は1つだけ]

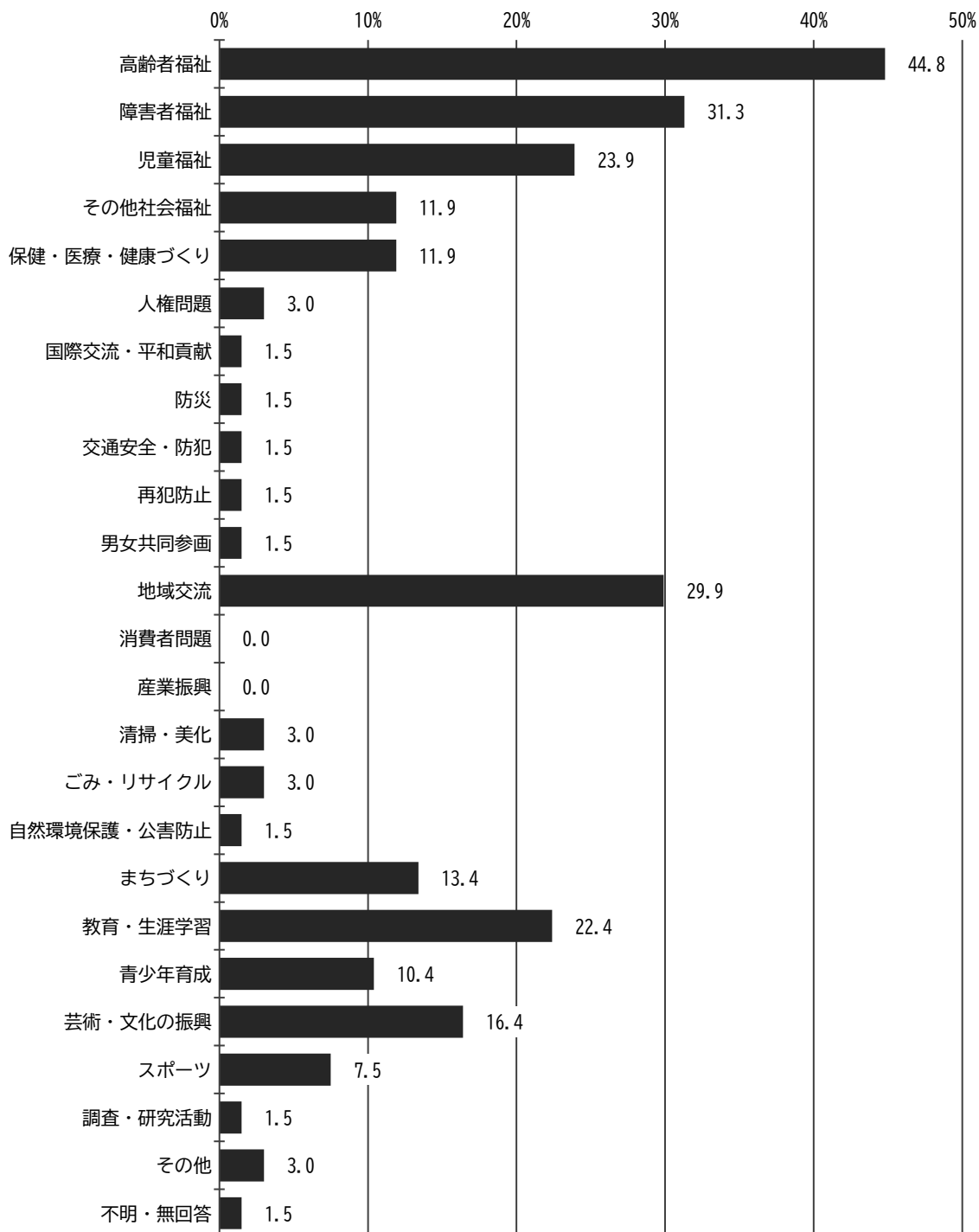
団体の区分については、全体で「住民主体の団体、お互いさまサロン等」が29.9%と最も高く、次いで「ボランティア団体」が28.4%、「社会福祉法人」が17.9%となっています。



問2 主な活動部門や内容はどちらですか。[あてはまるもの全てに○]

主な活動部門や内容については、全体で「高齢者福祉」が44.8%と最も高く、次いで「障害者福祉」が31.3%、「地域交流」が29.9%となっています。

(n=67)



問3 具体的な活動内容をお書きください。[自由記述]

分野	内容
高齢者・介護予防等の支援	<p>・毎月2回（第2・4金曜日）AM10:00～11:30、中原地区集会所学習室にて主に高齢者対象に介護予防のためにラジオ体操より始め、電子ピアノの演奏にあわせての歌、脳トレプリント、レクリエーションゲームを行っている。15人前後の参加者であるが高齢者の引きこもりを防ぎ、楽しい交流の場となっている。</p>
	<p>・武蔵村山市にお住いの概ね65才以上のお買い物や通院に不安のある方に会員になっていただき、支援者の自家用車で利用者のご自宅の往復送迎を行い、スーパー等の買い物の付き添い、荷物の持ち運び、医療機関への通院等付き添いをするボランティア団体です。実費弁償金1時間600円（ガソリン代込）、支援者500円、事務局100円。</p>
	<p>・脳トレ、フレイル体操。</p>
	<p>・独居高齢者宅を訪問し、安否確認や生活状況を聞き、できる支援を実施する。困っていることをサポートしていただける方につなげるなどです。独居高齢者は70歳以上としていますが、未満の方でも連絡訪問する場合があります。</p>
	<p>・大南公園や市道の花壇花植え手入れ。高齢者の健康づくりとして、グランドゴルフやハイキング。高齢者カラオケ等での交流。よってかっしえクラブへの参加etc。</p>
	<p>・高齢福祉課主催の一般介護予防事業のうち、高齢者を対象とした健康教室「脳のパワーアップ教室」「ひざ痛予防体操教室」及び「介護予防リーダー育成講座」の運営を担う。</p>
	<p>・高齢福祉課主催の一般介護予防事業のうち、「ひざ痛予防体操教室」の運営を担う。ハムウォーキング（ウエイトを足首に1kgずつ付ける）を受講者に実践していただき、足の主要な筋肉を強化してひざ痛の予防を促す。</p>
	<p>・高齢入所施設運営経営、障害通所施設運営経営</p>
	<p>・高齢者福祉施設を訪問し、先方のカラオケ機器を使ってご利用者様のリクエスト曲をご一緒に歌う。合唱を楽しむ。ソロでマイク歌唱を披露することはしません。</p>
	<p>・高齢者施設（特養）介護保険事業所（通所、訪問介護、居宅、包括）が併設しており、それぞれの立場で活動及び運営をしている。</p>
	<p>・高齢者を対象として、認知症予防を目的とする。高齢者向けに作成されたくもん教材を使い、毎週1回教室に集まってもらい読み書き（音読）計算（小学生低学年レベルの算数）及びすうじ盤を体験していただく。また宿題（読み書き計算）を毎日の課題として行っていた。</p>
	<p>・高齢者の骨盤底筋体操</p>
<p>・月2回市民総合センターにて健康体操、ゲーム等で脳トレ、認知症予防を目的に活動。</p>	

分野	内容
高齢者・介護予防等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会として、地域福祉全般について、行政、社協、地域包括などと連携、協力し活動している。委員ひとりひとりが担当地区において、75歳以上独居の方、避難行動要支援者の方の見守り活動をしている。 ・お互いさまサロン活動の中で、高齢者認知症予防の体操、及び講習をプログラムを作成の上、実施しております。また、高齢者の生活支援を実施、生活上困難な庭の草取り、植木の剪定、家事の手伝い、買い物に行けない方の為また、病院等への送迎サービス等の実施を行っています。 ・お互いさまサロン Enjoy Do-Re-Mi!は、介護予防のサロンとして、英語の歌をうたいながら楽しく英語を学びます。歌には選ばれた言葉がたくさんあり、メロディーと共に美しい言葉をまなんでいます。 ・60歳以上の市民を集め合唱を楽しんでいます。代表が伴奏を担当しています。歌集は手作りですが700曲になりました。
障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・日本手話を正しく学習し、その普及と社会的な認知を促進する。ろう者の生活、文化、歴史等を正しく学び、その知識を社会に還元する。定例会の他、地域イベント、小中学校総合学習への参加。 ・知的障害のある方、その家族の親睦。 ・障害者入所支援施設 ・障害者施設として、健康管理・相談・生活動作の介助支援、必要物品の提供を行っている。又、児童発達支援センターとして、障害のある児童や家族の相談援助を行い、集団生活に適應できるように療育を行っている。地域交流においては、みどりまつり・バザーを施設で企画し実施するとともに、福祉まつりの施設参加や就学前幼少（入所・在宅）との地域保育園交流を行っている。又、実習生・見学者・ボランティア等に門戸を開き積極的な交流をはかっている。専門チームでは、年に複数回の地域向け研修を行っている。また、地域団体への通所棟の貸し出しを行っている。 ・障害のある方の就労支援をしています。必要があれば生活の支援も行います。 ・障がい者（児）の余暇活動。保護者の交流（情報交換）、親睦、相談など。 ・就労継続支援B型事業所 ・市報むさしむらやまの点訳。市内小中学校で点字体験。 ・高齢入所施設運営経営、障害通所施設運営経営【複数該当】 ・一般就労が困難な方たちが通うB型事業所、障害者達の生活の場、グループホーム。 ・ろう者とは日本語と異なる言語、日本手話を話す言語的少数者、ろう者特有の習慣（ろう文化）を持っています。ろう者に対する理解と日本手話の啓蒙活動、また会員相互の親睦を目的とした行事を行っています。
子ども・子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所（2件）

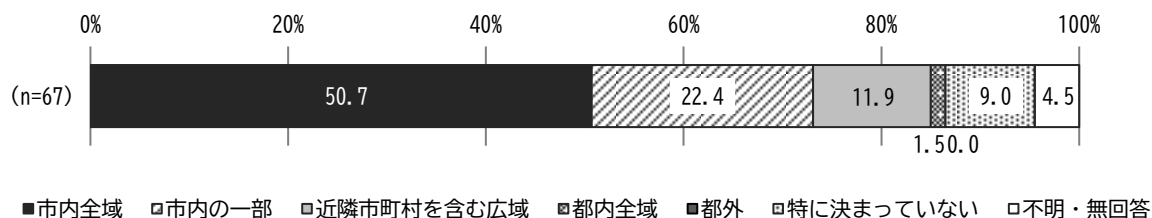
分 野	内 容
子ども・子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・里親制度啓発活動。毎月第3木、総合センター調理室、絵本紙芝居さとおやカフェ。毎月4日前後、市内公共施設や店の前で「里親制度啓発活動キャンペーン」ののぼり旗と人形を持ってたつ。元気フェスタで部屋を借りて紙芝居公演。本展示。その他。 ・保育園から中学校までの子どもを対象に「命を守り心を育てる出前授業」を実施しています。具体的にはいじめ防止と通学路の不審者からの被害防止等です。保護者向け講座も実施しています。 ・不登校児童とその親のコミュニティ ・認可保育園 ・乳幼児保育 ・乳幼児の保育 ・多胎児家庭交流会（多胎育児ならではの悩みなどの意見交換や情報交換を行い、多胎児家庭の孤立を防ぐ） ・障がい者（児）の余暇活動。保護者の交流（情報交換）、親睦、相談など。 【複数該当】 ・市報むさしむらやまの点訳。市内小中学校で点字体験。【複数該当】 ・市内で活動するキッズダンスの団体で組織し、ダンスを通じた子供の健全育成、団体間交流、そして地域貢献として市のPR活動を行っている。 ・芸術文化体験の為、舞台芸術の鑑賞事業、まつりへの参画創造の場づくり事業など子どもと大人の為の他団体との共同も含めた文化に関する活動。おきもち食堂とこっこひろば。 ・夏休み工作教室を年1回開催（対象は小学生）。市民活動団体や個人がコーナーを持ち、市内の子供と工作をします。 ・ひきこもりの子を持つ親の為の自助会、諸々の情報の収集と共有行う。
福祉分野を横断する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1・3の木曜日に住み開きカフェを13:00～16:00まで行っている。どなたがいらしても結構ですが地域の方々が歩いて来られることが多い。食事の提供はせず飲み物とケーキで楽しいおしゃべりで盛り上がっている。時にミニコンサートや市民の方々の発表の場、歌声喫茶や朗読の会を行っている。 ・保育園から中学校までの子どもを対象に「命を守り心を育てる出前授業」を実施しています。具体的にはいじめ防止と通学路の不審者からの被害防止等です。保護者向け講座も実施しています。【複数該当】 ・市報むさしむらやまの点訳。市内小中学校で点字体験。【複数該当】 ・市内で活動するキッズダンスの団体で組織し、ダンスを通じた子供の健全育成、団体間交流、そして地域貢献として市のPR活動を行っている。【複数該当】 ・市の指定管理による福祉に関する事業の運営や地域福祉推進に関する事業等。 ・子供から高齢者までを対象に、地域交流環境づくりを推進して地域社会の健全な発展に寄与する。具体的には子供から高齢者までを対象としたスポーツ教室や文化教室（ソロバンや生花など）を開催し、地域交流の改善発展を図る。

分野	内容
福祉分野を横断する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化体験の為、舞台芸術の鑑賞事業、まつりへの参画創造の場づくり事業など子どもと大人の為の他団体との共同も含めた文化に関する活動。おきもち食堂とっこひろば。【複数該当】 ・協議会として、地域福祉全般について、行政、社協、地域包括などと連携、協力し活動している。委員ひとりひとりが担当地区において、75歳以上独居の方。避難行動要支援者の方の見守り活動をしている。【複数該当】 ・外国籍の方が孤立しないように親睦会や、生活に関する情報交換を行うと共に日本語学習支援やお互いの国を知るための文化講習などを行っています。 ・絵本の読み聞かせを主に、子ども（幼児から中学生）高齢者、障害者の集団を訪問している。 ・家族の中で経済的責任を負っている女性の生活向上の為に、資格等を得る教育の支援や女子中高生のキャリア教育の為資金の支援をする。また、災害等で苦しみの中にいる方々への寄付、これは国内外を問わず行っている。
コミュニティ活動、その他	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1・3の木曜日に住み開きカフェを13:00～16:00まで行っている。どなたがいらしても結構ですが地域の方々が歩いて来られることが多い。食事の提供はせず飲み物とケーキで楽しいおしゃべりで盛り上がっている。時にミニコンサートや市民の方々の発表の場、歌声喫茶や朗読の会を行っている。【複数該当】 ・水泳を通して老若男女すべての市民の健康増進とスポーツの楽しさ、競技での心身の鍛錬など、市民皆泳への指導を行う。 ・バランスコーディネーションを中心とした体操。 ・大南公園や市道の花壇花植え手入れ。高齢者の健康づくりとして、グランドゴルフやハイキング。高齢者カラオケ等での交流。よってかっしゅクラブへの参加etc。【複数該当】 ・毎月第3土。 ・G1ゴルフ、健康麻雀、茶話会、カラオケ。 ・心と体の健康を希い、月3回それぞれに楽しんでいます。お稽古の前後おしゃべりに花が咲き和気あいあい。皆さんの居場所になっていることを実感しています。多くの皆さんと長くお稽古をしています。これといったいざこざがないことに感謝！これからも仲良く楽しく後半の人生を楽しみたいと思っています。 ・東京西部多摩川流域の第四紀層での化石の調べ学習と普及教育活動。化石を教材にした自然史へのインセンティブ活動「第四紀学」の普及活動。5つの目標、フィールドサイエンスを体感する生涯学習教室。「セレンディピティ」（偶然をきっかけに思わぬものを発見する能力）を引き出す。調べ学習による研究成果の学術発表。教材、研究用化石標本の蓄積と収蔵、研究機関への寄贈。 ・第3水曜日、緑が丘ふれあいセンター内。小物作りを行っています。何を作るかは参加者で話し合って決めています。 ・音楽会、体操運動（エアロビ）。

分野	内容
コミュニティ活動、その他	・保護司、犯罪を起こしてしまった方々への更生を図る。地域の予防犯罪活動。
	・グランドゴルフ、カラオケ、ボッチャ、清掃、舞踊、ハイキング
	・芸術文化体験の為、舞台芸術の鑑賞事業、まつりへの参画創造の場づくり事業など子どもと大人の為の他団体との共同も含めた文化に関する活動。おきもち食堂とっこひろば。【複数該当】
	・外国籍の方が孤立しないように親睦会や、生活に関する情報交換を行うと共に日本語学習支援やお互いの国を知るための文化講習などを行っています。【複数該当】
	・家族の中で経済的責任を負っている女性の生活向上の為に、資格等を得る教育の支援や女子中高生のキャリア教育の為資金の支援をする。また、災害等で苦しみの中にいる方々への寄付、これは国内外を問わず行っている。【複数該当】
	・夏休み工作教室を年1回開催（対象は小学生）。市民活動団体や個人がコーナーを持ち、市内の子供と工作をします。【複数該当】
	・60歳以上の市民を集め合唱を楽しんでいます。代表が伴奏を担当しています。歌集は手作りですが700曲になりました。【複数該当】

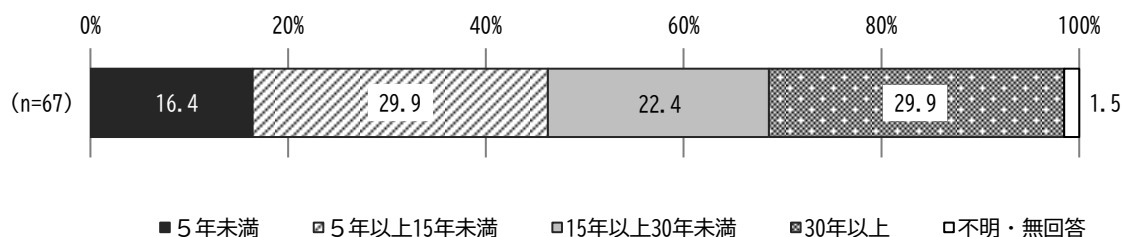
問4 活動の地域はどの範囲ですか。【○は1つだけ】

活動の地域の範囲については、全体で「市内全域」が50.7%と最も高く、次いで「市内の一部」が22.4%、「近隣市町村を含む広域」が11.9%となっています。



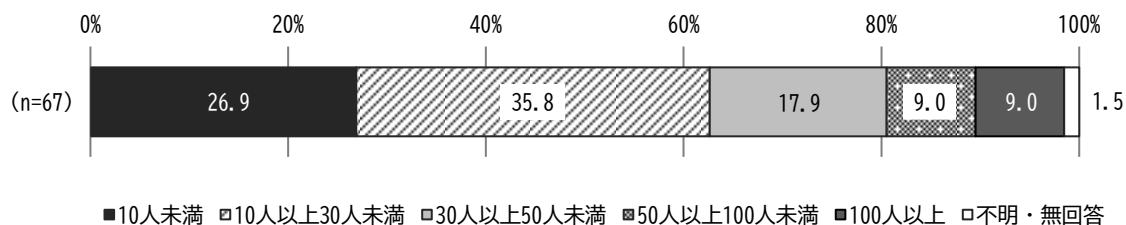
問5 活動期間はどのくらいですか。【○は1つだけ】

活動期間については、全体で「5年以上15年未満」「30年以上」が29.9%と最も高く、次いで「15年以上30年未満」が22.4%、「5年未満」が16.4%となっています。



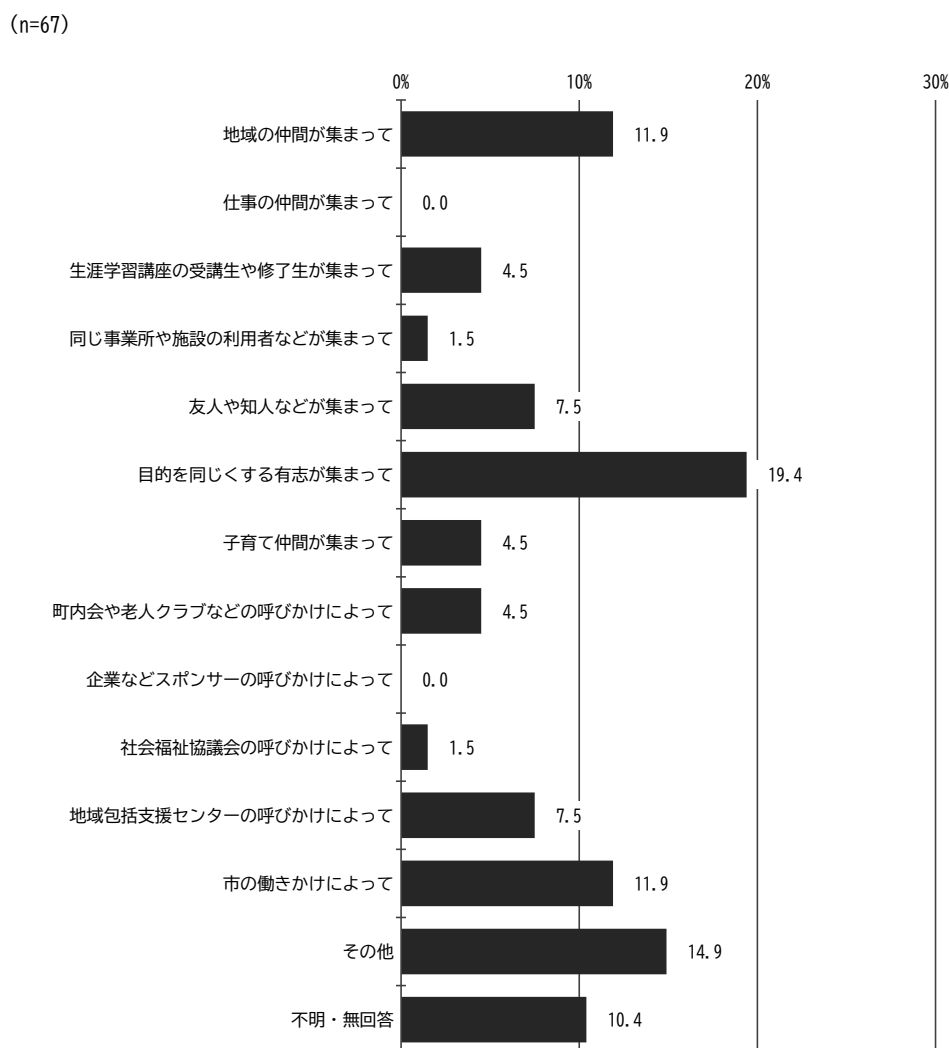
問6 令和7年10月1日時点の活動に関わる人数はどのくらいですか。(NPO法人・社会福祉法人の場合は、職員・従業員数、ボランティア団体の場合は会員数、または日常的に参加している人数) [〇は1つだけ]

活動に関わる人数については、全体で「10人以上30人未満」が35.8%と最も高く、次いで「10人未満」が26.9%、「30人以上50人未満」が17.9%となっています。



問7 活動を始めたきっかけ、いきさつ（設立理由等）を教えてください。[〇は1つだけ]

活動を始めたきっかけ、いきさつ（設立理由等）については、全体で「目的を同じくする有志が集まって」が19.4%と最も高く、次いで「その他」が14.9%、「地域の仲間が集まって」「市の働きかけによって」が11.9%となっています。

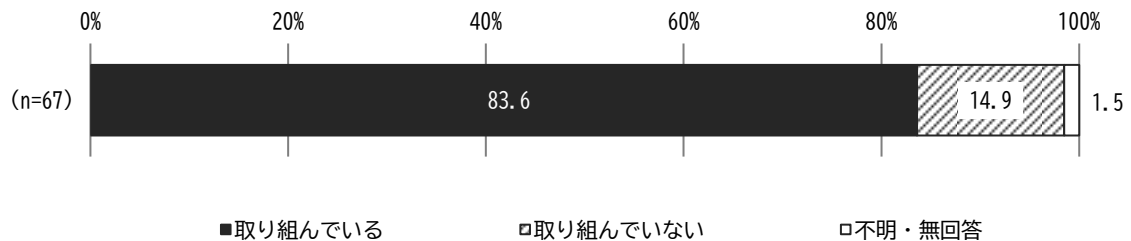


2 地域福祉活動の取組状況について

問8 地域福祉活動（ボランティア活動や地域での助け合い）に取り組んでいますか。

[○は1つだけ]

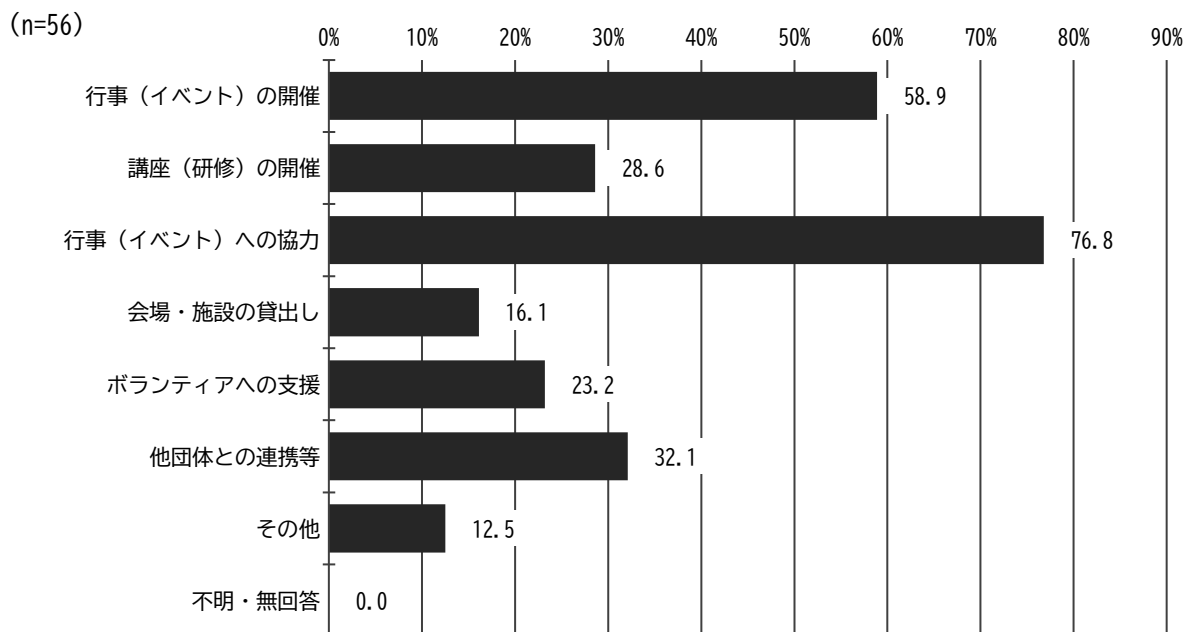
地域福祉活動に取り組んでいるかについては、全体で「取り組んでいる」が83.6%、「取り組んでいない」が14.9%となっています。



問8で「取り組んでいる」を選択した方

問8-1 地域福祉活動にはどのように関わっていますか。[あてはまるもの全てに○]

地域福祉活動への関わりについては、全体で「行事（イベント）への協力」が76.8%と最も高く、次いで「行事（イベント）の開催」が58.9%、「他団体との連携等」が32.1%となっています。



問8で「取り組んでいる」を選択した方

問8-2 地域福祉活動の具体的な取組や関わり方をお書きください。[自由記述]

分野	内容
<p>高齢者・介護予防等の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、避難行動要支援者を訪問、安否確認した。敬老金を対象者に届けた。社協の福祉まつりにボランティアとして協力。 ・緑が丘ふれあいセンターのふれあいフェスティバルやデエダラ祭りに出店して認知症予防のための学習を体験していただく。 ・緑が丘ふれあいセンターにてふれあいフェスティバル及びデエダラ祭りの出店において認知症予防のための教材を使った学習を体験していただく。 ・福祉まつりやフェスティバル等にゲーム等の用具を持参して脳トレを行っている。 ・独居高齢者（主に70歳以上）の方を訪問、安否確認、状況を聞き、できる支援を行う。コロナ禍以前は年3回程度、茶話会を開催し交流の場を提供していた。 ・西部地域包括センターと連携をとり、支援の必要な方の依頼を受けたらお宅へ出向き、説明して会員加入された場合は依頼を受け支援を実行します。 ・小地域での住民主体の活動組織の育成、運営支援。生活困窮者へのフードバンク事業等。引きこもり当事者や家族への支援。福祉教育等。 ・市民活動団体の施設、市内小・中学校への訪問。毎月15から20か所の小学校、放デイ、老健施設、保育園からの依頼を受けメンバーが手分けをして読み聞かせを行っている。 ・高齢者の為の脳トレ教室や体操教室。 ・一人ぐらしの高齢者を訪ねてお誘いする。ピアノやハーブを習っている障害児（かなり上手）を呼ぶと皆さんに人気があり聞きたがる方が多い。クラシックを聴く機会もあまりないので皆様のいやしの場になっている。住み開きカフェとは自宅の一室を地域の交流の場として開放して地域に交流するコミュニティを作っていく場でもあります。 ・お互いさまサロンで音楽療法活動を地域の高齢者へ提供、防災訓練に参加して頂いています。 ・※高齢者や市民に向け、イベント（フェスタ）や講座（認知症やフレイル、介護予防、終活などなど）の実施。認知症カフェの開催。会議等での場所、部屋の提供等。
<p>障害者支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会、講演会、旅行、新年会、お花見会など交流を深めています。手話講習会の講師、助手、小中学校総合学習、手話サークル、イベント等の手話指導を担っています。総合センターの設置、手話通訳者を派遣しています。自立支援協議会委員、相談員。 ・小中学校での総合学習への参加。ろう者講師を迎えての講座講演の開催 地域イベントへの参加 ・小地域での住民主体の活動組織の育成、運営支援。生活困窮者へのフードバンク事業等。引きこもり当事者や家族への支援。福祉教育等。【複数該当】

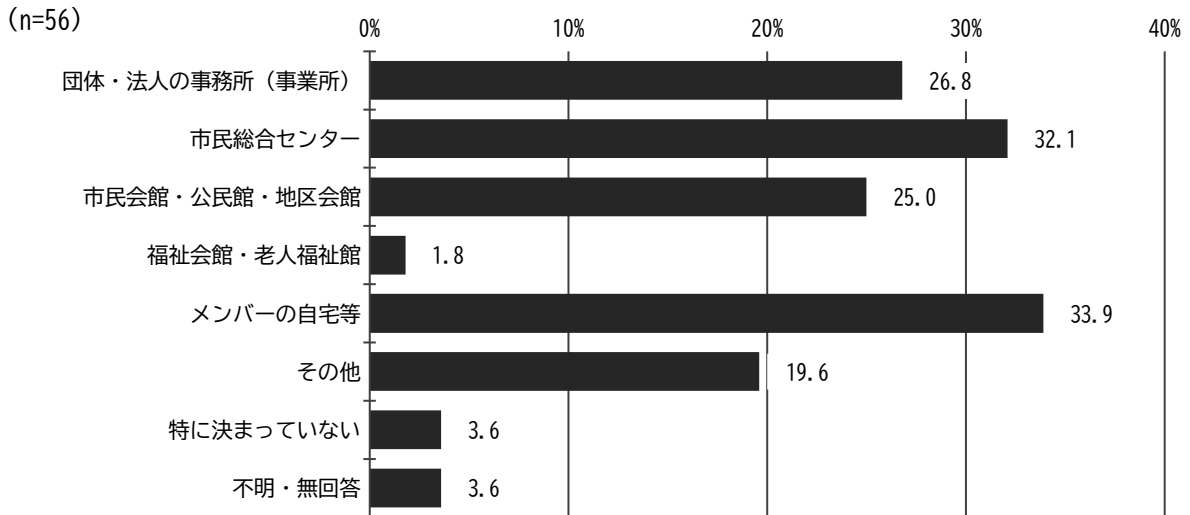
分野	内容
障害者支援	<ul style="list-style-type: none"> 一人ぐらしの高齢者を訪ねてお誘いする。ピアノやハーブを習っている障害児（かなり上手）を呼ぶと皆さんに人気があり聞きたがる方が多い。クラシックを聴く機会もあまりないので皆様のいやしの場になっている。住み開きカフェとは自宅の一室を地域の交流の場として開放して地域に交流するコミュニティを作っていく場でもあります。【複数該当】
子ども・子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 保育所駐車場をコミュニティセンター行事に貸し出している。地域の未就園園児のための園庭開放 保育園や学校を訪問しています。 地域の子ども食堂での自主生産品の販売活動など。のぞみまつりの開催。 地域の祭りに参加、協力、連絡会（毎月）の運営、市内放デイ説明会の開催（年2回）。 市民活動団体の施設、市内小・中学校への訪問。毎月15から20か所の小学校、放デイ、老健施設、保育園からの依頼を受けメンバーが手分けをして読み聞かせを行っている。【複数該当】 子育て応援活動やキッズダンス、読み聞かせ等によるイベント参加協力や学校への訪問。 ボランティアの受け入れ、地域の子育て支援
福祉分野を横断する活動	<ul style="list-style-type: none"> 福祉まつりのボランティア。（2件） 福祉まつりや緑が丘ふれあいセンターの行事への参加や協力などを行っています。 福祉まつりへの参加。「お茶会しましょ」年間7回開催。 福祉まつり、バザーの開催、地域向け研修の開催、通所棟の貸し出し、ボランティアの受入れ。 年に一度、市内で目的を同じくする仲間が集い、交流を深め親睦をはかっています。又市報やコラボ・バ、ポスター等で市民の皆様へお知らせし、参加の呼び掛けを行っています。又、ボラセンでの行事に微力ながら参加させていただいています。 地域の祭りに参加、協力、連絡会（毎月）の運営、市内放デイ説明会の開催（年2回）。【複数該当】 小中学校での総合学習への参加。ろう者講師を迎えての講座講演の開催。地域イベントへの参加【複数該当】 小地域での住民主体の活動組織の育成、運営支援。生活困窮者へのフードバンク事業等。引きこもり当事者や家族への支援。福祉教育等。【複数該当】 社会福祉協議会主催の福祉まつりで点字体験をしてもらい、点字がどのようなものか知ってもらう。

分野	内容
福祉分野を横断する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市内でお互いさまサロンを7カ所たちあげて、介護予防のボランティアに取り組んでいます。また、子ども広場を運営している NPO にも所属して、子ども食堂のボランティアもしています。また、NPO の子どもひろばに、お互いさまサロンのスタッフを講師として派遣し、多世代交流にも取り組んでいます。 ・市社協への協力、市民への行事への招待や自治会の祭りに参加するなど ・講座（研修）の開催、行事への協力、ボランティアへの支援。 ・行事への参加。講座への啓蒙活動（参加をつのる）。 ・元気フェスタ、福祉祭り、見廻り訪問 ・ボランティア活動の受け入れ、社会福祉協議会との連携 ・かたくりの理念に「地域とふれあう」とあり、その方針にも「…働くことを通して地域社会に参加し…」とある。この理念や方針にのっとり、各事業の中で地域との接点を作っていく。 ・イベントの出演で来場者の確保、イベントに活力を提供。
コミュニティ活動、その他	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉まつり、バザーの開催、地域向け研修の開催、通所棟の貸し出し、ボランティアの受入れ。【複数該当】 ・定期的にグランドゴルフ、ノルディックウォーキング、クッグ、ダンス、自衛術、生花、ソロバン、フットサル等のスポーツ教室、文化教室を行っている。また会員相互の交流会イベントも計画、実施している。総会では会員間の親睦会も開催している。 ・水泳の指導。競技会の開催（現在は開催可能なプールがなく中止中）。競技会への参加（マスターズ、市町村大会）等。 ・小中学校、大学、教育機関からの講座、イベント依頼、自然史ガイド、講師、学習塾、市民団体、自治体主体のイベント、学習会、化石採集会、ガイド講師。定期的に多摩川で化石採集会実施、室内ワークショップで座学、研究成果の学会発表。 ・収益事業を行い寄付をする。 ・社会を明るくする運動及び市内の小中学校での活動。 ・元気フェスタ ・外部から訪問客を招いてお食事会の開催 ・一人ぐらしの高齢者を訪ねてお誘いする。ピアノやハープを習っている障害児（かなり上手）を呼ぶと皆さんに人気があり聞きたがる方が多い。クラシックを聴く機会もあまりないので皆様のいやしの場になっている。住み開きカフェとは自宅の一室を地域の交流の場として開放して地域に交流するコミュニティを作っていく場でもあります。【複数該当】 ・バザー等 ・お互いさまサロンで音楽療法活動を地域の高齢者へ提供、防災訓練に参加して頂いています。【複数該当】

問8で「取り組んでいる」を選択した方

問8-3 活動拠点・事務所等をどこに置いていますか。[あてはまるもの全てに○]

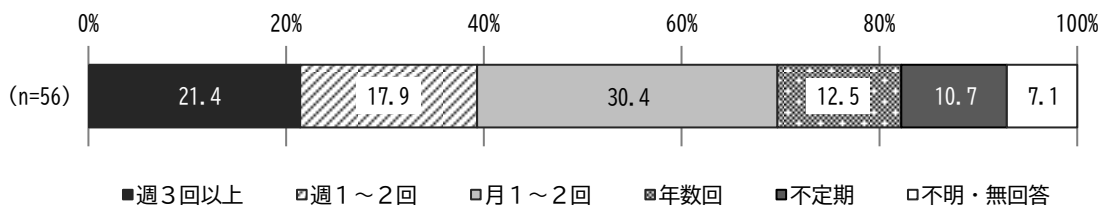
活動拠点・事務所等の場所については、全体で「メンバーの自宅等」が33.9%と最も高く、次いで「市民総合センター」が32.1%、「団体・法人の事務所（事業所）」が26.8%となっています。



問8で「取り組んでいる」を選択した方

問8-4 主な活動はどのくらいの頻度で実施していますか。[○は1つだけ]

主な活動の頻度については、全体で「月1～2回」が30.4%と最も高く、次いで「週3回以上」が21.4%、「週1～2回」が17.9%となっています。



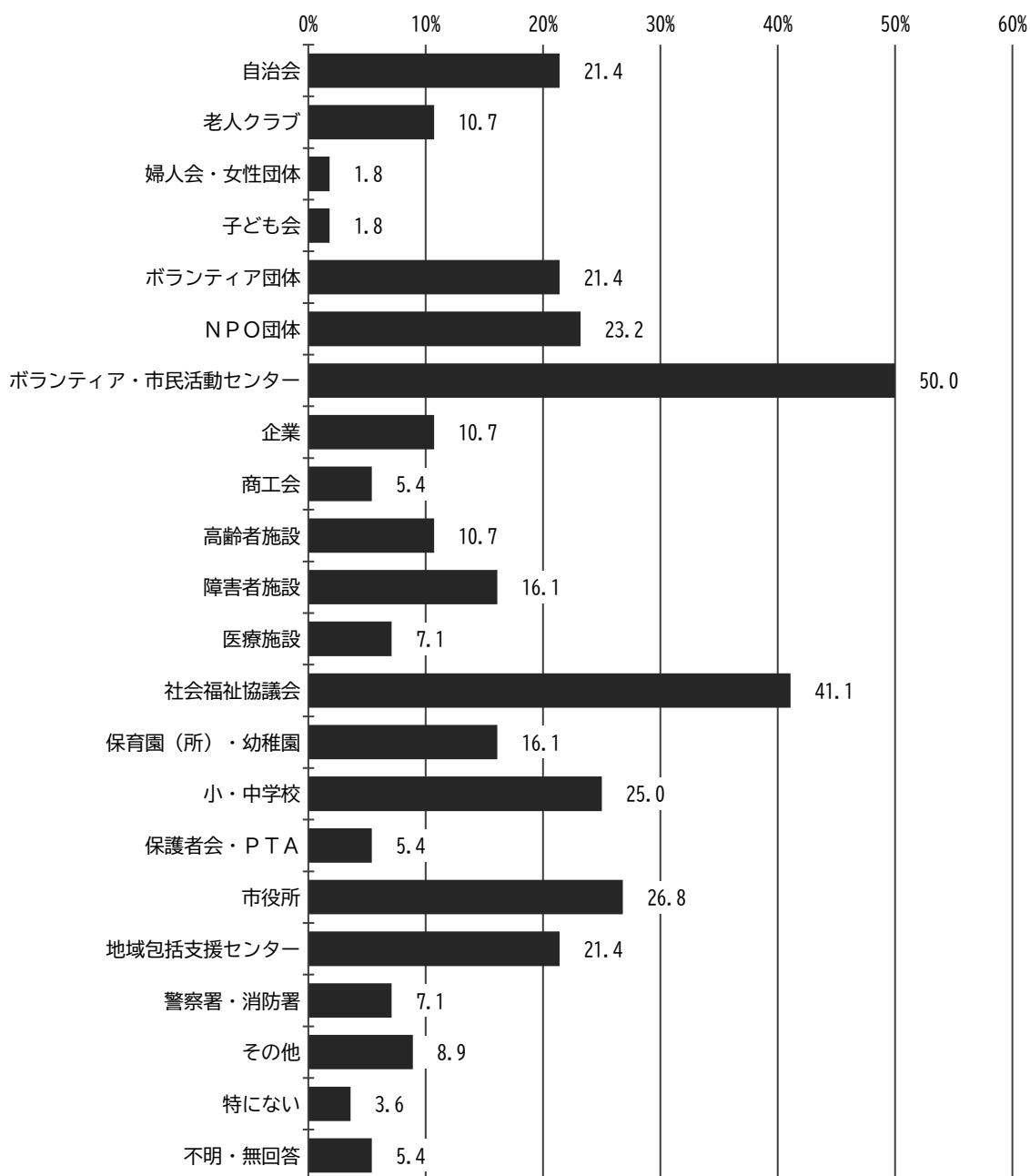
問8で「取り組んでいる」を選択した方

問8-5 活動にあたって連携・協力している団体（機関）は次のうちどちらですか。

【あてはまるもの全てに○】

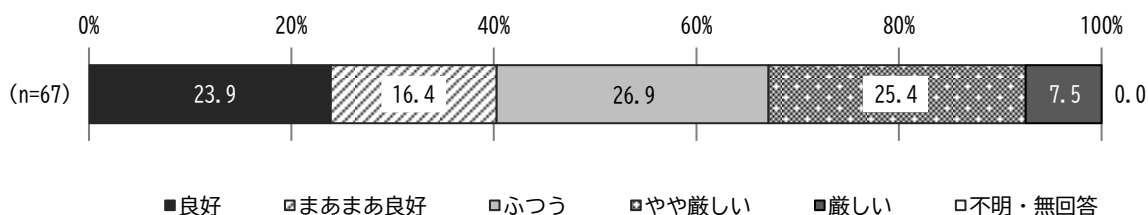
活動にあたって連携・協力している団体（機関）については、全体で「ボランティア・市民活動センター」が50.0%と最も高く、次いで「社会福祉協議会」が41.1%、「市役所」が26.8%となっています。

(n=56)



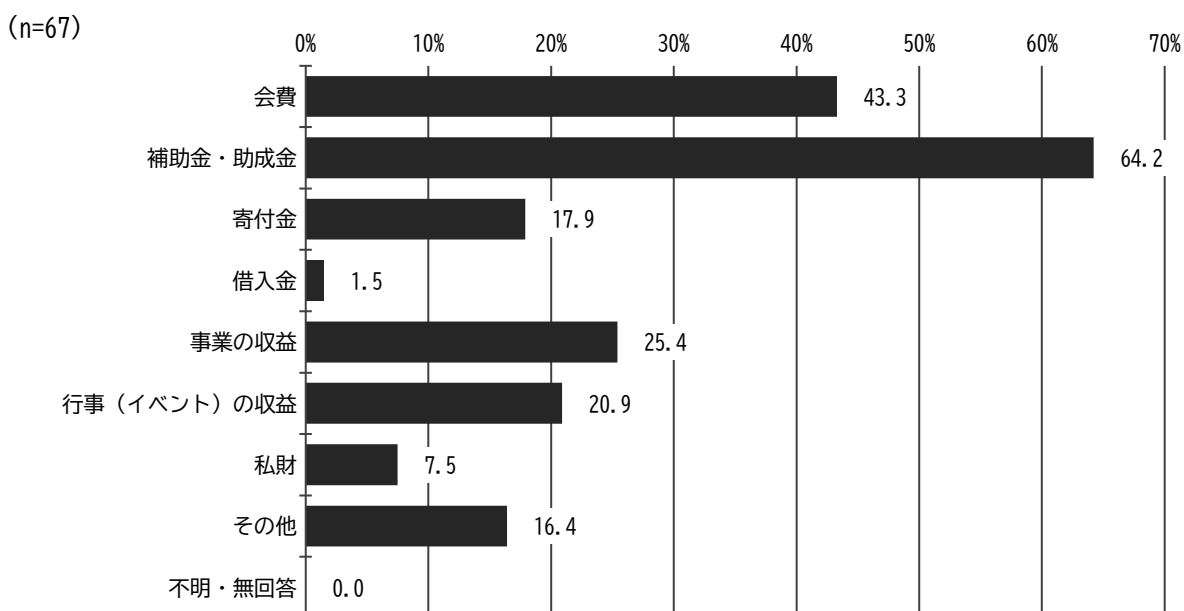
問9 経営や運営状況はいかがですか。[○は1つだけ]

経営や運営状況については、全体で「ふつう」が26.9%と最も高く、次いで「やや厳しい」が25.4%、「良好」が23.9%となっています。



問10 運営に関わる経費はどのように集めていますか。[あてはまるもの全てに○]

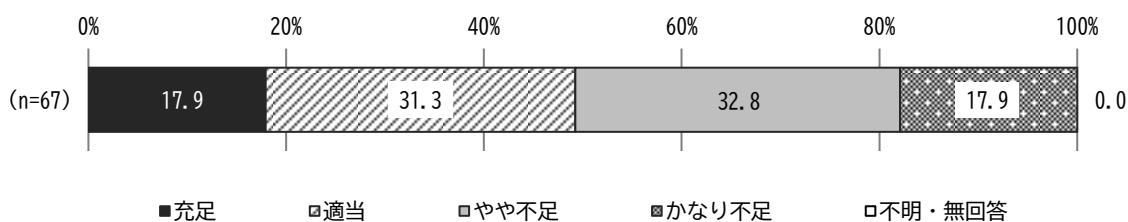
運営に関わる経費の収集方法については、全体で「補助金・助成金」が64.2%と最も高く、次いで「会費」が43.3%、「事業の収益」が25.4%となっています。



問11 活動を行う上での人材(メンバー・ボランティア等)の状況はいかがですか。

[○は1つだけ]

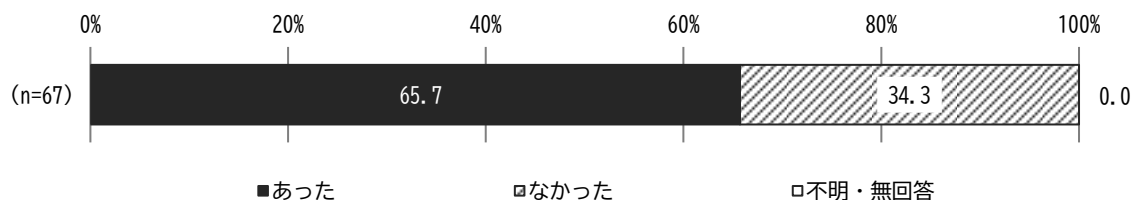
活動を行う上での人材の状況については、全体で「やや不足」が32.8%と最も高く、次いで「適当」が31.3%、「充足」「かなり不足」が17.9%となっています。



問 12 新型コロナウイルスの感染拡大により、活動への影響や変化はありましたか。

〔〇は1つだけ〕

新型コロナウイルスの感染拡大による活動への影響や変化の有無については、全体で「あった」が 65.7%、「なかった」が 34.3%となっています。



問 12で「あった」を選択した方

どのような影響や変化がありましたか。

主な内容（一部抜粋）
・野外を含め集まるイベントができなくなったこと。
・感染予防のため人が集まる活動ができず、団体での活動が休止してしまった。
・参加者が急に少なくなりました。
・会の活動が一時停止した。会員数が激減した。
・行事の縮小や取りやめ
・行事参加や行事開催の中止、販売や作業が減った。
・感染予防対策
・訪問できなかったので、オンラインでボランティアした。
・会場がかりられなかった。
・事業収益の減少

問 12で「あった」を選択した方

新型コロナウイルスによる影響を受けつつも活動を継続するために新たに取り組んだことや、工夫したことがあれば教えてください。

主な内容（一部抜粋）
・毎回の検温、手洗・うがいの励行。
・感染防止の徹底や、定期販売の強化を行った。
・オンラインの歌唱。
・スマホによる情報交換（LINEの活用）。
・活動を休止し、感染防止に務めたが、それ以上の取組等はない。
・職員体制を減らす。補助金、助成金を受ける。経費の削減。
・体調不良などがある場合は参加を控えるように毎回お知らせをした。
・集めることから出向くこと。その場でコミュニケーションをとること。

問12で「あった」を選択した方

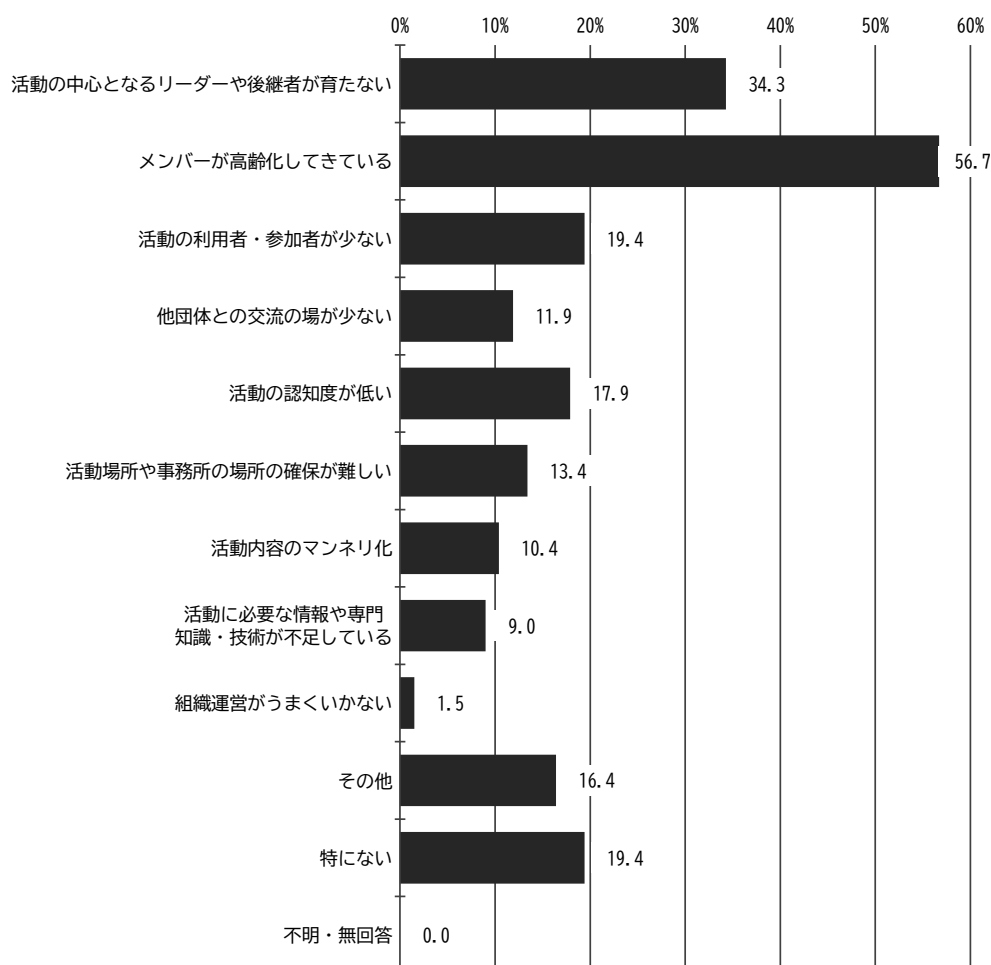
新型コロナウイルスによる影響は現在もありますか。ある場合は、どのような影響があるか教えてください。

主な内容（一部抜粋）
・高齢者宅を訪問するときは、必ずマスクを着用。コロナ以前には戻らない。
・現在も手洗いとマスク着用は続けている。職員もメンバーもよく守ってくれている。
・会員数が戻らない。（100名～60名現在）。
・規模は戻っていません
・行事等、時短や縮小したことが通常となりコロナ前には戻れない。
・ほとんどなくなりましたが、認知症施設は再開されてない。
・1度キャンセルになり数年間実施しないと、復活がむずかしい。前年度の申し送りが切れてしまうため。
・新しいボランティア受け入れが進まない。
・出向くことにより自力で茶話会等に参加できない方にも声かけができるようになった。

問13 活動を行う上での課題はありますか。[あてはまるもの全てに○]

活動を行う上での課題については、全体で「メンバーが高齢化してきている」が56.7%と最も高く、次いで「活動の中心となるリーダーや後継者が育たない」が34.3%、「活動の利用者・参加者が少ない」「特にない」が19.4%となっています。

(n=67)



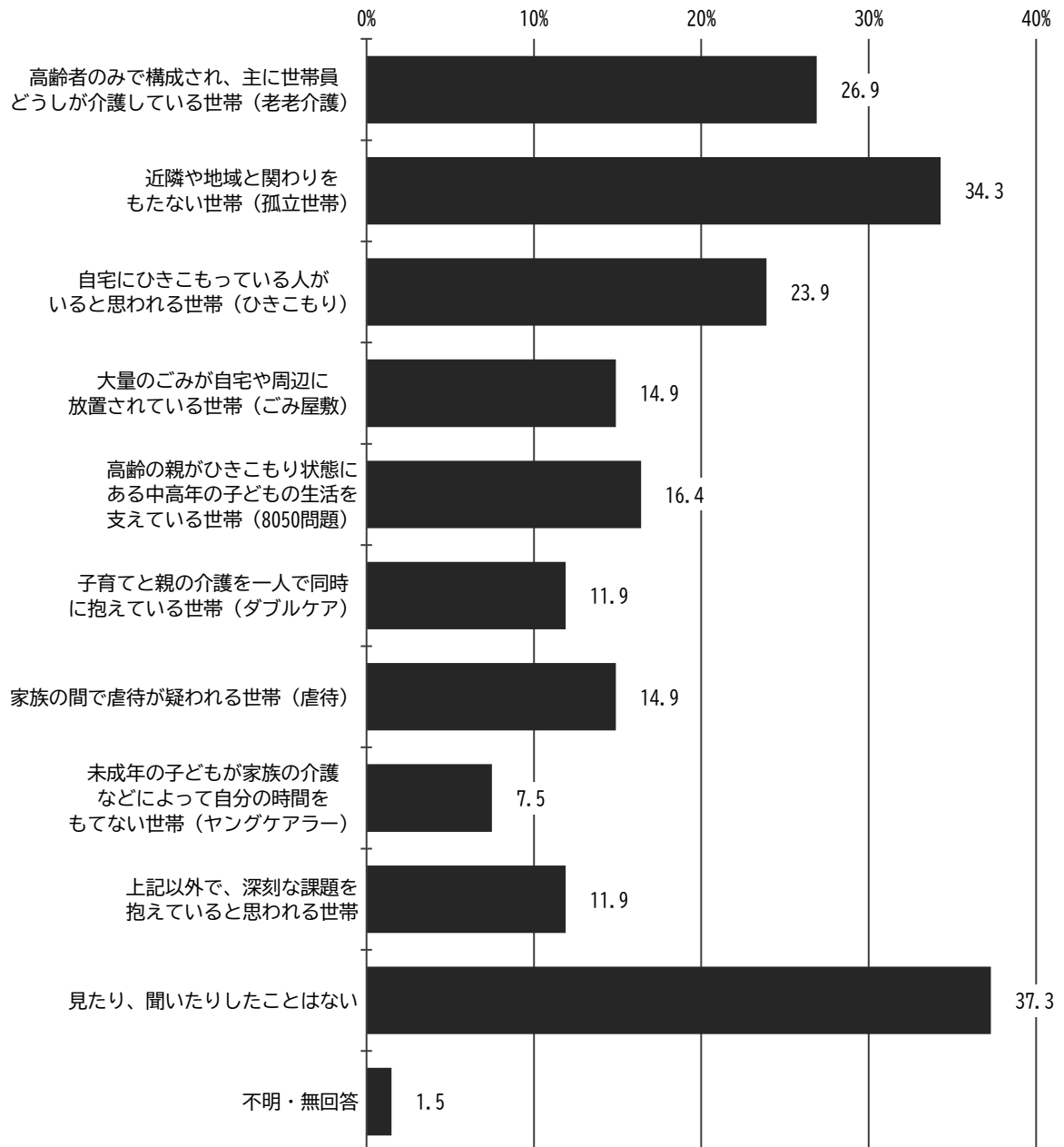
3 活動を通して見える地域の状況について

問 14 活動（事業）を通して、次のような世帯を見たり、聞いたりしたことがありますか。

〔あてはまるもの全てに○〕

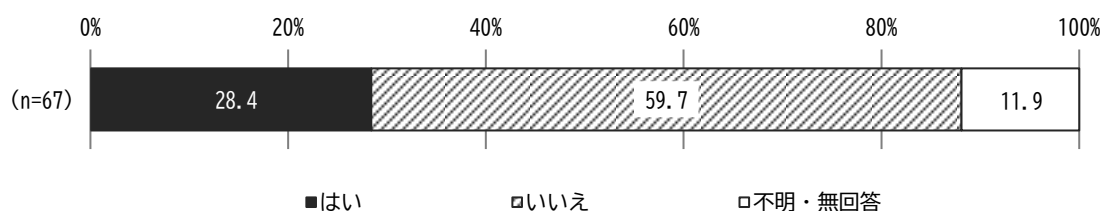
活動（事業）を通して関わる世帯の種類については、全体で「見たり、聞いたりしたことはない」が37.3%と最も高く、次いで「近隣や地域と関わりをもたない世帯（孤立世帯）」が34.3%、「高齢者のみで構成され、主に世帯員どうしが介護している世帯（老老介護）」が26.9%となっています。

(n=67)



問 15 問 14 に挙げている世帯を支援したことがありますか。[○は1つだけ]

特定の世帯を支援した経験の有無については、全体で「はい」が28.4%、「いいえ」が59.7%となっています。

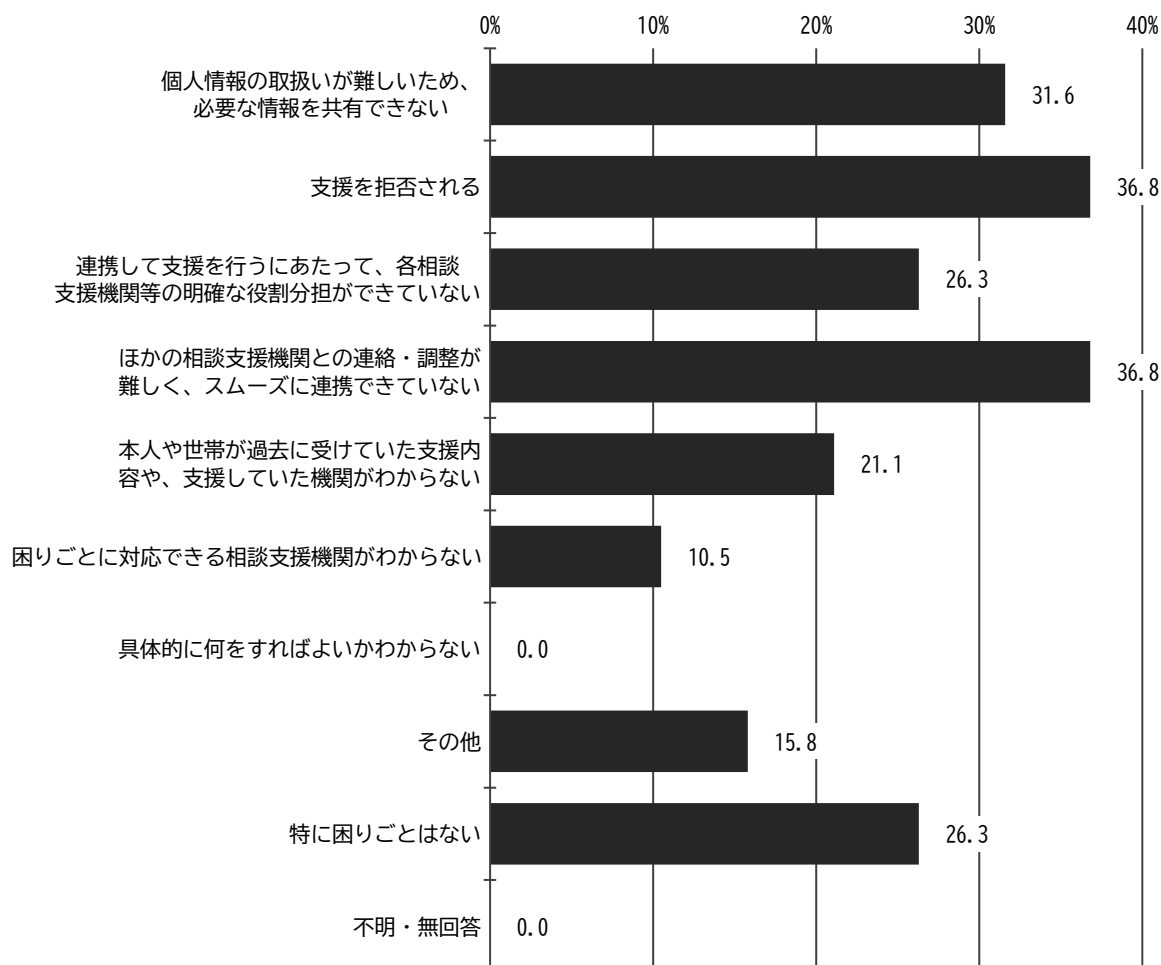


問 15 で「はい」を選択した方

問 15-1 支援している中でどのような困りごとがありましたか。[あてはまるもの全てに○]

支援している中での困りごとについては、全体で「支援を拒否される」「ほかの相談支援機関との連絡・調整が難しく、スムーズに連携できていない」が36.8%と最も高く、次いで「個人情報の取扱いが難しいため、必要な情報を共有できない」が31.6%となっています。

(n=19)

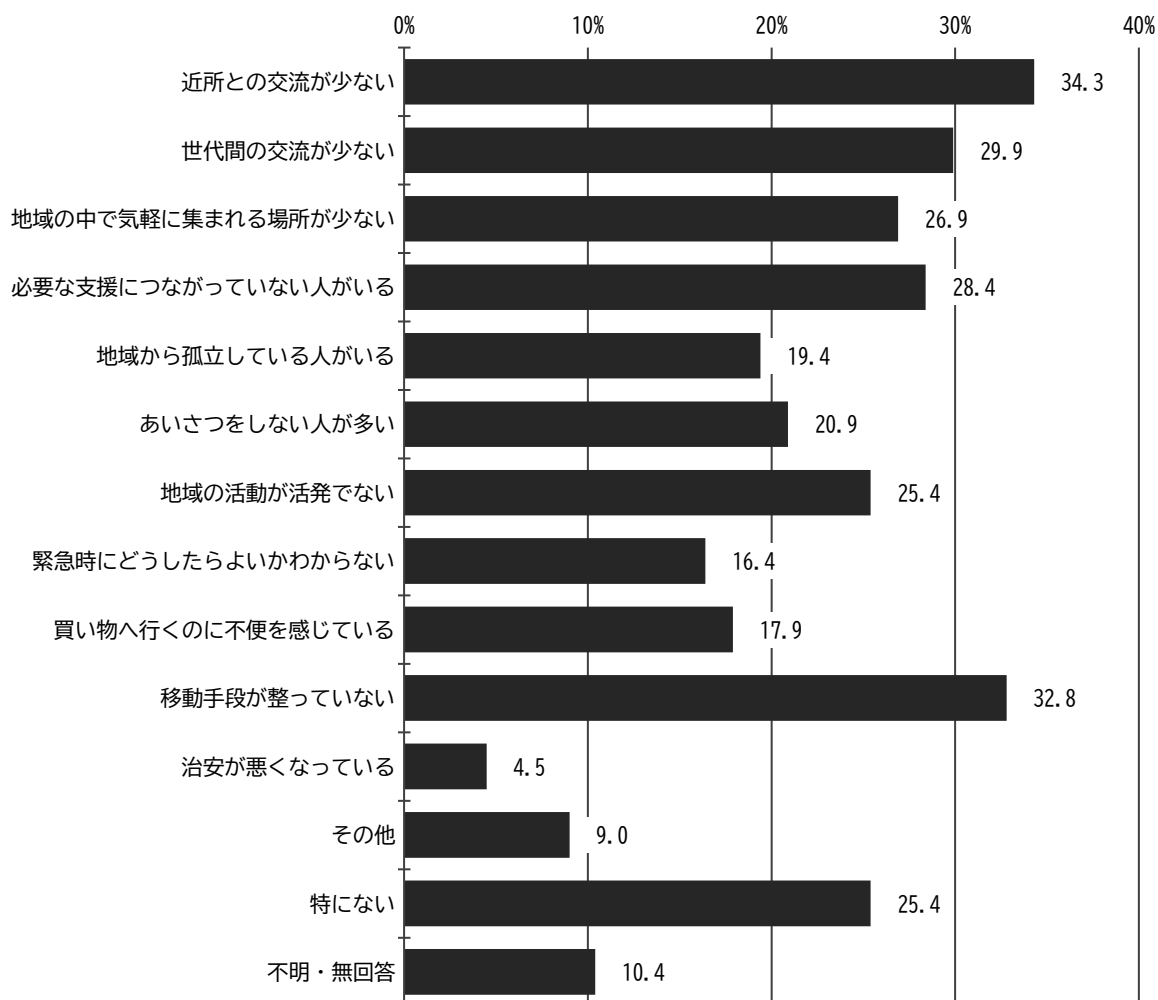


問 16 地域の中で課題に感じることや、活動（事業）を通してよく聞く困りごとは何ですか。

【あてはまるもの全てに○】

地域の中で課題に感じることや、活動（事業）を通してよく聞く困りごとについては、全体で「近所との交流が少ない」が34.3%と最も高く、次いで「移動手段が整っていない」が32.8%、「世代間の交流が少ない」が29.9%となっています。

(n=67)

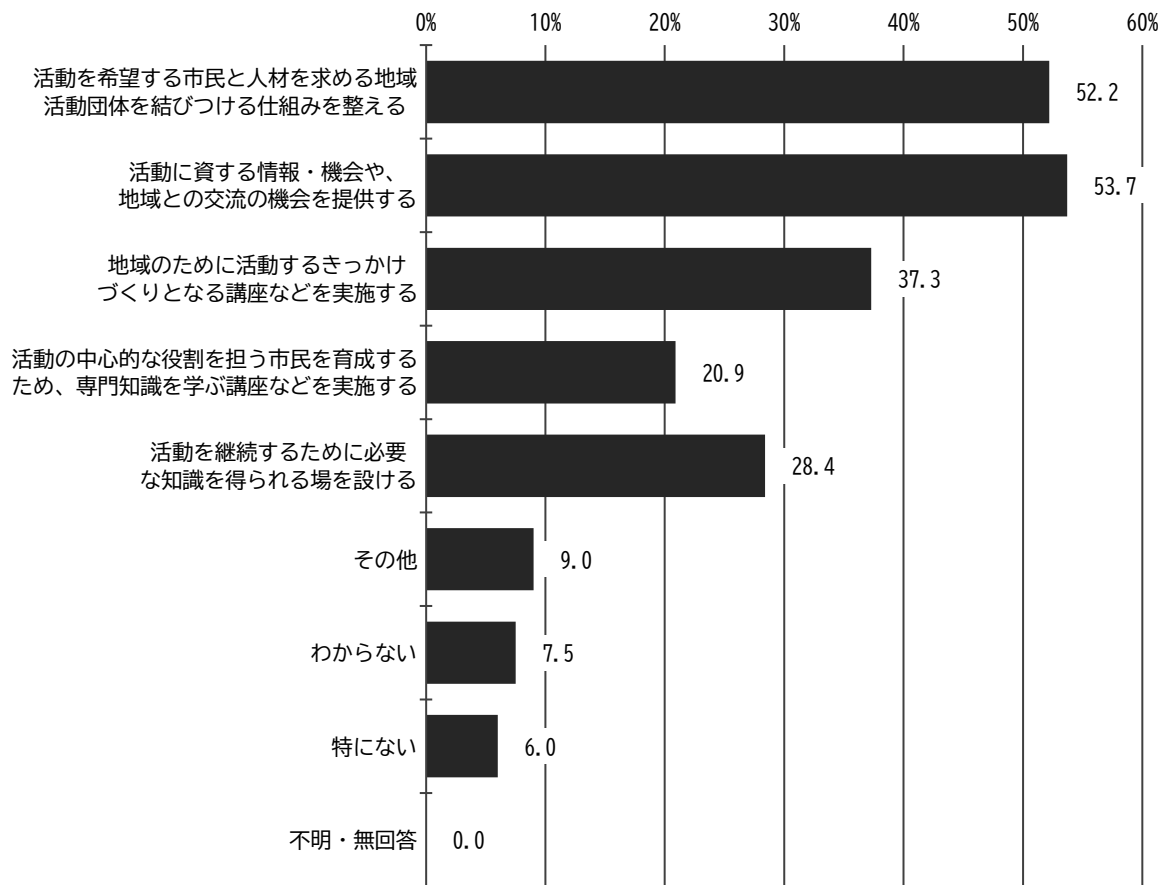


4 地域福祉に関することについて

問 17 地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、市はどのような取組をすすめるべきだと思いますか。[3つまでに○]

地域のために自ら活動しようとする市民（個人）を支援するために、すすめるべき市の取組については、全体で「活動に資する情報・機会や、地域との交流の機会を提供する」が53.7%と最も高く、次いで「活動を希望する市民と人材を求める地域活動団体を結びつける仕組みを整える」が52.2%、「地域のために活動するきっかけづくりとなる講座などを実施する」が37.3%となっています。

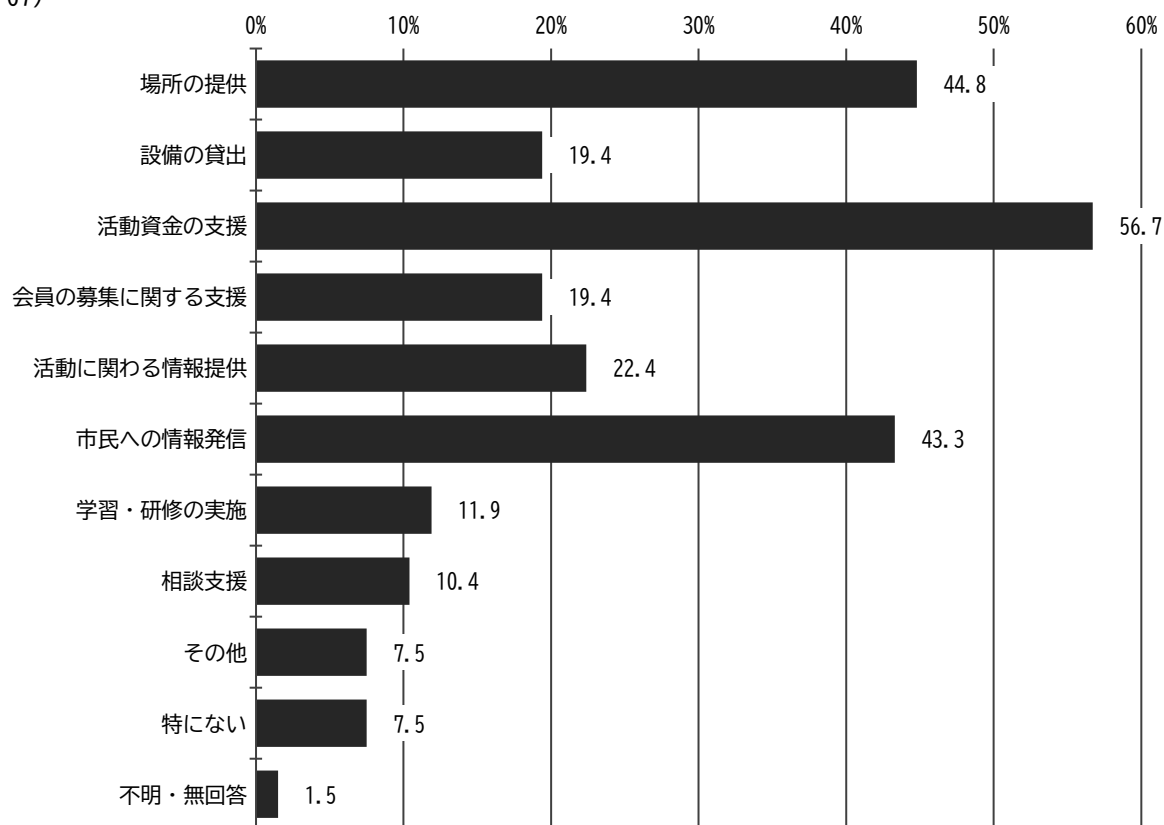
(n=67)



問 18 今後、活動を行うにあたって、行政からどのような支援が特に必要だと考えていますか。
[3つまでに○]

今後、活動を行うにあたって、特に必要な行政からの支援については、全体で「活動資金の支援」が56.7%と最も高く、次いで「場所の提供」が44.8%、「市民への情報発信」が43.3%となっています。

(n=67)

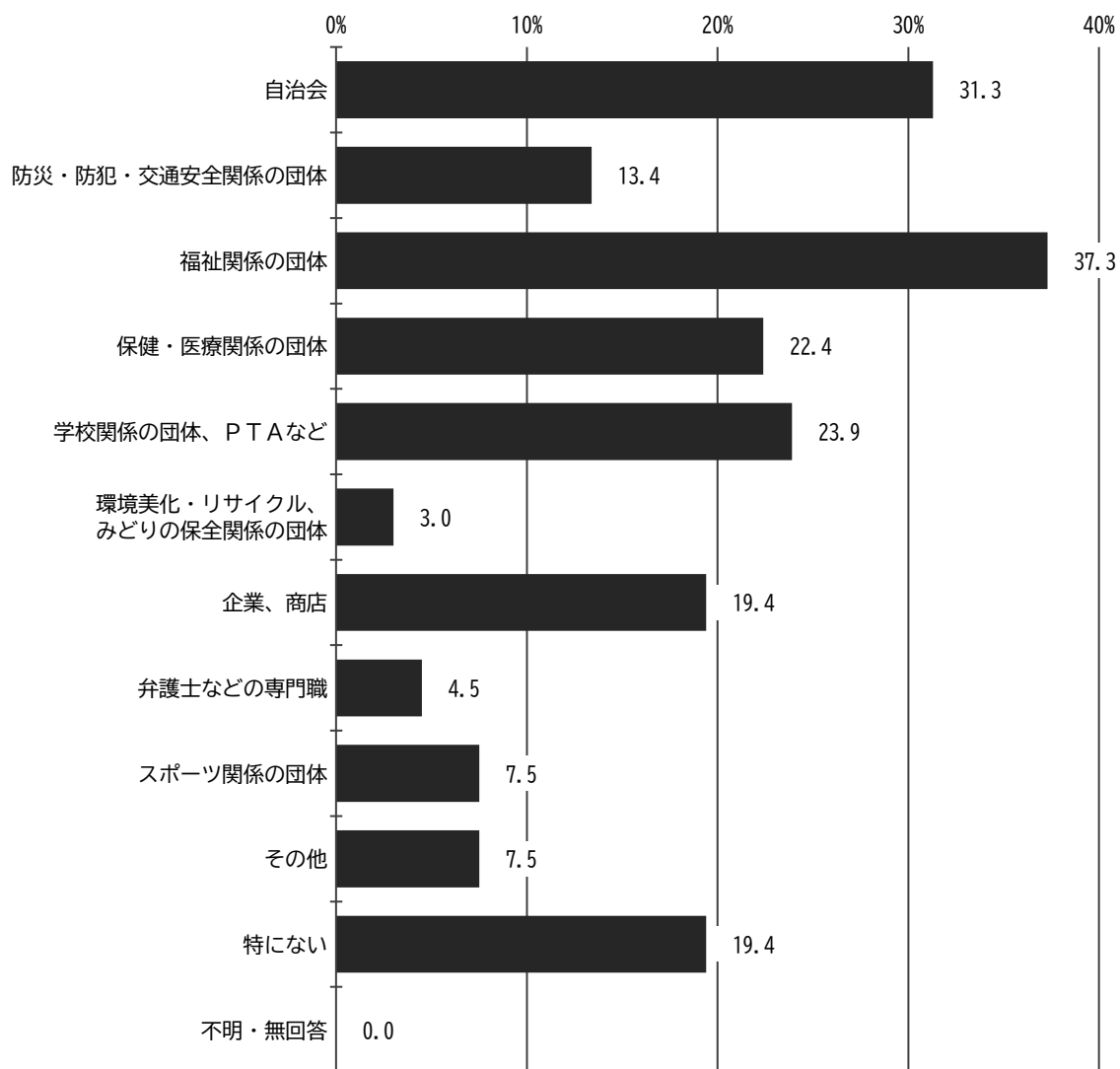


問 19 現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織はありますか。

【3つまでに○】

現在の活動（事業）をする上で、協力や連携をしたい団体や組織については、全体で「福祉関係の団体」が37.3%と最も高く、次いで「自治会」が31.3%、「学校関係の団体、PTAなど」が23.9%となっています。

(n=67)

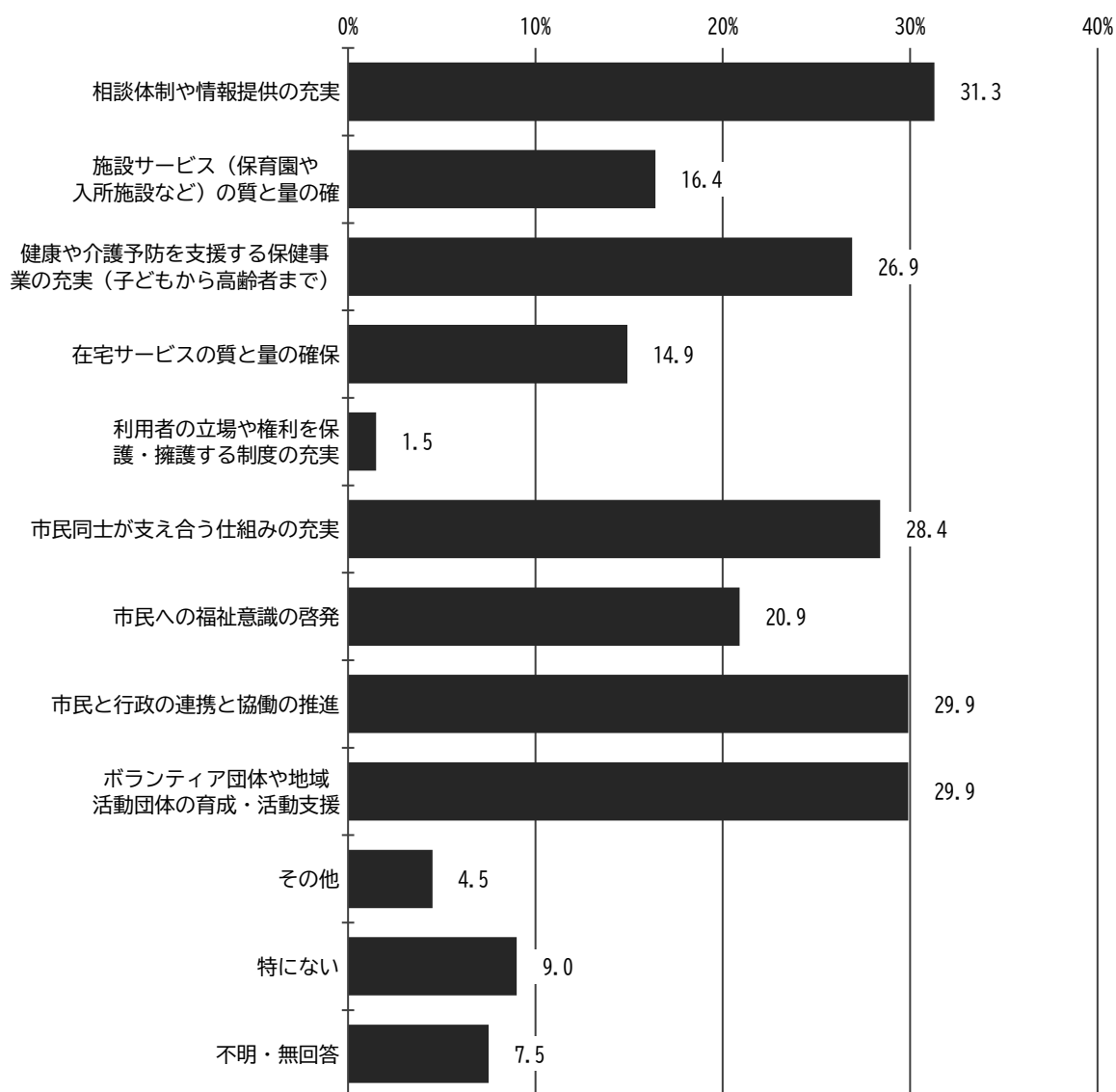


問 20 市の福祉サービスを充実していくために、特に重要と考える取組は何ですか。

[3つまでに○]

市の福祉サービスを充実していくために、特に重要と考える取組については、全体で「相談体制や情報提供の充実」が31.3%と最も高く、次いで「市民と行政の連携と協働の推進」「ボランティア団体や地域活動団体の育成・活動支援」が29.9%、「市民同士が支え合う仕組みの充実」が28.4%となっています。

(n=67)



問 21 貴団体が活動する際の問題点や課題がありましたら、簡潔にご記入ください。[自由記述]

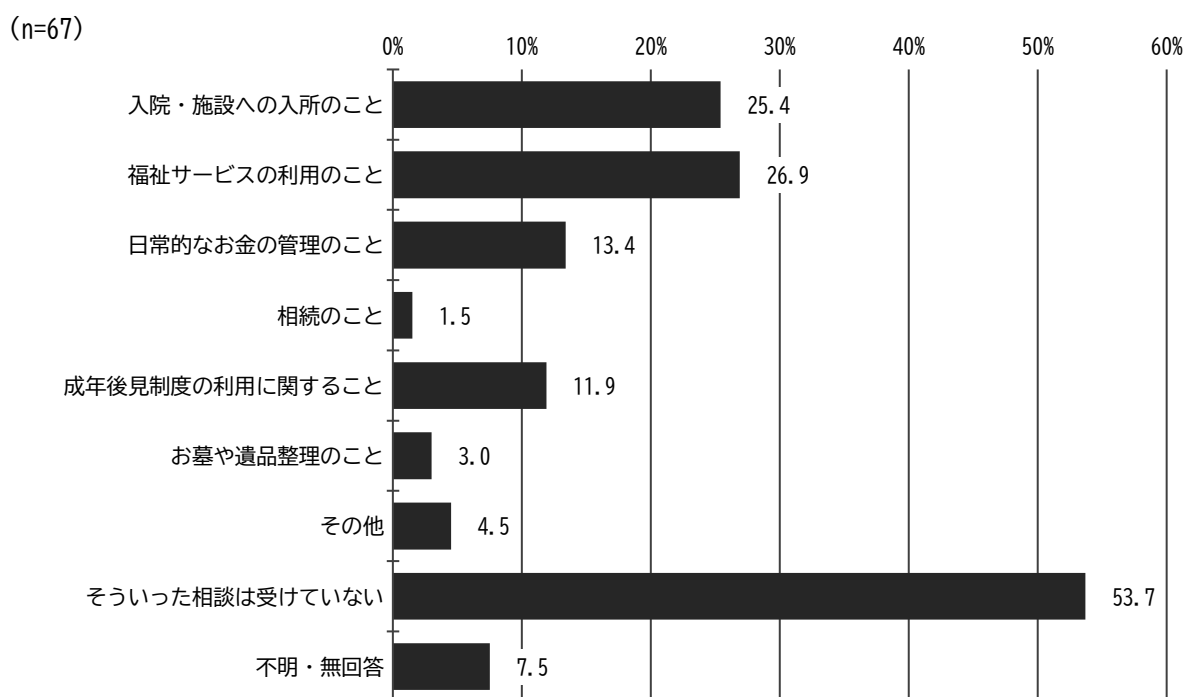
主な内容（一部抜粋）
・ なりて不足で人員確保が難しく、必要な訪問活動もできなくなる可能性大。
・ 会員の高齢化等につき活動が減少しており、新入会員増強に頑張っています。
・ 資金的安定を考えているが、子ども子育てに特化した活動なので利用料収入は見込めないこと。
・ 運営するスタッフの確保。運営資金の確保。
・ 年1回1日だけの開催なので、部屋数が多く必要。会場の確保が課題。
・ 建物の老朽化。
・ 高齢者が多いので、何かあった時に誰につなげてほしいか心配。電話での問い合わせで、残堀からバスで行きたいのにふれあいセンター近くに止まらないので行けないとあった。
・ 足の便が悪く、通うことへの足かせになっている。
・ 保育所として地域福祉の貢献のための地域ニーズの情報が欲しい。

5 権利擁護支援について

問 22 権利擁護に関して、活動の中で、どのような困りごとや相談が多いと感じますか。

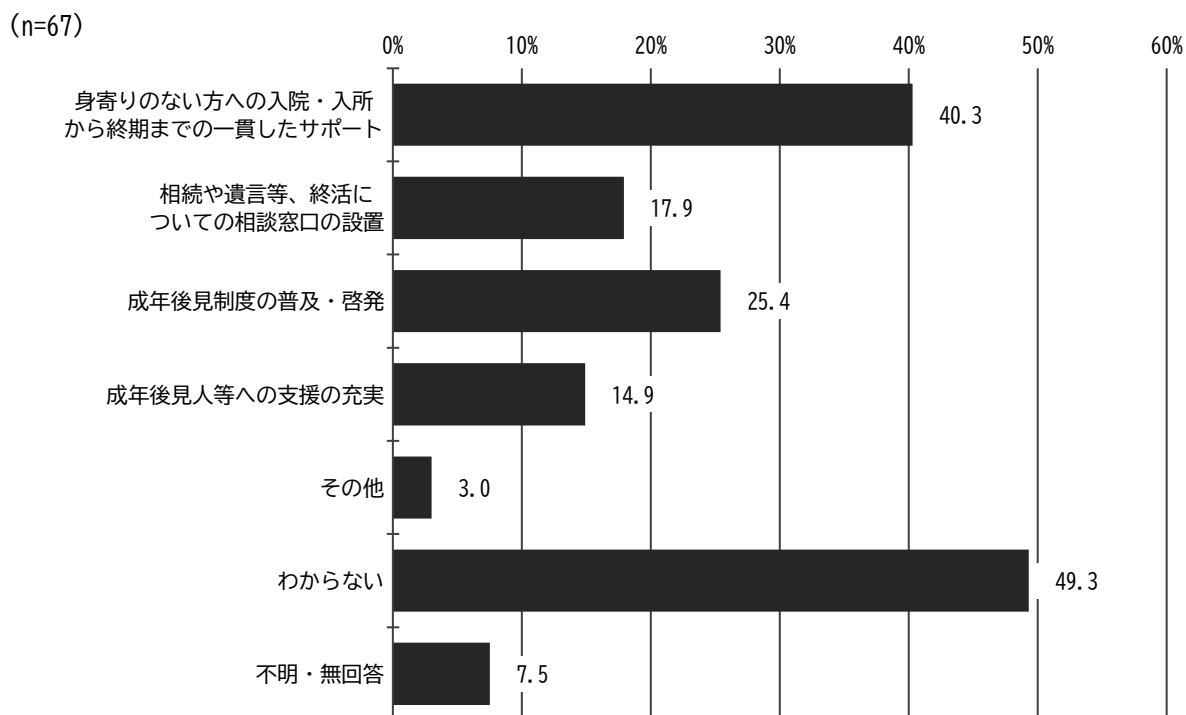
[あてはまるもの全てに○]

権利擁護に関して、活動の中で多く見られる困りごとや相談については、全体で「そういった相談は受けていない」が53.7%と最も高く、次いで「福祉サービスの利用のこと」が26.9%、「入院・施設への入所のこと」が25.4%となっています。



問 23 権利擁護支援について、今後どのような取組が必要だと感じますか。[3つまでに○]

権利擁護支援について、今後必要な取組については、全体で「わからない」が49.3%と最も高く、次いで「身寄りのない方への入院・入所から終期までの一貫したサポート」が40.3%、「成年後見制度の普及・啓発」が25.4%となっています。

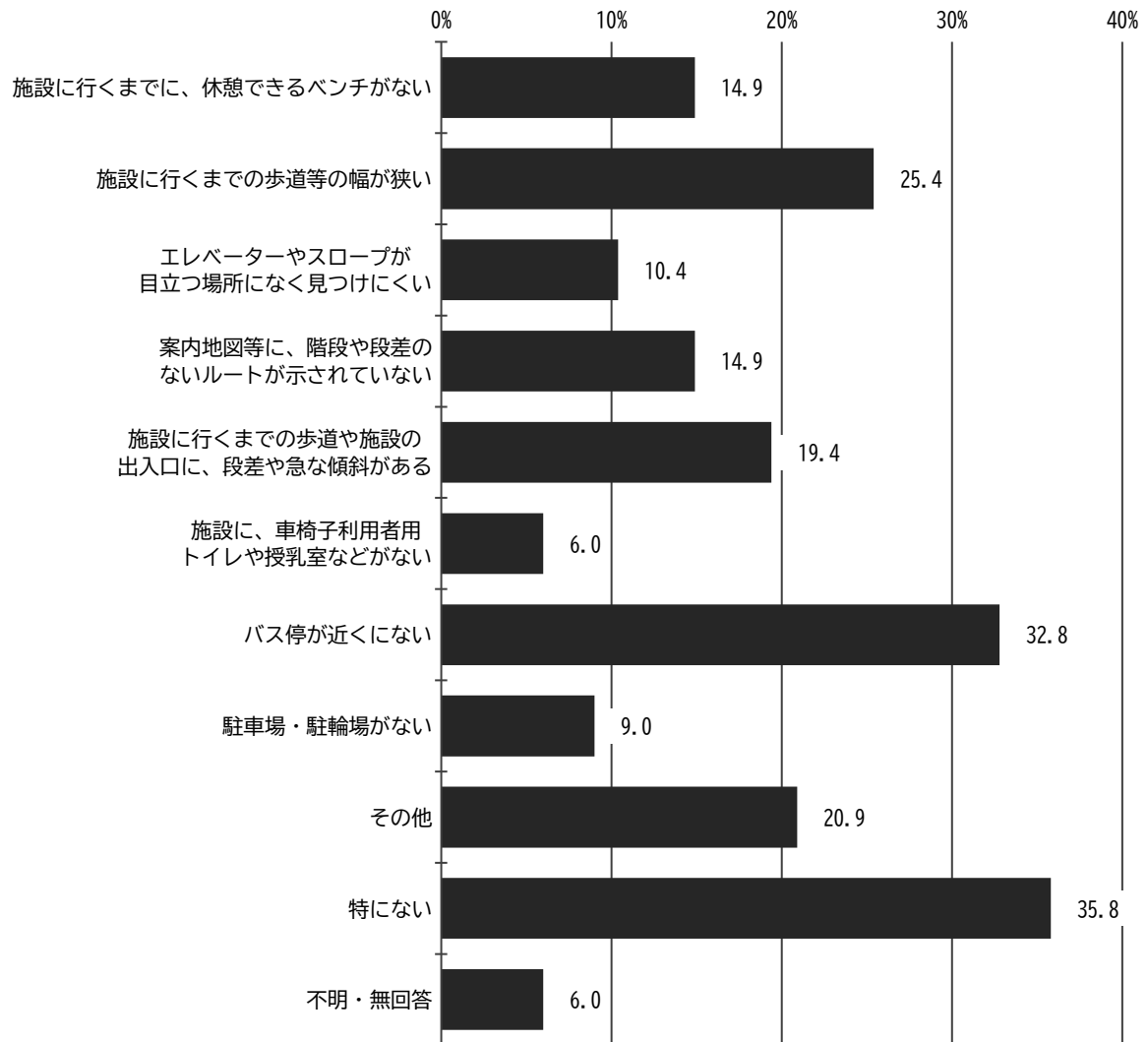


6 福祉のまちづくりについて

問 24 日頃市内の公共施設を利用する際に、どのような設備や案内などが不足していると感じますか。[あてはまるもの全てに○]

日頃市内の公共施設を利用する際に、不足している設備や案内については、全体で「特にない」が35.8%と最も高く、次いで「バス停が近くにない」が32.8%、「施設に行くまでの歩道等の幅が狭い」が25.4%となっています。

(n=67)



問 25 バリアフリー設備が難しい小規模施設等において、あるとよい設備、対応、サービスのアイデア・工夫をお聞かせください。[自由記述]

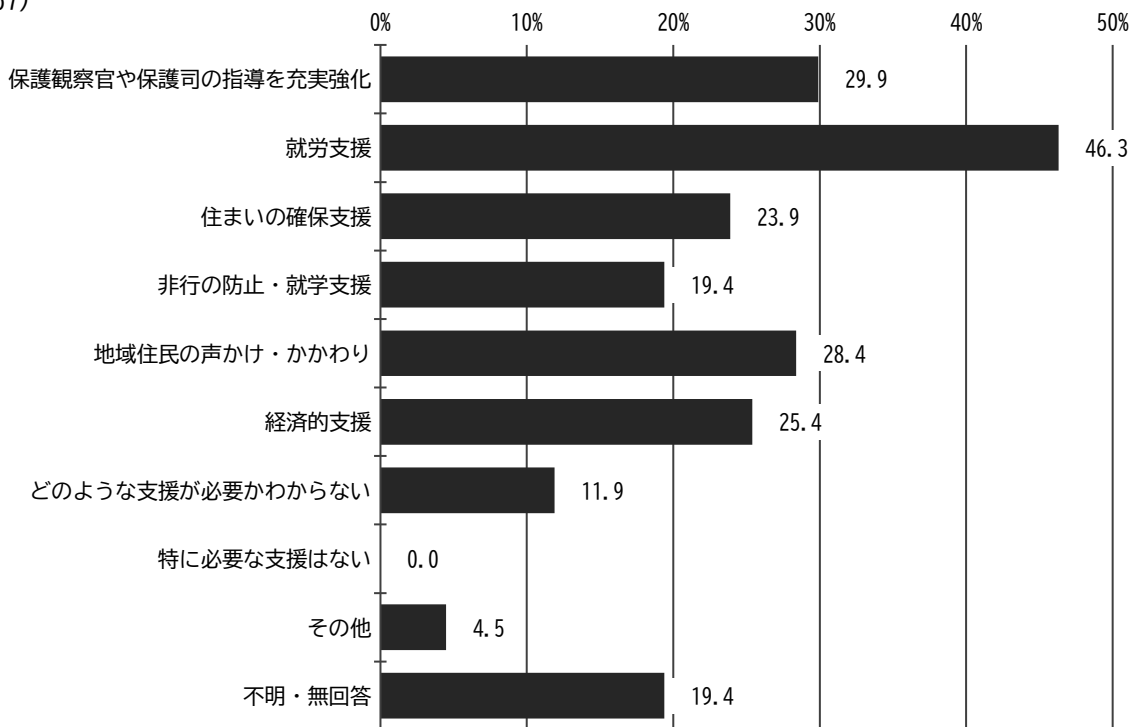
主な内容（一部抜粋）
・横断歩道を増やしてほしい。せまい歩道に電柱があると歩行が厳しい。
・エレベーターの設置。
・車椅子が通れる程度の歩道
・聞こえない人が見てわかるような情報（館内でのモニター文字情報等）が全施設にあった方がよい。全施設にWi-Fiを設置してほしい。
・移動をスムーズにする福祉用具の設置等。
・気軽に利用できる移動支援。例えば福祉サービスではなくお互いさまサービスなど。
・対応する人員を確保するための人件費補助。
・サービス提供のボランティア（職員だけでは直接サービス以外のサービスの提供が難しいことがあるから）
・最低限、スロープと手すりをつけて欲しい。トイレは洋式にしてほしい（ウォシュレット付）。公園のトイレで洋式化されてない所にはぜひ改善の工事を進めてほしい。

7 更生を支援するまちづくり（再犯防止）について

問 26 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすため、特に重要な支援は何だと思いますか。[3つまでに○]

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを応援し、社会復帰を果たすため、特に重要な支援については、全体で「就労支援」が46.3%と最も高く、次いで「保護観察官や保護司の指導を充実強化」が29.9%、「地域住民の声かけ・かかわり」が28.4%となっています。

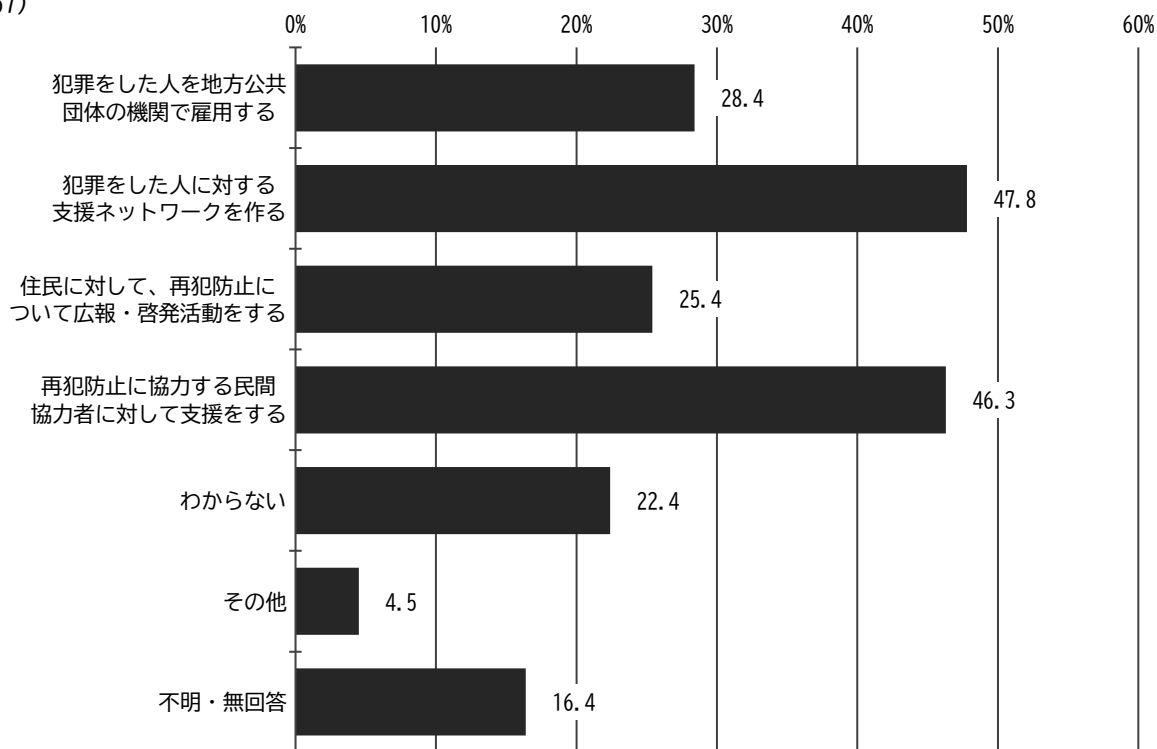
(n=67)



問 27 犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、地方公共団体はどのようなことをするべきだと思いますか。[3つまでに○]

犯罪や非行の防止、犯罪や非行をした人たちの更生を支援するために、地方公共団体が取り組むべき内容については、全体で「犯罪をした人に対する支援ネットワークを作る」が47.8%と最も高く、次いで「再犯防止に協力する民間協力者に対して支援をする」が46.3%、「犯罪をした人を地方公共団体の機関で雇用する」が28.4%となっています。

(n=67)



8 自由記述

本市の地域福祉に関わる施策や保健福祉サービスに関して、ご意見やご要望がありましたらお書きください。[自由記述]

主な内容（一部抜粋）
<ul style="list-style-type: none">・避難行動要支援者宅を訪問して、独居の方で長期間、生活の痕跡がみられない例があり今後高齢福祉課に現状を報告したい。できれば、高齢福祉課、福祉総務課、民生委員が情報を迅速に共有できないものか、コミュニティの崩壊で支援者がいない、孤立、孤独な方へ行政として一層の支援を望みます。
<ul style="list-style-type: none">・介護予防、他市より早めに取り組んで頂き大変ありがたいことと感謝しております。やはり行政の支えは大きいです。個人ではとてもとても及ばないです。心の「よりどころ」になります。年齢を重ねてきて大変な面もありますが、できる範囲で続けていけたら良いな、と思っています。後継者がなかなか育たないのが悩みでもあります。研修会の機会を増やしていこうとは思っています（実施中）。年齢を重ねてきますと今更…という想いもあるのだろうとは思われます。難しいです。本当に…。
<ul style="list-style-type: none">・サロン運営をしているが、あと2年間で補助金がなくなる。金額を半額にしても良いのでこのまま継続して欲しい。なくなってしまうと外部講師による体操講座等が全くできなくなってしまう。介護保険等のことを考えるとサロン運営により保険の利用者の減少に少しは役立っているのではないかとと思われる。
<ul style="list-style-type: none">・80才以上の1人住まいへのつながり。
<ul style="list-style-type: none">・市民の声、市内事業所的心声を聞く場が少ない。情報の共有（市と事業）ができていない。市議が動かないと課が動かないのは困る。市民が助からない制度を変えない、変えるまでも対応が遅い。子どもや障害に優しくない制度が多い。
<ul style="list-style-type: none">・障害と教育の連携できる場や機会を増やしてもらいたいです。例えば福祉のお仕事見学会や体験会をイベントとして実施して楽しく相互に関われるようなものがあれば理解が深まるのではないかと考えたりします。
<ul style="list-style-type: none">・少子高齢化や核家族化の進行と地域のつながりの希薄化など現状の福祉制度では対応しきれない問題が浮上している。地域コミュニティを支える人々への支援や個々の住民が行えること具体提示など「自分でもできること」「自分たちがやらなければならないこと」の見える化をしてほしい。
<ul style="list-style-type: none">・自治会や老人会等への加入率が低下し、地域のつながりが希薄化している。地域住民が気軽に交流できる場づくりが必要だと思う。また、公共施設も不足している地域があるため、空き家の活用支援があるとよい。

武蔵村山市
地域福祉計画策定に向けたアンケート調査
結果報告書

発行年月／令和8年3月

発行／武蔵村山市

編集／武蔵村山市 健康福祉部 福祉総務課 福祉総務係
〒208-8501

武蔵村山市本町一丁目1番地の1

TEL：042-565-1111（内線 152～154）